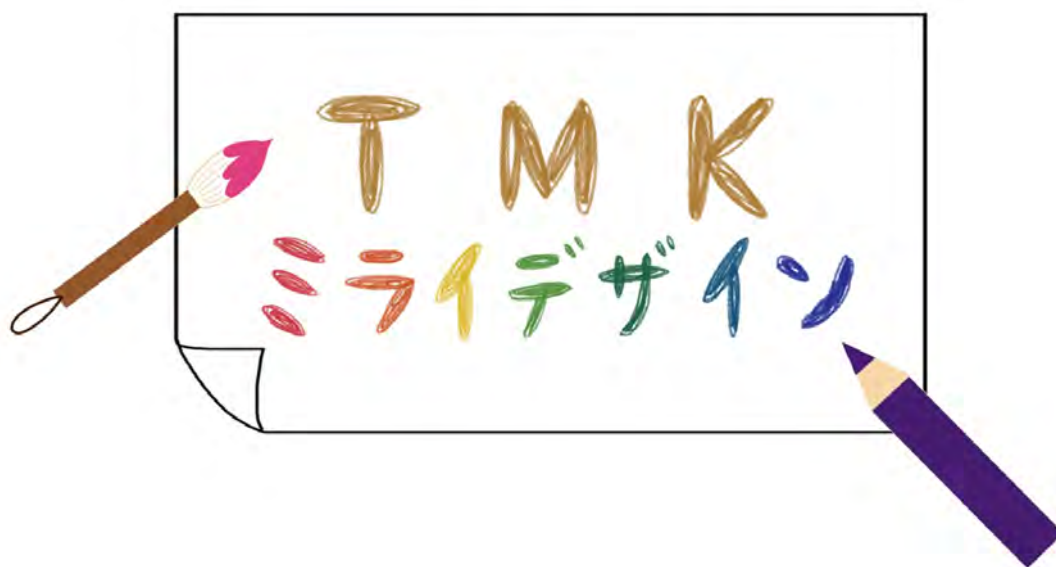


TMK ミライデザインプロジェクト

玉城町 令和4年度 第21号

玉城町明るい未来づくりに関する調査研究業務報告書



皇學館大学教育開発センター 准教授 池山敦

令和5年3月

はじめに

「コロナウィルスによる新型肺炎のニュースが世間を騒がせ、週明けより公立学校の休校の検討が行われている頃にこれを書いている。」

これが昨年提出した報告書の書き出しであった。あれから1年。これを書いている現在での国内の感染者数累計は実に440,580人となった。我が三重県では2,567人である(NHK2021)。新型感染症は我々の社会生活の多くの面に影響を与えた。それは、経済面であり、人と人のつながりの面でもあった。昨年からの1年間の間に2度の緊急事態宣言の発令を経て、会食の自粛要請、県境を超える移動の自粛要請などが数次に渡り行われ、我々の関心のあるところでは自治会などの地域の行事の多くが縮小、あるいは中止を余儀なくされた。ハリネズミのつがいはお互いの針で傷つけ合わない適切な距離を見つけるというが、私達も「ソーシャル」な距離を測りあった一年間であった。

(令和2年報告書「はじめに」より)

この囲みの部分は、昨年の本事業における報告書の書き出しであった。本稿を書いている令和4年3月7日現在で最新の新規陽性者数は昨日6日一日で556件であり¹、同日現在での国内感染者数の累計は実に、5,402,681人であり、この一年の間に10倍以上となった²。死者数は累計で24,951人である。この年での「新型コロナウイルス感染症」による死亡数は3,466で、10万人あたりの死亡率は2.8だという。ちなみに、同年における悪性新生物(腫瘍)による死亡数は378,356人であり、死亡率は307.0である³。このことから、ただちに新型コロナウイルスの脅威を凶ることはできないが、いずれにせよこの新型の感染症がなければ失われなかった多くの命が失われていることに変わりはなく、一つの命の重さはいつも地球よりも重い。

ウィルスのミクロの世界が、マクロの世界で地球規模に大きな影響を与える一方で、世界情勢はロシアのウクライナ侵攻により予断を許さない状況にある。本年2月24日にロシア軍がウクライナに侵攻した。

(令和3年報告書「はじめに」より)

幸いにも年を重ねて継続させていただいている本事業の報告書を毎年書くことが、こうして世界情勢をふりかえることになっている。上の2つの囲みは近年の本報告書の「はじめに」の書き出しである。思えば、新型コロナウイルス感染症は感染拡大から丸3年となり、この5月には5類への取り扱いの変更となり、筆者の勤務校においても卒業式などがコロナ前に近い形で実施されることがこの度決定された。ロシア・ウクライナ情勢については、

¹ https://www.pref.mie.lg.jp/YAKUMUS/HP/m0068000066_00062.htm

² <https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/data-all/>

³ <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai20/dl/gaikyouR2.pdf>

全く出口が見えず、1年以上に渡って戦争状態が続いている。その間に、隣国のミサイル発射は止まらず、というより頻度が増し、台湾海峡の有事も危惧されている。皮肉な見方をすれば、世界はいつもこのように「不安定状態に安定」しているのかもしれない。

世界情勢は変わり続けていく中で、あまり変わらないものもある。地域社会を支える地縁に基づくシステムは、変わることを拒否するかのように前例を踏襲し続ける。しかし、地域社会も人の認識をよそに、大きく高齢化が進み、人口減少も加速していつている。気がつかないうちに病状が進行するかのように変わっていく地域の姿の中で生活者はどのように自分たちの暮らしを「よいもの」にすることができるのか。

そこに注がれる眼差しは、「まちづくり」「福祉」「社会教育」など多岐にわたるが、一つひとつの視点で物事を前に進めていけるほど現代は単純ではない。それを束ね、3本の矢とすることが必要だ。行政システムの縦割りをこの「地域住民の暮らしをよいものにする」という視点で束ねる、そういった考え方が必要だと考えている。

令和5年3月
皇學館大学教育開発センター
准教授 池山敦

(1) プロジェクトの背景 (岡村地区)

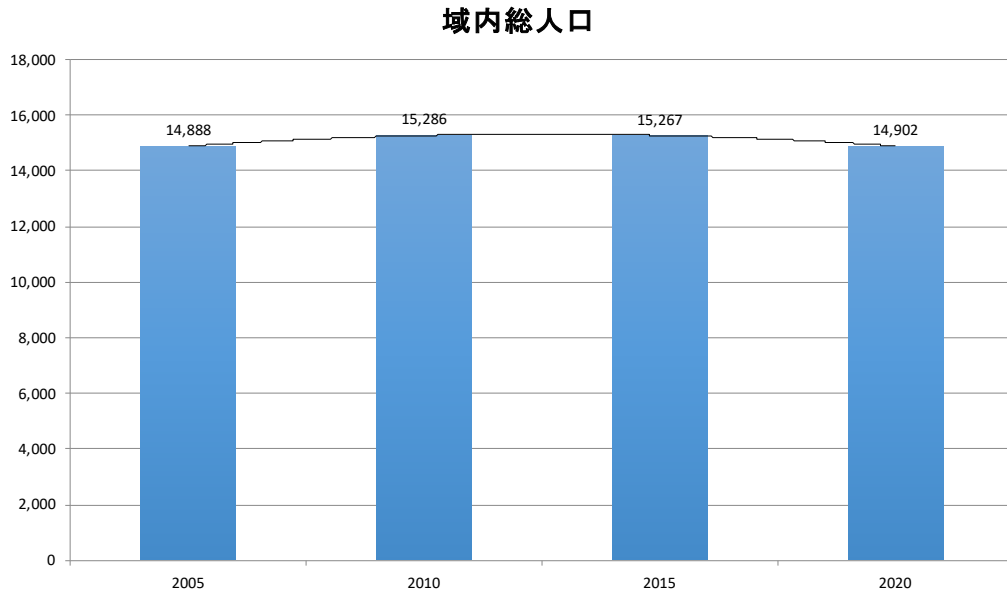


図 1 総人口推移 (国勢調査より、報告者作成)

玉城町は三重県の中ほどに位置する人口約 1 万 5 千人の町であり、昭和の合併で 1 町 (田丸町) 3 村 (東外城田村、下外城田村、有田村) が合併して現在の姿となっている。その 1 町 3 村はそのまま小学校区として現存しており、町を大きく 4 つに分けるエリアとして町民に現在も認識されている。平成の時代においては合併を行わず、単独で現在に至っている。農業が盛んな町であり、田丸城址をいただく歴史豊かな町でもある。近年、久野家の家老であった金森得水の手による「旧金森別邸玄甲舎 (茶室)」の修復が完了し、庭園整備及び集客観光施設が完成し、観光資源としても期待がされている。なお、玄甲舎は令和 2 年 6 月から一般公開されている¹。

2020 (令和 2) 年国勢調査の小地域集計をもとに報告者においてコーホート変化率法²により玉城町全体の人口の将来における推計を行ったものが図 1 である。2010 年頃にピークを打った玉城町の総人口はその後減少側面に入り、2020 年の国勢調査では 14,902 人であった。

図 2 は同じデータを用いて報告者において作成した玉城町における高齢化率に関する

¹ <https://kizuna.town.tamaki.mie.jp/sangyokanko/kanko/genkosha.html>

² コーホート変化率の方については、次のサイト等を参照のこと。

https://www.pref.mie.lg.jp/DATABOX/000217003_00011.htm

るものである。2020年現在、玉城町の高齢化率は28.6%であり、全国の28.8%³とほぼ同じである。しかし、やはり右肩上がりに上昇していること、加えて、後期高齢者

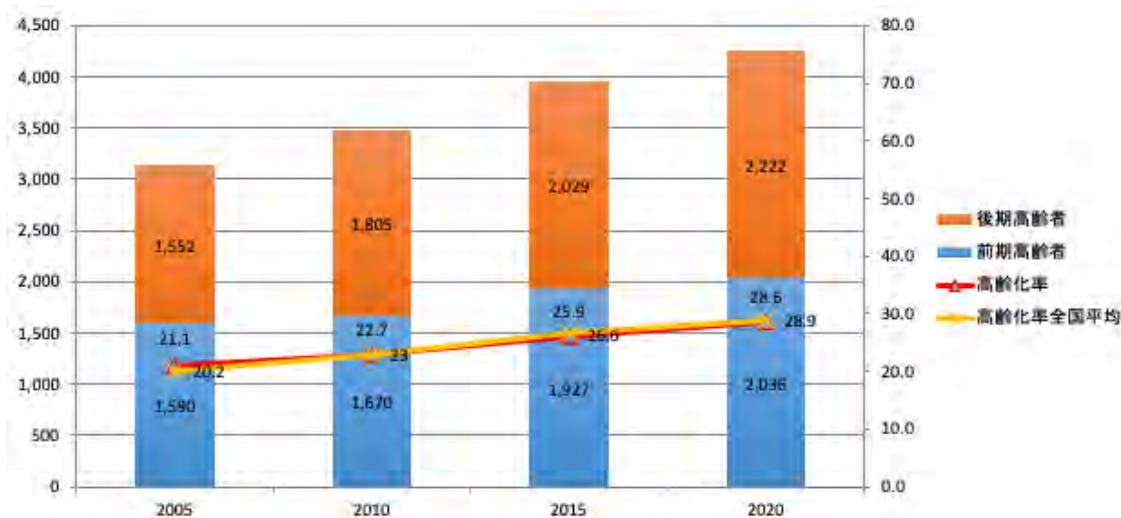


図2 玉城町における高齢化率

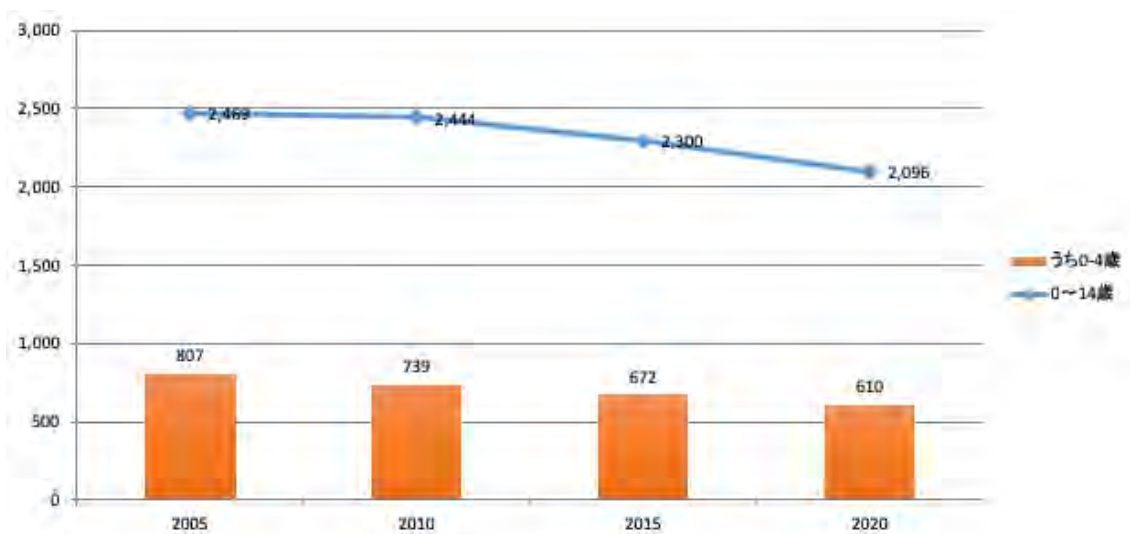


図3 玉城町における子どもの数

の比率（総高齢者の52.2%）が高まっていることが図からも読み取れる。

図3は同データから報告者が作成した玉城町内における子供の数であるが、0-14歳

³ https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2021/html/gaiyou/s1_1.html#:~:text=%E6%88%91%E3%81%8C%E5%9B%BD%E3%81%AE%E7%B7%8F%E4%BA%BA%E5%8F%A3%E3%81%AF,%E5%8C%96%E7%8E%87%EF%BC%89%E3%81%AF28.8%EF%BC%85%E3%80%82

の学年で15学年分で、2005年には2,469人（1学年平均164.6）であったものが、2020年には2,096人（1学年平均139.7人）となっている。特に、2020年においては0-4歳の5学年で1学年平均が122人となっており、新しい世代において特に減少が起きていることがわかる。

そんな中、本プロジェクトは平成30年に「下外城田地区明るい未来づくりに関する調査研究業務」としてスタートし、初年度に下外城田小学校区内の岩出地区、宮古地区においてワークショップ等を行った。翌令和元年度には同じく下外城田小学校区内の小社、曾根、山岡、昼田地区において実施した。そして一昨年度より事業名が「玉城町明るい未来づくりに関する調査研究業務」と改められ、対象範囲を下外城田地区に限定せず、玉城町全域に広げ、外城田小学校区にある山神地区、野篠地区で実施してきた。本年度は野篠地区でまちづくりアンケートを、岡村地区においてワークショップなどの活動を行った。岡村地区の地図を図4に示す。



図4 玉城町 岡村地区

岡村は「古くは岡依とも称した（玉城町史草）。伊勢平野南部、外城田川中流左岸部

の丘陵斜面に位置する。古墳時代の前村遺跡や方墳の岡村古墳のほかに東愛宕山遺跡・南堂遺跡・西浦遺跡・西広遺跡がある」とされている。また、当地は「用水は牛尾池を用いる。田丸城主の鷹狩の鷹飼料を諸役として納めてい」という⁴。地内には、慈照寺がある。

(2) 地域課題の「見える化」の取り組み（岡村地区）

① 背景

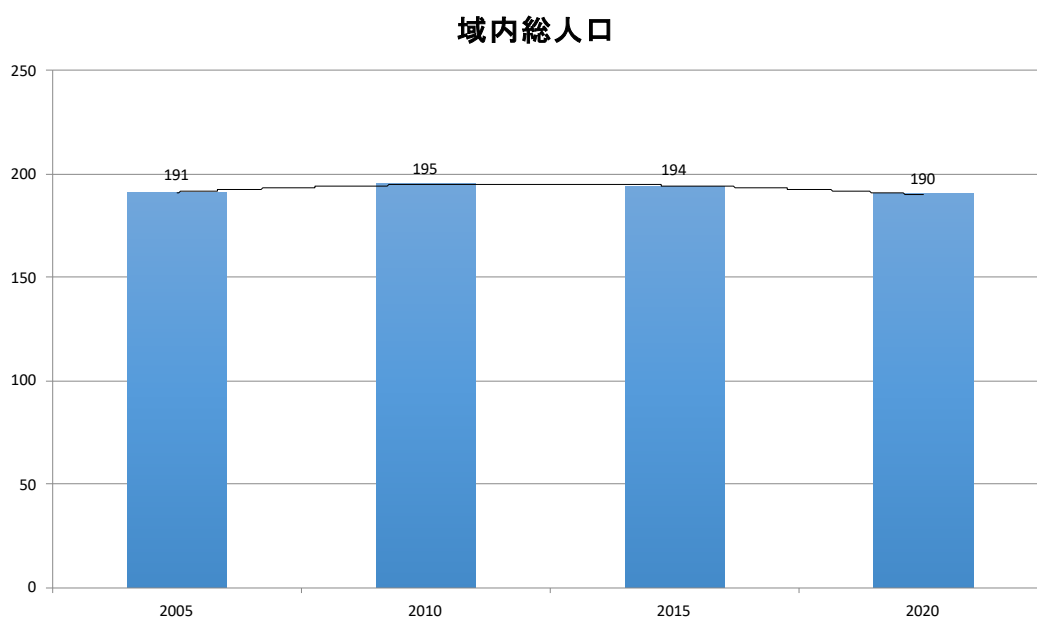


図5 岡村地区の人口

岡村地区における人口につき国勢調査の「町丁・字等別集計（小地域集計）」を元にグラフを作成した。岡村地区の人口推移のグラフは、玉城町全体のものと同じようなカーブを描いており、緩やかな人口減少カーブであることがわかる。しかし、レンジが200人弱ということもあり、今後事情によっては、急速なカーブに転じる可能性も否定できないであろう。図6は岡村地区の高齢化率であるが、玉城町全体よりやや高い31.6%であった。また、高齢者の中に占める後期高齢者の比率は43.3%であり、玉城町全体よりは低い、今後上昇することが予想される。

一方、岡村地区における子どもの数についてであるが、ここ20年は上昇している。ただ0-14歳としては増加しているが、0-4歳については、最新の2020年については減少していた。しかし、レンジについては10名前後ということであるので、一喜一憂することなく、見ていく必要があるだろう。

⁴ 「角川日本地名大辞典」編纂委員会、竹内理三、編. 1983. 角川日本地名大辞典 24：三重県. 角川書店、275

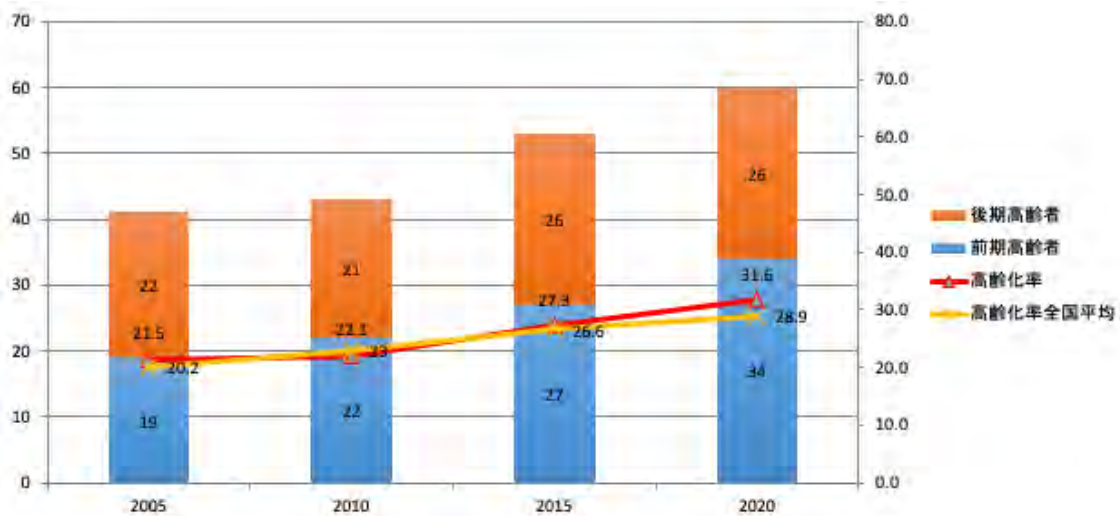


図6 岡村地区の高齢化率

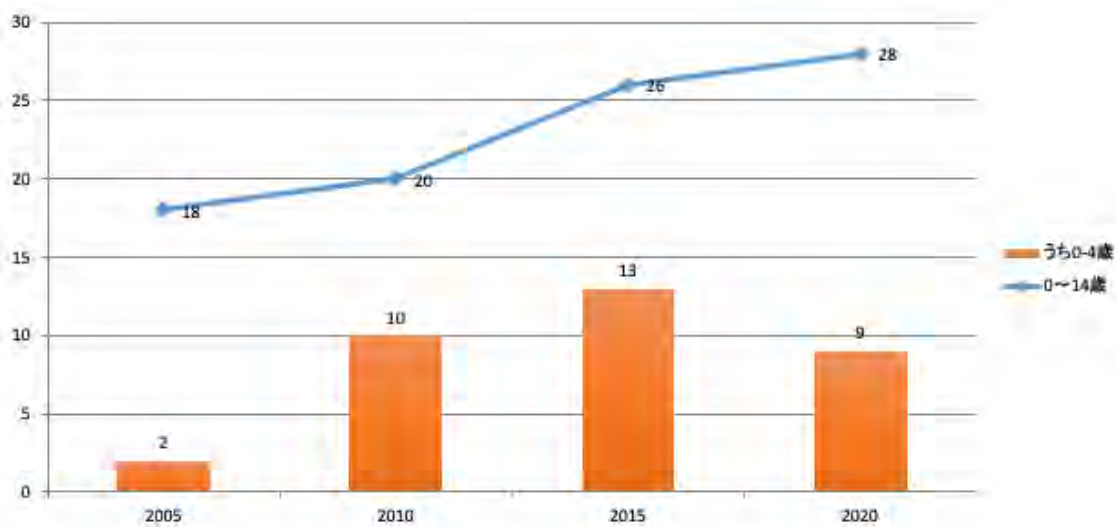


図7 岡村地区の子どもの数

図8は玉城町のため池ハザードマップの抜粋⁵であるが、上記において触れたように、この地区は用水として比較的大規模な「牛尾（崎）池」を利用している。そちらの堤防決壊の際に周辺の田地は浸水の可能性がある。しかし、これも上記の通り、集落は丘陵の上に位置しており、メインとなる集落には浸水はなさそうである。しかし、本地区においても若干裾野にスプロールした部分もあり、浸水の危険がないわけではない。

⁵ <https://kizuna.town.tamaki.mie.jp/bosaibohan/bosai/documents/P15-16.pdf>



図8 岡村地区のため池ハザードマップ

このように、本研究の基本コンセプトとして「地域課題の見える化」があり、本年度も地域課題、特に地理情報の解析及び図示のために GIS ソフトを活用した。GIS は Geographic Information System の略であり地理情報をレイヤーとして重ねることにより図示し、あるいはその地理情報をシステム内で解析することができる。後に述べる地形モデルへの情報のプロジェクションマッピングの際のデータ作成にも GIS を活用しており、報告者の研究室では具体的には ESRI の ArcGIS Pro を利用している。

② 住民ワークショップの実施

詳しい情報は、巻末のワークショップ⁶報告に譲るが、上述のような背景を考慮し、岡村地区においてWSを実施した。それは、大きくは「地形模型WS」と「地域課題見える化・まちあるきWS」の2回で、それぞれ表1のような目的で行った。

表1 WSの内容・目的

WSの種類	内容・目的
地形模型WS	地形模型をもとに、住民各自が持っている情報（歴史、文化、自宅、生活等）を模型上にプロットすることにより、地域の現状や資源、課題を空間的に把握、共有する。
地域課題見える化WS	アプリ、地形模型や航空写真等をもとに地域空間における地域課題を見える化し、共有するとともに住民同士の対話を行う。
まちあるきWS	住民、高齢者、大人と子供が実際に地域を歩くことで、地域資源を改めて発見し、対話を行うことで連帯を強化する。

A) 地形模型WS



図9 反り防止の補強

ここに感謝を申し上げる。本年は、完成間近の模型をもとに子どもたちにも作業

地形模型WSにおいて使用する模型については模型については、岡村地区を1/1,000のスケールで再現した。等高線ピッチは2m（2mの高低差が模型上で2mmとなる）とした。模型の設計と技術アドバイスを委託している合同会社人・まち・住まい研究所の協力により完成させることができた。また、制作にあたっては研究補助アルバイトの皇學館大学生の努力がなくては完成しなかつ

⁶ 以下、WSと省略する。



図 10 岡村地区模型原図

をしてもらい模型を完成させるというプロセスを数年ぶりに実施することができた。

近年は感染症対応で控えていたものである。

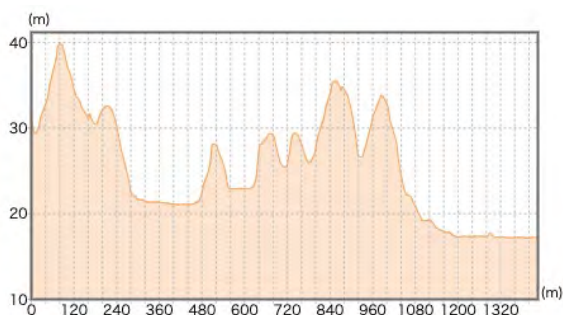


図 11 岡村地区 高低差

今年度の対象地区である岡村地区は図 11 の通りの断面の高低差となるが、最も高低差が大きいところでも 20m 程度である。これを 1/1,000 スケールによると、2cm となり、薄い模型ということになる。これまでの模型作成の経験から、薄い模型は糊を貼り付けた面とそうでない面で反りが生じてしまうことがわかってきた。この点について、前出の設

計者である合同会社人まち住まいと検討した結果、プラスチック製のダンボール（通称プラダン）を繊維の方向を変えて、2層に貼り付けることで強度を増すとともに、ソリ対策を行った（図 9）。



図 12 模型 WS の様子

このような経緯で作成した模型を用い、令和 4 年 10 月 15 日に立体地図作りワークショップ(模型 WS)を実施した。詳細は文末の WS 報告をご参照いただきたいが、子どもたちに模型の最終工程を担ってもらい、模型を完成させて上で、この地区の面白いところを付箋紙に書き出し貼ってもらう、といった内容で実施した。

B)地域課題見える化 WS

次に地域課題見える化 WS を実施した。これまでは、WEB アプリ「マチシルクエスト」をバージョンアップして行ってきたが、バージョンアップが今後難しいことも念頭に、今年度は新しいツールを作成することとした。様々検討した結果、これまでデジタルで行っていたものをアナログのゲームで行えないか、ということでカードゲームの作成を行った。年度初めから、皇學館大学と包括連携協定を締結している近隣高等教育機関である鳥羽商船高等専門学校の授業「PBL3」の履修生徒 2 名、本学の地域活動である CLL 活動参加学生 1 名とともに、地域課題についてカードゲームの形式で対話することができるゲーム「マッ



図 13 皇學館大学学術リポジトリ

「(街)・カード」を制作した。本ゲームは皇學館大学学術リポジトリに登録され、広く公開された。

上述の通り、本カードの作成は鳥羽商船高等専門学校における授業の一環として行われ、PBL (課題解決型授業) の報告会において報告された。また、本学地域活動の一環として学生も参加しており、本学主催の「伊勢志摩定住自立圏共生学教育プログラム学修成果発表会」において報告が行われた。

WS では、鳥羽商船高等専門学校の学生により説明とデモが行われ、参加者はゲームを通じて地域のことを話し合っていた (図 15)。

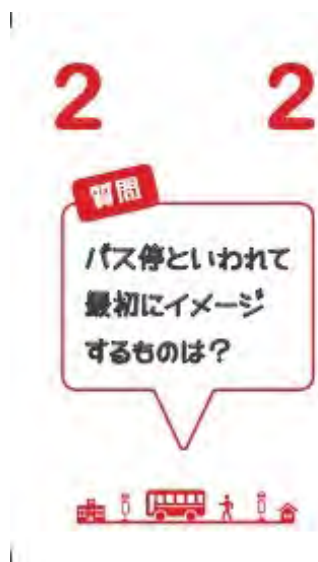


図 14 カードの例



図 15 カードゲームの様子

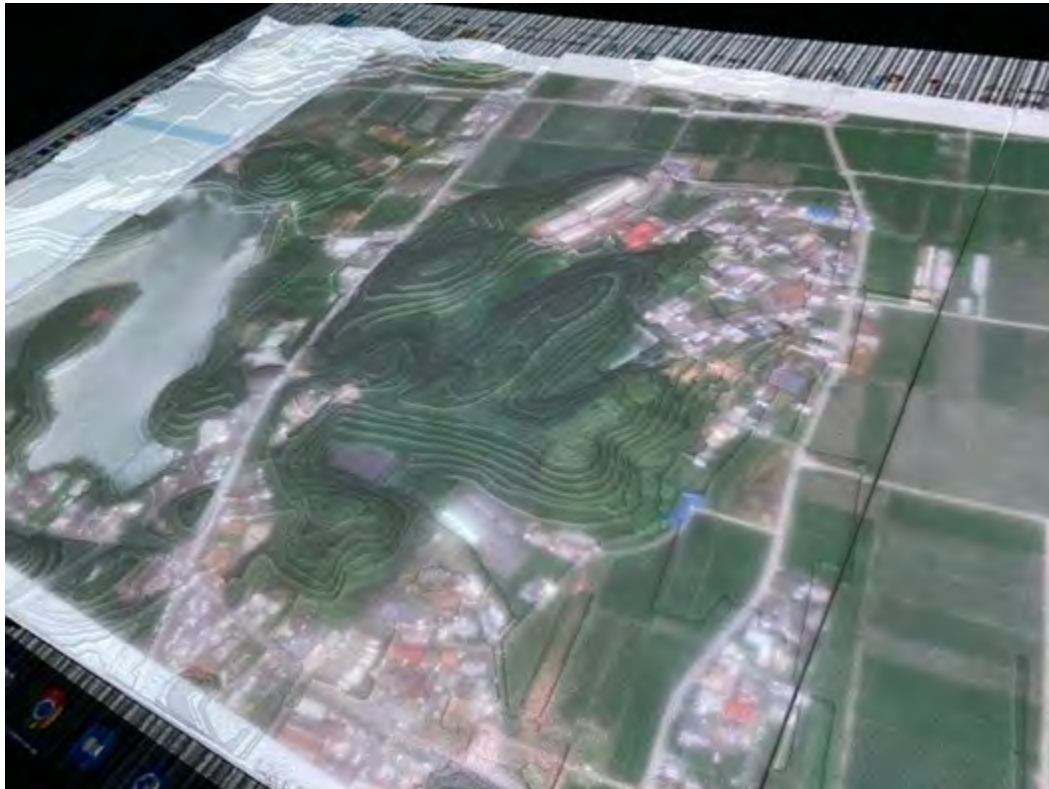


図 16 地形模型へのプロジェクションマッピング

続いて、地域課題の見える化として、これまでも本研究では地理情報を地形模型に投影することにより、立体視を可能とし地域情報のさらなる「見える化」に取り組んできた。

今回の WS でもプロジェクションマッピングによる実演を行ったところ、とても熱心にご議論をいただいた。前述の通り、ため池ハザードマップを投影することで、浸水エリアの確認などを行った。その他、WS の内容については、巻末の資料を参照いただきたい。

C) まちあるき

図 17、18、19 まちあるきの様子



図 16 廃止されたため池

地域課題見える化 WS と同時開催⁷で地域のまちあるきを行った。前述の通り、岡村地区の災害上の懸案としては、溜池堤防決壊シナリオがあるが、それに関して近年、地区内にある小さなため池 2 つを廃止した、というトピックがあった。そのため、まちあるきで子どもたちとその場所を巡ってみよう、というテーマを設定した。この 2 つの溜池は、地域の灌漑という役割を終え、子どもたちにとっての危険ポイントとして認識されていたものであるが、地縁組織からの働きかけにより、近年廃止になったものである。子どもたちだけでなく、大人も「こんなところがあったのだね」といった話に花を咲かせながらのまちあるきとなった(図 17)。



図 17 廃止されたため池の底を歩く

⁷ マチシルクエストのプレイの後にまちあるきを行い、戻ったあと休憩しながらプロジェクトマップの実演と対話を行った。

(3) まちづくりアンケート

項目	内容
地域	野篠地区
配布	109 世帯 257 通
対象	中学生以上男女
回収数/配布数	89/259 (34.6%)

表2 まちづくりアンケート概要

本研究では昨年度までに支援を行った野篠地区において中学生以上の住民全員を対象とする「まちづくりアンケート」調査を実施した。設問は資料編に添付している質問用紙を参照されたい。

調査方法については、郵送配布し、報告者の勤務先大学への回収を行った。概要は表1の通りである。

① 日常生活における困りごと

本年度は野篠地区においてまちづくりアンケートを実施し、表2の通りの概要であったが、小さな集落であるため、集落単体での結果の掘り下げということよりも、前年度までに実施した地域との比較を中心に分析を行った。これまでに調査を行った地域は表3のとおりである。

調査年度	地区
令和2年度	小社、曾根、山岡、昼田
令和元年度	宮古、岩出

表3 過去のまちづくりアンケート

設問の中に「日常生活において不安に感じていること、困っていることはありますか？当てはまるものをいくつでもお答えください。」という設問がある。その設問に対する回答につき比較したときに、今回

の調査対象である野篠地区に特徴的な部分についてそれぞれ見ていく(図18)。また、具体的な設問は図19に示す。

もっとも多い困りごとは「農地山林の維持管理」である。これまでの調査の平均よりはやや少ないが、もっとも多い。もともと農村集落から、周辺地域にスプロールしていった野篠地区としては、新来の住民と旧来の住民との融合に問題があると捉えているが、こちらの困りごとについては、やはり旧来の農村の住民を中心とした部分であると考えられる。

次に、災害への備えを不安・困りごととしてあげた人が多かった。これは、これまでの調査平均と比較しても多い事がグラフから分かる。詳細は昨年の報告書をご参照いただきたいが、野篠地区は本年度の岡村地区と似て、丘陵地にあり大きな災害の不安はないと思われるが、それでも住民は近年の大規模災害の頻発などもあり、災害への備えを不安・困りごととしてあげていた。また、野篠地区は未だ自主防災組織の結成が行われておらず、その点でも今後検討の余地があると考えられる。

最後に移動手段であるが、野篠地区は比較的近隣のスーパーや薬局などに近い、と筆者などは考えるのであるが、それでも歩いて買い物に行き重い商品を持って帰れるような距離

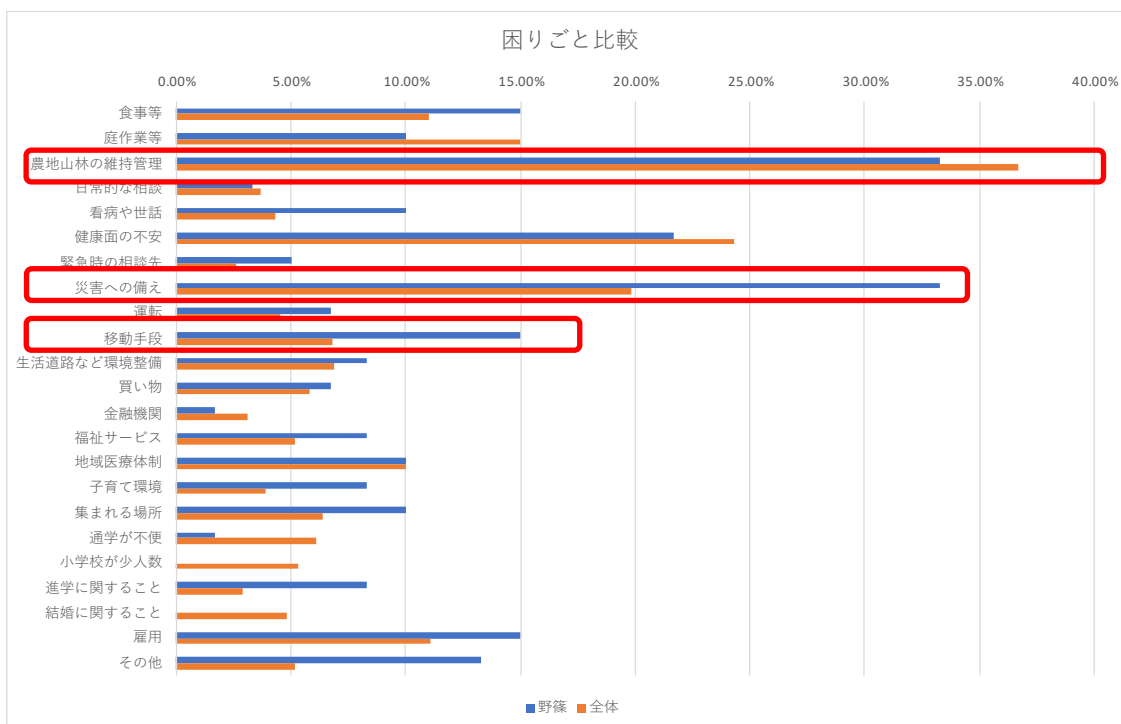


図 18 困りごとの比較

ではない。やはり、地方において「交通」という問題は大きな論点であることが今一度感じられた結果であった。

続けて地域活動への関心及び参加の度合いについてである。野篠地区においては地域活動への関心についてはこれまでの調査と大きな違いは見られず 50%台後半の方が興味関心あり、と回答している。しかし、地域活動への参加については、10 ポイント程度これまでの調査の平均よりも参加+どちらかという参加の層が多い。詳細は昨年報告書に詳しいが、こちらの地域については新来、旧来の住民の融合が課題となっており、そのことについてのお互いの自覚があることも影響しているかもしれない。

その時、どのような理由から地域活動に参加しますか？という質問に対してこれまでの調査と比較して特徴的であった部分については、その理由として「知り合いや仲間が増えるから」という回答がこれまでの調査と比較して多い傾向があった。他の回答については、特に目立った違いは見られなかった (図 21)。

反対に参加しない理由についての結果が注目に値する。反対に不参加の理由を尋ねたところ「知り合いがいないから」という回答がこれまでの調査に対し、圧倒的に多いことである。これは、これまで述べたとおり、この地区は居住地がスプロールしたことにより新たな住民が流入している事が一つの原因であると考えられる。つまり、旧来の住民及び、参加できている住民については「知り合いや仲間が増えるから」地域活動に参加しているが、「知り合いがいないから」参加していない、という住民も他地区に比較して多いという結果である。この状況を考えると、新たな住民が地域活動に参加できる「きっかけづくり」が求められて



図 20 地域活動への関心、参加

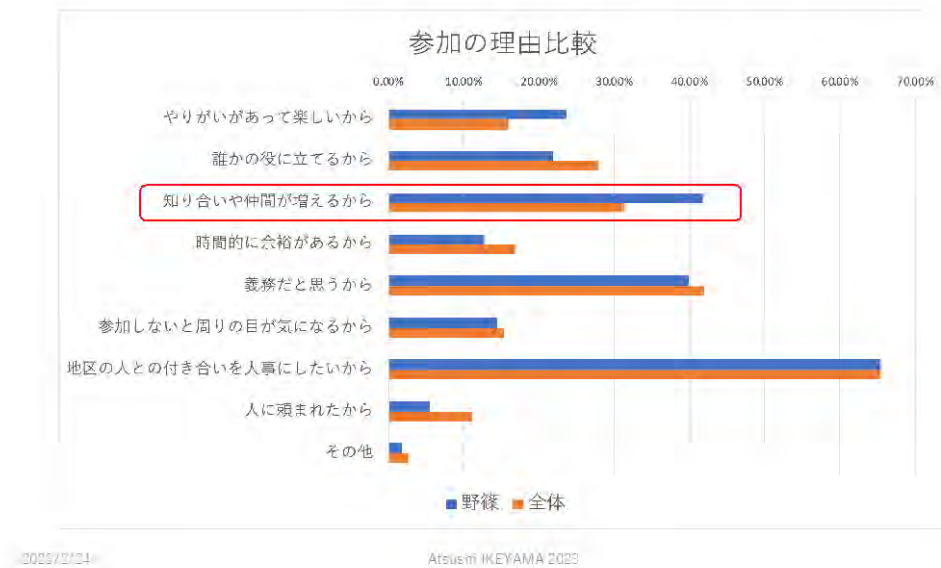
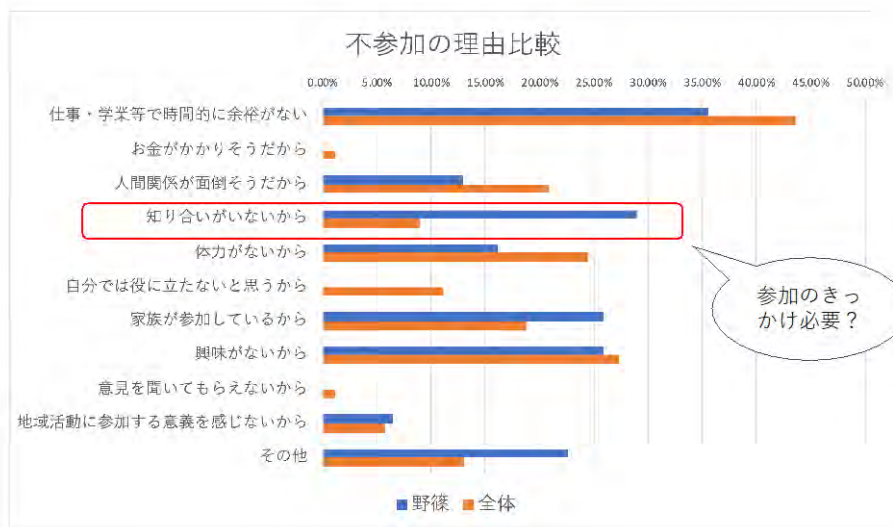


図 21 参加の理由

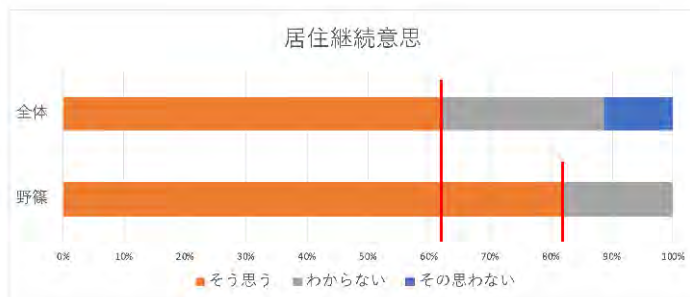


2023/2/24

Atsushi IKEYAMA 2023

6

図 22 不参加の理由



2023/2/24

Atsushi IKEYAMA 2023

9

図 23 居住継続意思・次世代の居住継続希望

最後に、「あなたはこの地域に住み続けたいですが」という設問と「あなたは自分の子供にもこの地域に住み続けてほしいですか」という設問を設けている。そちらについてであるが、野篠地区では「自分が」住み続けたいという希望は 20 ポイント程度これまでの調査よりも高かった。これは特筆すべき結果であると考えられる。しかし、「自分の子供に」住み

続けてほしいですか、という設問に対してであるが、通常ここではポイントが下がるもの
はあるが、これまでの調査よりも下げ幅が大きいという結果になった。これについては、同
解釈するかは今後の調査も必要ではあるが、着目しておきたいと考える。

(4) 玉城町コミュニティのあり方研究会

表4 玉城町コミュニティのあり方研究会 委員

委員 (50 音順)	所属・専門等
浅見雅之氏	合同会社人まち住まい研究所代表社員・NPO 法人神戸まちづくり研究所事務局長 (まちづくり支援、災害復興支援・防災)
池山敦	座長・皇學館大学教育開発センター准教授 (コミュニティ政策、ファシリテーション)
石丸隆彦氏	特定非営利活動法人Mブリッジ・まちづくり コーディネーター (地域支援・課題解決)
伊藤純子氏	静岡県立大学助教 (保健指導、公衆衛生)
中井一文氏	鳥羽商船高等専門学校准教授 (ICT、DX)
名取良樹氏	玉城町地域おこし企業人・面白法人カヤック ディレクター (移住マッチングサービス等企 画運営等)
橋本大樹氏	一般社団法人東北まちラボ代表 (災害被災コ ミュニティ支援、集落支援)

昨年度より有識者による「玉城町コミュニティのあり方研究会」を組織し、昨年度5回、今年度は研究会を4回開催した。これは、今後の玉城町のコミュニティのあり方を全国で活躍する地域支援者の方々や学識経験者を委員にお迎えし、玉城町の現状を分析し将来に向けての取組の方向性などを検討するものである。研究会のメンバーは表4のとおりである。研究会は4回開催し、それぞれの開催の内容については巻末に議事録をご覧頂きたい。なお、研究会は感染状況に関わらず玉城町総務政策課及び座長以外の委員はオンライン参加で開催された。今年度は大きなテーマとして、本研究会からの提案をまとめることを目指した。提案の詳細については巻末資料の提案書をご参照いただきたい。研究会ではこれまで

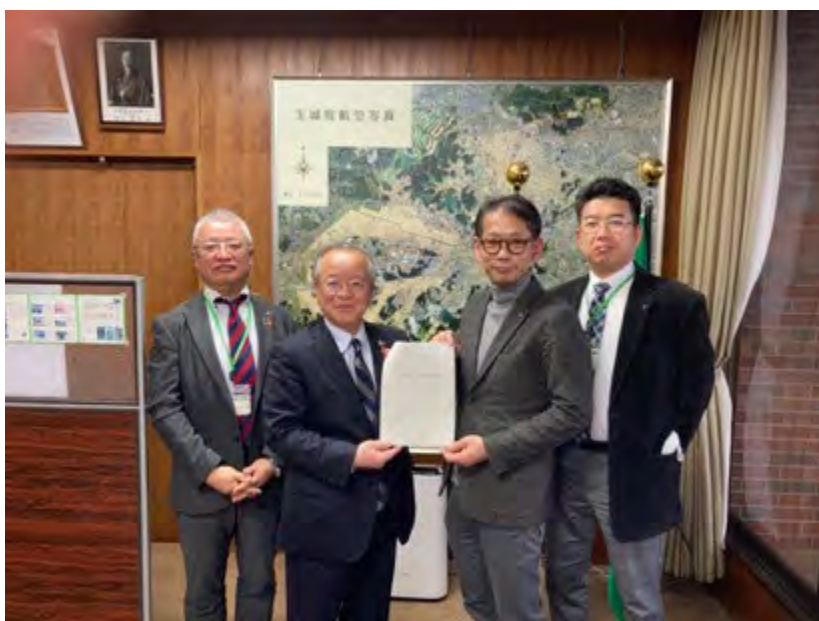


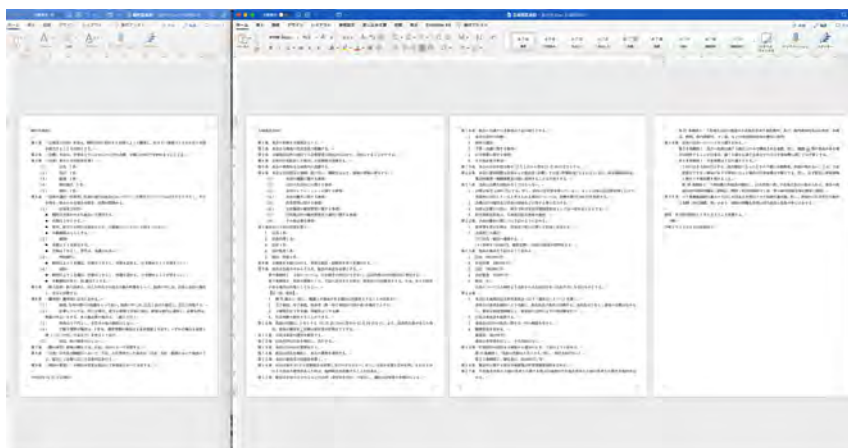
図24 研究会の提案の提出

で、地域空間には「地縁によるつながり」と「目的別 (趣味・楽しみなど) のつながり」の2つが必ず必要であると考えており、その網目が重層的に重なることによって、こぼれ落ち

てしまう人をなくすことができると考えてきた。玉城町における現状と課題を特定した上で、この2つのつながりを保ち続けることを目指し、提案をまとめた。まとめた提案は玉城町に提出した。

(4) 自治区調査

規約調査



912 : 2322 2倍以上の差

図 25 規約の比較

本研究では、玉城町の中にある居住区として3つの類型があると考えている。①「農村」、②「城下」、③新興住宅地、の3類型である。その種類の違いで地域運営がどう違うのかを調査するため、69ある玉城町の自治区の中で、3地区において区長や区長経験者に対するインタビュー調査を実施した。また、あわせて自治区の規約をお借りし、規約内容をもとにして複数回のインタビューを行った。

①「農村」に関しては、調査した地区は周辺地区にスプロールが起き、新たに家を立て流入してきた新住民と旧来の農村の住民が混在する地区であった。②「城下」につき以前は商店が多い地区であったが、近年商店がほとんどなくなり、高齢化がかなり進んでいる地域であった。③「新興住宅地」については、昭和40～50年代に開発されたいわゆる「オールドニュータウン」であるが、今でも空き地が見られ、そこに息子夫婦が家を建てるなど人の出入りが現在でもある地域であった。

興味深かったのは城下と新興住宅地を比較したときに、規約の文字数が圧倒的に新興住宅地のほうが2倍以上多いという事実である。旧城下については、昔からのいわば「慣習法」が有効であり、事細かく規約に定めなくても自治が行われていく、とのことであった。これは反対に、新しいことを行ったり、前例のないことを行ったりするときにもすると保守的

な傾向を示す、ともインタビューでは聞かれた。反対に、新興住宅地ではこれまで縁もゆかりもない人たちが、その土地を買い、家を建てたというだけの縁で地域生活を始めるわけであり、ある程度規約に細かく定めていかないとハレーションを生んでしまうこともあってか、非常に条文が多いことと、かなり頻繁に改定が行われていることが本文及び改定履歴からわかった。

一方、今回の農村の規約及びインタビュー調査では、報告者の予めの予見では、城下のように文字数の少ない、慣習を重んじた内容であるかと考えたのだったが、実際は新興住宅地に近い、かなり事細かく定められたものであった。インタビューによると、実はこの規約は15年ほど前に作られたもので、それまでは規約そのものもなかったという。結論としてはスプロールした場所に新たに住民が流入したことにより、それまでは紙に書いた規約などがなくても問題なかったものが、必要となり作成したものであるという。そういった意味では、条文の多い、新興住宅地に近いものになったものと推測された。今後、この3類型についての調査を続ける必要があると感じられた。

終わりに

この稿を書くために、参考にと昨年の報告書を見たところ、奇しくも同じ3月8日に書いていたことがわかった。あれから一年、と考えながらこの文章を書いはじめた。私事であるが、昨年の今頃は博士論文の執筆中であり、朝は3時に起きて出勤前に数時間論文を書いてから出勤する、という生活を過ごしていた。もちろん昨年も、新型コロナウイルスの感染症は続いているし、昨年侵攻が始まったウクライナの戦争も解決していない。

社会は形が変わってしまった。その形はもとは戻らないだろう。悲観的な捉え方だけでなく、今社会はかなり感染症に強くなったとも言えるだろう。昨年のこの稿で「人が不寛容になった」と書いたが、自分で自分の身を守る必要性を自覚した、ともいえるかもしれない。戦争なんて起こらないと思っていたが、何が起きてもおかしくはないという知的柔軟性を身に着けたともいえるだろう。我々は、まったく予測のつかないこの世界を明日も生きていかなければならないのだ。

物事には必ず2面以上の面があり、複数の視点を持たねば物事を立体的に見ることはできない。ウクライナの理論と、ロシアの理論の双方を知らなければ、われわれは本当の世界の姿を見ることが出来ない（支持する必要はない）。

地域で起きていることも同じである。地域に登場するアクターとしての、一般住民、区長、まちづくりに熱心な人、無関心な人、行政職員、高齢者、子ども、様々な人にそれぞれの視点がある。われわれは、単一の視点から「ねばならない」と地域社会を語ってはいないだろうか。ゴミ捨て場の利用方法を守らない人にも、それなりの言い分があるかもしれない。我々は、様々な立ち位置から地域社会を見る視点を持たなければならない。そのためには、様々な視点からの発言を聞く必要があるだろう。そして、当然その中で自分の視点から語ることも必要だろう。聞いて語る、つまり「対話する場」が必要である。多様な人々が、多様な視点から「語り」、そしてそれを「聞く」場。それを地域社会に作り続ける必要がある。

住民ワークショップを何回開催しました、そこで住民の意見を聞きました、ではない。「語り、聞き続ける」必要があるのだ。誰もが自由に訪れることが出来、語り、聞くことができる。そしてそこは「ずっと」存在する。そのような「コモンズ（入会地）」が地域社会には必要ではないか。そしてそれは、誰により作られるのか。このことをしばらく考えてみたいと思う。

最後に、本研究事業にご助力いただいた地域の皆さん、関係協力機関の皆さん、本学事務職員及びアルバイト学生諸君、そして玉城町役場職員 みなさんに厚く御礼を申し上げます。

令和5年3月8日
皇學館大学教育開発センター准教授
池山敦

資料編

「令和4年度『玉城町明るい未来づくりに関する調査研究』におけるワークショップ等実施事業」
業務 概要




地域でのワークショップ

No.	タイトル	実施場所	実施年月日	備考
1	立体地図作りワークショップ	岡村公民館	令和4年10月15日	13名参加
2	まちあるきワークショップ 「じぶんの“まち”をあるこう！」	岡村公民館	令和4年11月19日	18名参加
総参加者数				31名

コミュニティのあり方研究会

No.	タイトル	実施場所	実施年月日	備考
1	第1回研究会	オンライン	令和4年8月10日 14:00～16:00	
2	第2回研究会	オンライン	令和4年10月3日 10:00～12:00	
3	第3回研究会	オンライン	令和4年12月2日 10:00～12:00	
4	第4回研究会	オンライン	令和5年2月8日 14:00～16:00	

令和4年度 TMKミライデザインプロジェクト 実施報告書 vol.1

タイトル	岡村区 立体地図作りワークショップ ※新規地区（1年目）	
開催日時	令和4年10月15日（土）9：00～11：30	
開催場所	岡村区公民館	
参加者	住民13名（大人8名、子ども5名）	
スタッフ	皇學館大学教育開発センター池山敦准教授・学生2名、Mブリッジ1名、玉城町役場総務政策課2名	
当日のスケジュール		
<p>09：00 事業説明</p> <p>09：10 立体地図作り（最終仕上げ）</p> <p>10：00 ワークショップ</p> <p style="margin-left: 20px;">1.自分のお家を探そう</p> <p style="margin-left: 20px;">2.面白いところ、教えてあげたい場所を書き出そう</p> <p style="margin-left: 20px;">3.昔のことを聞こう</p> <p>11：30 終了</p>		
概要		
<p>今回のワークショップは、地域の現状を地域住民に「見える化」することで、地域課題を自分ごととし、地域の自己決定を支援することを目的に実施した。</p> <p>冒頭は、玉城町とファシリテーターの皇學館大学・池山敦准教授が事業の説明を行った。その後、池山敦准教授から立体地図作りの手順説明を聞き、子どもたちが最終仕上げの作業を行い岡村区の立体地図が完成した。</p> <p>完成した立体地図に参加者それぞれが、自分のお家や地域の面白いところ、教えてあげたい場所、昔のこと等を対話しながら付箋に書き出し、立体地図に貼っていきながら地域の情報を「見える化」するワークショップを実施した。具体的には、「山の神」「牛」「ホテル」「カブトムシ」「たけのこ」「いのしし」「花畑」などの「地域の情報」が立体地図に貼られていった。</p> <p>参加者からは「子どもからお年寄りまで集まる機会になって良かった」「立体地図を囲んで地域のことを話すのが楽しかった」「立体地図作りが楽しかった」などの感想がきかれた。</p>		
実施風景		
		
作成手順の説明	子どもたちの仕上げ作業	地域の情報を「見える化」

報告書作成：Mブリッジ

令和4年度 TMKミライデザインプロジェクト 実施報告書 vol.2

タイトル	岡村区まちあるきワークショップ じぶんの“まち”をあるこう！ ※新規地区（1年目）
開催日時	令和4年11月19日（土）9：00～12：00
開催場所	岡村区公民館
参加者	住民18名（大人9名、子ども9名）
スタッフ	皇學館大学教育開発センター池山敦准教授・学生2名、鳥羽商船高等専門学校 中井一文准教授・学生2名、Mブリッジ2名、玉城町役場総務政策課2名
当日のスケジュール	
09：00 事業説明	
09：05 カードゲーム「マッチ（街）・カード」体験会	
09：40 まちあるき	
11：30 ふり返り／模型へのプロジェクションマッピング	
12：00 終了	
概要	
<p>今回のワークショップは、地域の現状を可視化することで、住民が地域を見直し、地域課題を「自分ごと」に捉えるきっかけづくりを目的に実施した。</p> <p>冒頭は、玉城町とファシリテーターの皇學館大学・池山敦准教授が事業の説明を行った。その後、参加者は子どもを中心に4～5人のグループに分かれ、鳥羽商船の学生らを中心にカードゲーム「マッチ（街）・カード」の体験会を実施した。このカードゲームはプレイする中で頭の中に自分の住む地域が想起される問いかけが書かれており、ゲームを通じて楽しみながら自分の住むまちについて考えたり、伝え合ったりした。</p> <p>その後は、参加者の親子と地区の人が外に出てまちあるきワークショップを実施した。このまちあるきは、新旧の住民が実際に一緒に歩くことで岡村地区の魅力を見直し、愛着を深めるきっかけづくりを目的に実施した。竹林などの山道を通り、山の神やため池を埋め立てた場所、高台の眺めのいいポイントなどをめぐり、各ポイントで地区の人がその場所にまつわる歴史やいわれなどを紹介した。各ポイントをめぐると途中にも、昔使われていた水瓶や「昔はこのあたりで田舟が使われていた」「空気の澄んだ晴れた日には富士山が見える」などの話を歩きながら話し、親子らは初めて知ることを楽しそうに聞いていた。またまちあるき中は子ども達にカメラを渡し、子どもの視点から見た「岡村の好きなところ」を撮影してもらった。またスタッフがまちあるき中に来場者の写真をポラロイドカメラで撮影し、撮影した写真は、参加者・岡村地区それぞれに記念として渡した。</p> <p>公民館に戻ってからは、地域の立体地図（地形模型）に地区の航空写真をプロジェクターで投影し、地域の地理的な特徴などを眺め、子どもたちが撮影した写真などプロジェクターに投影しながら、ワークショップのふり返りを行った。ゲームやまちあるきなどを通して、新旧の住民らが一緒に地域の魅力をふり返ることで、地域の未来について考える良い機会となっていた。参加した子どもからは「山道を歩けたのが楽しかった」、地区の人からは「未来を担う子どもたちに地域のことを知ってもらえてよかった」などの感想が聞かれた。</p>	

実施風景

〈カードゲーム体験〉



カードの説明



カードの体験



カードの体験

〈まちあるき〉



まちあるきの説明



「好きなところ」を撮影



地区の方からの説明



地域の魅力をめぐる



集合写真



参加者のポラロイド

報告書作成：Mブリッジ

第1回玉城町コミュニティのあり方研究会 議事録

開催日時：令和4年8月10日（水）14:00～16:00

開催方法：WEB会議システム「Zoom」を使ったオンライン開催

参加：浅見雅之氏、池山敦氏、石丸隆彦氏、伊藤純子氏、中井一文氏、名取良樹氏、橋本大樹氏（50音順）

オブザーバー：地域問題研究所、皇学館大学伊勢志摩共生学実習学生、東京大学体験活動プログラム学生

① 挨拶など

〈池山氏より〉

- 昨年同様の委員の皆様へ委嘱。研究会は年間通して4回実施する。

〈玉城町総務政策課・杉森氏より〉

- 今年度も継続して地域コミュニティについて考えていきたい。

② 委員自己紹介

● 浅見雅之氏（人・まち・住まい研究所）

- ・ 地域づくりのアドバイザー。普段は地域の話し合いのサポートをしている。神戸市で建築設計事務所「人・まち・住まい研究所」を設立し、12年目。中山間地の地域づくり支援の縁から、自治会が出資するそば屋の株式会社化に携わり、その社長も務める。

● 石丸隆彦氏（特定非営利活動法人 Mブリッジ・まちづくりコーディネーター）

- ・ 松阪市のNPO法人に所属。地域での対話の場づくりのサポートをしている
- ・ それ以外に三重県内の20代・30代の若者と地域をつなぐ取り組み、若者のコミュニティづくり事業に取り組む。具体的には事例などを知る不定期の交流イベント（オンライン、フィールドワーク）と、気軽に相談・雑談できる定例会（オンライン）を実施している。

● 伊藤純子氏（静岡県立大学看護学部助教）

- ・ 保健師を育成する部門で働いている。看護師は個人へのケアをする仕事だが、保健師は地域全体の健康の課題を住民と一緒に支援し解決する仕事。
- ・ コミュニティのつながりは住民の健康と関わるという研究結果もある。
- ・ 「一般社団法人おもしろ健康教育研究所」を設立。“おもしろく”課題にアプローチするという、大学ではできない実験的な取り組みをしている。

● 中井一文氏（鳥羽商船高等専門学校 情報機会システム工学科 准教授）

- ・ 専門はIoT、WEBシステム。この研究会ではICT方面の知見を提供している。プログラミングが関わるものに幅広く取り組んでいる。
- ・ これまではまちづくりワークショップの中で使うシステムを制作してきた。今年からはその場で誰でも使える「町の情報を知るカードゲーム」を制作している。アナログで作ることで、鳥羽商船の手が離れた後でも、地域で誰でも街の情報を知ったり、議論できたりするツールを目指す。
- ・ 高校生目線で制作しており、玉城町出身の高校生がテストプレイする場も設定している。

● 名取良樹氏（玉城町地域活性化起業人／面白法人カヤックディレクター）

- ・ 面白法人カヤック（鎌倉市）から、地域活性化起業人という制度で玉城町総務政策課へ出向している。移住をテーマにしたマッチングサイトを運営していた経験があり、移住という文脈のなかで、行政の立場から取り組んでいる。

- ・ 玉城町では移住施策は直近では必要とされていない。まずは足元にあるこの研究会、関係人口創出など、玉城町にあった領域を探っている。
- ・ 自分の法人も持っている。三重県庁、広告の仕事などさまざまな事業に取り組んでいる。自宅を改装して靴づくりもしている。1つの会社に全リソースを捧げるのではない働き方、生き方をしている。
- **橋本大樹氏（一般社団法人東北まちラボ代表）**
 - ・ まちづくりのコーディネーター。拠点は宮城県山元町。東日本の復興のまちづくりに携わる。他にも宮城県山元町の自治会支援、丸森町（令和元年の東日本台風で大きな被害を受けた地域）の支援、仙台市の町内会活動の今後を考える取り組みなどにも関わっている。
- **池山敦氏（座長・皇学館大学教育開発センター 准教授）**
 - ・ 皇学館大学教育開発センターの教員。文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」のなかで、伊勢志摩を教科書として学び、それぞれのフィールドで活躍してもらう人材教育プログラムに取り組む。その一環として玉城町から受託事業として4年目となる。この研究会や地域の模型作り、町のことを知るゲーム作りなどを通して、地域のコミュニティのことを考える取り組みをしている。

③ 報告「まちづくり先進地区視察会について」 一般社団法人地域問題研究所

- **地域問題研究所について**
 - ・ 昨年度から「小学校区を中心としたコミュニティ形成支援事業」を受託。
 - ・ 玉城町には自治区が69ある。もともと玉城町は4自治体から成り立っていた。その4自治体ごとに小学校があり、その小学校区を中心としたコミュニティができないかを試行錯誤している。
 - ・ 学校区を中心としたコミュニティは、単に自治区の集まりでいいのかという視点から2つのことに取り組む。1つは、地域の単位としての自治区の持続可能な形を模索していくこと。もう1つは、テーマ別に住民の色々なつながりをつくること。今年度は特に後者に取り組む。
 - ・ 業務の中では、地域を動かすための会議体、コミュニティの形成方針の案を今年度も検討していく。玉城町における今後のコミュニティの在り方を考えていく。
- **報告「まちづくり先進地区視察会について」**
 - ・ 今年度の事業の一環として、住民に対して研修を行った。自治区の区長を対象にした研修として愛知県の南粕谷地区に視察へ行く予定だったが、コロナの状況を見てオンラインでまずは交流会を実施した。（現地視察は改めて、秋に実施予定）
 - ・ 7月23日にオンライン交流会を開催。南粕谷の役員4名、玉城町は10名程度で実施。
 - ・ 知多市南粕谷について。知多市の大きな産業には新日本製鐵株式会社がある。南粕谷は1970年代に新日鉄の社員の方が多く移住している地域。当時の小学校は児童数1300人のマンモス校だったが、今は高齢化が進み、現在は高齢化率50%。小学校も200人程度に減少した。
 - ・ 「南粕谷ハウス」について。2013年アンケート等の「地域で居場所をつくりたい」という声からはじまった。もともと酒屋さんだった施設を改装。自治体からの補助金は一切受けず、収入のみで家賃を賄う。100%自分たちの想いで、活動拠点として使っている。小学校区のコミュニティづくりとしてモデル的

な施設である。喫茶や、子どもたちが遊べるスペース、交流スペースなどがある。子どもから大人までいろんな人が交流している。

参考) 南粕谷ハウス <https://kasuyahouse.wixsite.com/kasuya>

〈感想〉

- ・ 「コロナ禍では空けていたか」という質問に対して「自分たちの施設なので、自分たちで決めてあけていた」と答えられ、地域の人が自主的に意思決定されていることが印象的だった。
- ・ 運営面について。補助金等を一切使わず、家賃 15 万円程度を自分たちでまかなっていることに驚いた。売り上げは 12~13 万。余剰はある程度貯めている。喫茶営業を月~金 10~15 時までちゃんとやっている。(立ち上げ当初は、市や県の補助金を使っていた。現在は一切使っていない)
- ・ 新日鉄が来て旧来の住民より新来の住民の比率が多くなり、ハレーションがあった。地域の祭りや行事などに入れてもらえない軋轢も経験された。そういうときには会社が間にたって、地域が成り立ってきたという歴史もある。
- ・ 類似の事例はあるか。
- ・ 利用者は南粕谷の住民に限らない(誰でも OK)。みんな無目的でまったり過ごしている。小学校の男の子が携帯ゲーム機をもってわざわざ来るような、子どもたちにとっても日常化して、普段の居場所になっている。
- ・ コーヒー 250 円という設定が、フリーライダーを防ぐことにもつながっているのでは。

〈その他〉

- ・ 玉城町の自治会費の平均 1 万円弱くらい。
- ・ 自治会に入るメリットは何か。説明がちゃんとできないのは弱点。昭和の時代はメリットデメリットではなく、義務で入っていた。義務でなくなったときにちゃんとした説明が今できていない。やろうとすると理屈っぽくなる。「災害の時に助け合えない」というのを人質のように伝えるのも違う。しかし理論武装できる説明はきちんと必要。

④ 報告『『地域つながり特命係』の設置・役割について』玉城町・総務政策課中川氏より玉城町が抱える様々な課題

- 玉城町は住みやすい地域。(いい部屋ネット街の住み心地ランキング〈三重県版〉4 位)。特に行政サービスは第一位。
- 人口減は穏やかだが予測よりも加速している。2015~2020 年の間で伊勢志摩地域の中でもっとも人口減少が加速した町でもある。
- 未来には高齢化率がどんどん上がっていく。介護の需要予測では、介護の需要は平均よりも 35% 増。
- 少子化について。実数比較では、下外城田小学校は将来 54% 減になる。今のまま行くと小学校が複式学級、統廃合の時代に入る。
- 自治会未加入者が増加している。自治区に加入していない、自治会が加入を認めていない等の問題がある。ギスギスしてつながりがなくなる。
- 上記のような不安要素がたくさんある。町では小学校区を中心とした持続可能な地域づくりの推進をしてきたが、地域担当制度の強化・充実するために「地域つながり特命係」を設置することになった。
- 平成 20 年から地区担当制度があったが、それをより実践に向けた形にしていく。
- 具体的な取組内容は「行動」を重視する。まつり、コミュニティスクール、福祉に

関する活動など。

- メンバーは各地区出身、若手中心の17名。活動方法はメンバーに任せる。
- 12月初旬までに計画づくり、来年9月に中間報告、再来年2～3月に事業報告。地域問題研究所とともに取り組む「たまきつながる博覧会2023」とも絡む。
- 2022年8月10日からスタート。

〈質疑・意見など〉

- 南伊勢町の緊迫感はすごい。集落によっては平均年齢80歳、高齢化率90%以上。南海トラフで津波をかぶらないのは2地域しかない。宿田曾は遠洋漁業で栄えたが、親が子どもたちに外へ行くことを勧めたような地域の経緯がある。しかし、現在は一生懸命取り組んでいる。今回、玉城町でもこれをきっかけにして取り組んでいくきっかけになればいい。
- とても良い取り組み。保健師のアプローチから考えると、地域の中にインフルエンサーを投入して、玉城町がどういう状況なのかを把握し、発信するキーパーソンを配置するのはいいこと。地域支援をする既存の役割として民生員がいるが、民生委員は何か問題があったときに動く受け身なイメージがある。特命係は現状をよりよくするための(≒ウェルネス)、ポジティブな位置づけの人かと感じた。この方々は報酬を得ることができるのか。
 - 委嘱されているのは全て役場の職員。モチベーションをあげるために、ネーミングを誇らしいものになるように工夫したり、辞令を出したりした。公務として取り組むことができる。
- 活動を続けるなかで「自分たちは役に立っているのか」などに行き詰まる可能性がある。年度末か半期ごとでも、「困ったことがあったか」「やってよかった」「手応え」など、彼らの自己効用感が上がるようなポジティブなフィードバックをすることがあると良いと感じた。
- (提案)「取り扱い：公務」となっているが、部署から行くときに送り出しのサポートを徹底してあげてほしい。育休と似ている。制度はあるが使いやすい雰囲気がないなど。
- 地域のDX、ICT化などの視点から何か考えられないか。
 - 地域のICT化で何が必要なのか。結局回覧板やお知らせをラインで流すだけで終わってしまうのではないか。全世代対応は難しい。誰が必要としているか、がぼけている感じがする。
- 「役員の高齢化」「出合作業が大変」など、地域で困っていることは既に見えている。その中にICTを入れて喜ばれるようなスキームはないのか。
 - 最近、鳥羽商船の伊勢志摩地域での立ち位置を考えている。中学生が高校を選ぶときに進学校または専門性が高いかなどの何かしらの評価軸がある。例えば、伊勢高は進学、伊勢工業は専門性に特化しているなど。中学校の生徒がどこの学校をどういう軸に考えているかのアンケートを取りたいと考えていた。このように地域の自治会で対応すべきことについて、軸を設けて考えると面白いのではないか。
 - 住民が本当に求めていることは何か。コロナで自宅待機が増えたとき、全てをAmazonなどに頼るのか、近所の人少し助けてくれたりするのかな。そんな小さなつながりをつくっていくのがまちづくりではないか。草がよく生えている周辺地域は出合作業が必要だと感じるが、アパートの人は出合作業の必要性を感じないかもしれない。そういうアプローチならICTも活かせるかもしれない。
- 職員が考えてもらう時に切り口として「健康・福祉」「ICT活用」「防災」は示しや

すい。

- 玉城は平たんだからランニング、ウォーキングしやすい。歩道の整備がされていない。例えばどこかの小学校区で健康度を挙げようと取り組むときに、歩道の整備や独自の健康マイレージをつくるなどはどうか。
- 地域に入ったときに行き詰まることもあるのではないか。そのときに「自分たち自身がこうしていきたい」という気持ちをどう仕向けていくか。防災に取り組みなさいという取り組みが、それではやったことにならない。良い事例を伝えるなどしてやる気を引き出す工夫が必要か。
- 皆で盛り上げる雰囲気を作っていくのが最大の課題。
- 保健師のエンパワメントの視点から。保健師は地区担当制でマイ地区があり、地区に対する愛着がある。積極的に関わることで情報も増える。その視点からパフォーマンスを発揮するには、いかに自分が預けられた地域を詳しく知られるか、住民と交流できるか、などが重要になる。いかに関心・愛着を持てる仕掛けができるかが大切。そういう風に周りが支援できるといい。
- 自分の本を紹介するビブリオバトルのように担当職員が自分の町を自慢できるほどになるといい。
- 「いいところさがし」からスタートしては。新人の保健師は「わるいところさがし」からスタートする。実はそうではない。いかにいいところ、強みを探してこられるのかという視点でサポートすることが大切。
- 外部の人が関わるメンターがいるといい。承認欲求を満たしてあげる人。意識して褒めてあげるといい。
- 評価と報酬の設定をしっかりとしたほうがいい。現状で「動機がない」のであれば、どうあがいても“無理して動く”という構図になってしまうのではないか。「やりたくない」という本音に対して、どういう風に動機をプラスしてあげられるか。ゲーミフィケーションの要素も大切。地域通貨を導入するが、その後のインフラとしてうまく使っていくなど。
- 単純接触効果について。接触回数が増えると愛着が促される。地域についてリサーチして自慢大会のように報告をするというプロセスを入れておくのはどうか。4地区をPRする場を設定する。そのためにはリサーチをしなければならない。リサーチの過程で愛着や興味を持つきっかけにはなるかもしれない。若手職員の研修の位置づけとしておいて、その先に何をするかを考えるのもいい。
- 職員にはあまり負荷を与えすぎるとマイナス要因になることもあるので、ひとまずフリースタイルとしている。しかしそこに何かを投下していくことも必要。自慢大会の視点は面白い。どこまで情熱をもって地域のことを語れるか。
- 町としては通常業務と横並びの業務と位置付けているが、現場ではギャップがある。
- チームだけで存在させるのではなく、メンター的に関われる伴走者がいるといい。

⑤ 報告「JR田丸駅舎等について」

〈報告〉

- 田丸駅舎の老朽化にともない立て替えをすることになった。
- もともとはJR東海の建物。大正元年頃に建てられたらしい。JR側が取り壊し、撤去（スリム化）することになった
- 玉城町の観光窓口の顔でもあるので、すぐにとり壊すことはやめてほしいと依頼。当初はそのまま譲渡してもらおうように話が進み、耐震診断、補強業務をJR側に依頼していた。最終的には、現存する駅舎はもらわず、新施設を整備するこ

- とになった。
- 玉城町の方針
 - ① 場（駅舎）を残す
 - ② 有人化の実現
 - ③ 地域交流としての利活用
- スケジュールとしては、令和4～5年度に取り壊し、令和4年度に設計、5年度に建築。町として新しい駅舎を立てる。今の駅舎の雰囲気を残しながら、新しい駅舎を建築。いろんな人たちを巻き込んでコミュニティ施設が作れば。
- さまざまな人たちの意見を聴きながら検討していく。（アンケートやワークショップ）

例）これまで（元活用人）、いま（高校生、大学生、通勤者）、これから（中学生、新活用人）

〈質疑など〉

- 実際に田丸駅を使う人は？
 - 感覚値で学生が7～8割、社会人は3割程度。乗降数は日平均550人くらい。町内には高校がないので高校生の8～9割はJRを使っている。
- JRの駅をなぜ鉄道会社が作るのか。そこをどう整理していくのが気になる。
 - JRの駅舎を町が立てることに対して、反対意見はない。

⑥ 学生からのコメント

- 皇学館大学学生
 - 印象に残ったのは愛知県知多市南粕谷のカフェの写真で、子どもたちがたくさんいたこと。小さな子どもが母親も一緒に来ている。玉城町では土日は周辺地域に流れてしまうと聞いたが、自分の住む地域で土日を過ごすことで地域経済が潤ったり、地元に対する発見が生まれたりするのがいい。
 - 「20代30代三重のシャベリバ」、愛知県の南粕谷の事例が印象に残った。大学で歴史を勉強している。自分の住む地域の課題を見つけるには、自分が住んでいる地域を知る必要がある。住民には地元のことを知りたいと思う人もいるのではないかな。自分の地域の歴史…田丸城の歴史や農作物が作られてきた歴史、団地にも歴史がある。自分たちが住んでいる地域の歴史を知ること、自分が住むところに誇りが持てるのではないかな。そういった歴史をテーマに老若男女が集まれる場をつくれたらいいのではないかな。
 - 「20代30代三重のシャベリバ」の話が印象に残った。授業でも少子高齢化対策について学ぶので知っていたが、自分たち若者が考える機会は大切だと感じた。学校という若者だけが集まる場所が減ってきている。若い人は自分の住んでいるところの足りない面を見がちだが、自分の住んでいるところに魅力を感じられるように変わっていききたい。
 - こういう話し合いの場があることは自治体にとって大切。いろんな視点から意見ができること。地域特命係は、評価や報酬がなければ続かない。自分がいましている活動は、学びはあるが、評価や報酬がない。熱意だけでしている。遊びに昇華していくのがいいのではないかな。
- 東京大学学生
 - 普段はハード面一国からの視点から学ぶことが多いが、ソフト面一特にまちづくり、地域の当事者の話が聞けて多く発見があった。特命係の仕事は、抽象的で終わりが見えづらくモチベーションが見えにくいと感じたが、伊藤先生

が「まちのいいところを探すことがモチベーションにつながることもある」というのが響いた。ハード面では津波に脆弱なところなど課題を見つけるところから始めてものごとを考えることがあるが、重要な知見として留めておこうと思う。

- 印象に残ったのは南粕谷ハウス。地方創生、地域のつながりという文脈からいくと、行政の資金を投入しても実際は活用されずビジネスとして成り立っていない事例も多いなかで、地域を盛り上げながらビジネスとしても成立していることが印象的だった。
- 地域つながり特命係について考えた。地域のつながりは、本来なら住民が自発的にやるものだけど、行政がやっている。行政だけでなく地域住民がこれから主体的に地域づくりに参加することが大きな問題だと感じた。自治会に入るメリットが何かという話題が出るほど住民はシビアになっている。自治会に入るメリットを言語化することは難しい。実際に自治会に入ってみないとわからない。そのなかで地域つながり特命係を遂行していくために、地域住民が有益だと感じるプロジェクトを行うことが一番重要だと感じた。地域住民の潜在的なニーズを調査することも必要ではないか。

⑦ その他

- この研究会の大きな方向性について。「玉城町のこの先のコミュニティの在り方」を一定の提言ができるように今年度中にもっていきたい。いずれたたき台を委員に示して議論してもらえるようにしていきたい。

第2回玉城町コミュニティのあり方研究会 議事録

開催日時：令和4年10月3日（月）10:00～12:00

開催方法：WEB会議システム「Zoom」を使ったオンライン開催

参加：浅見雅之氏、池山敦氏、石丸隆彦氏、伊藤純子氏、中井一文氏、名取良樹氏、橋本大樹氏（50音順）

オブザーバー：地域問題研究所

① 報告「磐田市協働のまちづくり基本条例策定検討委員会（住民ワークショップ）視察報告」（玉城町総務政策課・杉森氏より）

- 「第1回いわたまちづくりワークショップ」の報告。
- 磐田市（人口16万人程度）では平成21年に協働のまちづくり基本条例を施行。令和6年の改正に向けて住民の意見を聴くワークショップを実施した。
- 平成21年の施行時は「NPO等との協働の街づくり」をするための条例が中心だった。しかしNPOの高齢化や担い手不足によって市民活動がうまくいかない現状があり、今回（令和6年）の改正案では、自治会や住民自治の関わりについて明記がされている。
- 経緯としては、平成25年には意見交換会、平成27年にはまちづくり協議会の設立なども実施してきた。「NPO等が中心の街づくり」から「市民一人ひとりが主役の街づくり」に向けて条例の改正を進めている。
- 今回のワークショップは一般の住民を対象とし、50人程度が参加。一般公募ではあるが、NPO法人など何かしら活動している人が集まっていた。年代も10～70代まで幅広い参加者。テーマは「磐田市のいいところ、変化が欲しいところ」。1回目ということもありアイデア出しが中心だった。ワークショップの手法（テーマ設定）自体には新しい発見などはなかったが、市のHPでは既に条例の素案があり、このワークショップを条例にどう反映していくのかが気になった。
- 市の担当者によると、もともと条例改正は令和4年度にする予定だったが、市長が変わり、さまざまな意向を反映したいという理由から令和6年度に延期になった。コミュニティについて時間をかけて検討することを大切にしている印象を受けた。
- 玉城町と比較すると、玉城町では自治区、自治会が地域活動の中心となっている。磐田市では、NPO活動が盛んに行われている。今後はNPO活動と自治区の活動が両輪になっていくように感じた。
- 住民も意欲的に参加していた。自治区に直接働きかけるだけでなく、それ以外のNPOや任意団体との活動の兼ね合いも重要だと感じた。
- ワークショップでは「まちのいいところ」「変えていきたいところ」を出し合ったが、「いいところ」の付箋がとても多かった。視察当日も大きな祭りがあったり、街を歩いてもジュビロ磐田の足型が埋め込まれていたり、市民が街を好きになるコンテンツがしっかりある。伊勢市における神宮の存在とも近い。それを玉城町に置き換えたときに、住民たちが自分たちの町を好きになるコアなコンテンツは何があるか、考える必要がありそう。

② 報告「小学校区を中心としたコミュニティ形成支援業務」の進捗について（一般社団法

人地域問題研究所より)

- 今年度は下記を実施して、来年度「たまき つながる博覧会 (仮)」開催を目指す。
 - (1) 町民主体の試行事業の企画に向けたワークショップ
 - (2) 町民主体の試行事業の実践に向けた支援
 - (3) 持続可能なコミュニティ形成のための運営体制の検討
 - (4) 自治区や今後の地域活動を担う人材育成
 - (5) 令和3年度実施アンケートの深堀分析、町民への報告
 - (6) 行政と町民が共有する新しいコミュニティ形成方針の策定
 - (7) 持続的な自治会運営に向けた検討や取り組みの支援

〈各項目の報告〉

- (3) (6) については、後ほど事項④にて報告する。
- (1) 町民主体の試行事業の企画に向けたワークショップ
 - (2) 町民主体の試行事業の実践に向けた支援
 - 夏休み期間に「むかし遊び」のワークショップを4回実施。各回10人程度、計40人程度の子どもたちが参加。他にも「おはなばたけを描こう」「がさがさ(水生生物の調査)」、マルシェなども実施。防災をテーマにしたものなど企画段階のものも複数動かしている。
 - Instagramで情報発信。フォロワー100人を超えている。
 - (4) 自治区や今後の地域活動を担う人材育成
 - 前回報告した南粕谷地区の視察のほか、座学での研修(連続3回講座)を企画している。
 - (5) 令和3年度実施アンケートの深堀分析、町民への報告
 - 分析したものを、区長会を通じて報告した。
 - (7) 持続的な自治会運営に向けた検討や取り組みの支援
 - 区長会で自治区の現状をまとめた『自治区カルテ』をお返しし、各自治区における課題や方向性を客観的に認識してもらうよう促した。
 - 原区から「まちのことについて考えたい」という声があり、会議支援を実施。
 - 区長らは、自治区に対して課題を持ってはいるが、自治区の「課題解決」「進めたい取り組み」に対する支援を募集しても反応がない。区長の任期が1年(2年)交替のなかで「自治区について考えよう」と呼びかける風潮がないことがうかがえる。
- その他、年内に各小学校区で住民から意見を聴くワークショップを実施する予定。

〈質疑応答〉

- 「自治区や今後の地域活動を担う人材育成」の研修の枠組みは?
 - 対象は一般公募。できるだけ、若い方や、女性、今まで町と接点のなかった方に参加してほしいと考えている。当然、自治区の区長など地縁型コミュニティにも呼びかける。内容としては、自分が感じている「地域の課題」「地域にあったらいいなと思うこと」をどうやったら動かすことができるか、“ことおこし”ができるかをディスカッションしながら実践につなげたい。例えば「どうすれば情報を伝えられるか」「どうすれば仲間を集められるか」など。
- 地域カルテの配布はいつ行ったのか?

➤ 5月に実施。各区に3部ずつ。回覧、区長の手元用などを想定して配布。

③ 報告「TMKミライデザインプロジェクト」について（池山氏より）

- **既存地区（野篠地区）への支援**
住民アンケートの実施、集計が終わり、11月以降で結果の報告会をする予定。
- **新規地区（岡村地区）への支援**
11/15に地域模型のワークショップ、11/29にまちづくりワークショップを実施。
- **自治区における規約の調査**
「農村」「新興住宅地」「旧城下」の三類型において聞き取り調査を実施予定。
- **カードゲームの開発**
鳥羽商船と連携してゲームを通じて街を知ることができるカードゲームを開発。プレイする中で頭の中に自分の住む地域が想起される問いかけがある。ワークショップの導入でアイスブレイク的に使うことができる。

④ 報告「玉城町における地域コミュニティのあり方（素案）」について（一般社団法人地域問題研究所より）

玉城町のコミュニティ形成における『課題』について

- （課題1）地縁・自治の基礎である「自治区」が高齢化・世帯の減少等により弱体化し、存続が懸念される自治区もある。
 - 自治区の役割を再定義、自治区の消滅や統合・合併を視野に知れる必要もある。
- （課題2）自治区に加入しない住民の増加。孤独化する住民が増加している。
 - 「加入しないケース」「加入できないケース」の両方がある。自治区以外のつながりをつくらないと、孤立・孤独化の進行が懸念される。
- （課題3）地域課題が多様化・複雑化し、行政や自治区のみでは対応できない。
 - テーマ型コミュニティの参画を促すことが重要になる。
- （課題4）自治区（地縁型コミ）とNPO等（テーマ型コミ）との相互のつながり、連携が希薄である。
 - 自治区とNPO等との連携を後押しする仕組みをどう作っていくかが必要。
- （課題5）住民以外の玉城町の在勤者・活動者・関係人口なども地域を支える重要な構成員となっている。
 - 在勤者・活動者などをどうコミュニティに関わってもらうか。
- 「かつての地域コミュニティ」では、自治区が地域の課題を解決していた（解決できていた）。となり近所との関係性も築かれていた。「現状の地域コミュニティ」では、自治区に加入しない人も増え“自治区をつながり≠となり近所をつながり”となった。自治区が弱体化し、町（行政）が出る場面が増えた。またNPOや住民グループなど個々の活動をどう有機的につなげていくかが課題になっている。

日本が抱える問題との比較

- 「地域コミュニティに関する研究会報告書（R4.4 総務省）」によると、地域課題が多様化するなかで、自治会の活動がマッチしなくなっていることがうかがえる。国の方でも「自治会の持続可能性の向上」と「地域コミュニティの様々な主体間の連携」という問題意識を挙げ、これらをどう進めるかという面で「地域活動のデジタル化」を提起している。

地域コミュニティの構成員の整理

- 住民コミュニティには色々なタイプの住民、関係人口の人がいる。コミュニティの構成員を整理すると、まずは「住んでいる人」「住んでいない人」に分けられる。また「住んでいる人」の中でも「自治区に加入している人／自治区に加入していない人」がおり「加入していない人」でも「近所と関わりのある人／まったくない人」がいる。「住んでいない人」は「玉城町で活動する人／関係人口」がおり、「活動する人」は「在勤者／NPOで活動しているが町外に住んでいる人／」など。「関係人口」も「出身者など地縁のある人」「地縁はないがふるさと納税などで知った人」などさまざまである。

これからの玉城町の地域コミュニティ全体像

- 前述の内容をふまえて、どんな全体像が描けるか。
玉城町のコミュニティの中心には「自治区」がある。弱体化はしているが、今後も肝になっていく。持続性を向上させ、役割を検討してどう支援体制をつくるかの検討が必要である。また「テーマ型のコミュニティ」として、住民グループも地域で色んな活動をしている。この2本柱を小学校区という単位で地域課題の解決に向けたコミュニティ形成ができないだろうか、検討している。
- 小学校区のコミュニティ形成はどう進めるといいか。通常なら、自治区の連合体の組織をつくることになりがちだが、自治区運営の過渡期にあるなかで、連合体にしてもなかなか難しいのではないか。
- 「いろんな主体のつながりをつくる」という課題もあるので、テーマ型のNPO、ボランティアと自治区が一緒に取り組むステージにしていく必要がある。
- 地域課題の解決に対して、自治区、NPO、企業、公的団体（学校、社協、消防団など）も必要に応じて出てもらいながら、みんなで小学校区の課題を解決していきたい。かたちは、協議体という組織をいきなりつくるのではなく、プロジェクトとして起こしながら、役割が見えてきた段階で組織化が必要なら取り組む。
- プロジェクトの実施に際しては「玉城コミュニティマネージャー（仮称）」を設置し支援してしていく。住民グループや自治区の活動の基盤づくりの支援、活動の活性化へ向けたマッチング、牽引したりする役割を持つ。
- また「玉城コミュニティネットワーク（仮称）」として、色んな活動の情報共有も実施する。定期的に情報共有のための集まりをするなどのネットワーキングの仕組み。
- 「小学校区コミュニティプロジェクト」では、新しい何かを起こすのではなく、何かを動かすことをメインとして、動かすものに応じてさまざまな形態を考えていく。最初は情報交換会などから始める。
- 「たまきつながる博覧会」（2023年度実施）では、この全体の動きを見える化するようなイベントにしていきたい。（自治区、小学校区、NPO等のさまざまな活動を発信し、町民の参加を促す）

自治区の4つの役割

- (1) 近隣住民の親睦・相互扶助
日常の相互支援、見守り、まつり・行事の実施、災害時の相互扶助など。
➤ 自治区の本来の役割。
- (2) 地域の環境管理
道路、水路、農地の畔、神社の草刈りなど。街路灯を自治区で管理しているところもある。農家・非農家で役割が違う、財産を持っている自治区は新しい住

民をなかなか入れにくいなどの課題も出てきている。例えば、街路灯の管理などは公益的な部分も担っているが、自治区が弱体化して管理ができなくなったときにどうするか。

▶ 自治区が責任をもって行うこと、行政との協働・支援で行うことなど仕分けすることが必要になる。

(3) 行政からの委任業務

広報配布、区長会への出席、個別にさまざまな依頼がある。

▶ 町全体としてどんな業務を依頼するかを棚卸し、省力化などを検討する必要がある。

(4) 行政への要望・陳情

住民の意見のとりまとめ

▶ 自治区から庁への要望の出し方、やり方（システム化）を整えていく。

今後取り組むべき方向性

- 自治会を維持するために、地域自治的な役割を中心として役割をスリム化する。
- デジタル化を推進する。
- 自治区のみで対応が難しい場合は、NPO 等多様な主体との連携を強化する。
- 困ったことがあればコミュニティマネージャーに相談するなどの助言体制を強化。
- 「今後の自治区の推奨フォーマット」等を設定し、自治区運営の改善を積極的に指導していく。
- 一方で、自治区に対する相談・助言体制は整えるがあくまでも自治区の自主性に任せる。

小学校区コミュニティの役割

- 小学校区内の地域課題に対し、自治区、NPO 等、公的団体等が協働してプロジェクトを実施するための仕組みとして、「小学校区コミュニティ」を機能させる。
- 組織のかたちづくりを先行すると運営だけでくたびれてしまうため、プロジェクトの試行を重ねながら、組織の重要性が見えたらその段階で組織を検討する。
- まずはワークショップや懇話会を重ねながら、色んな人に参加していただき、学区内のやるべきことを議論し、次年度に決定していく。プロジェクトの実施段階ではコミュニティマネージャーが支援する。
- 課題は、サポート体制をどうするか、資金調達について、自治区に参加していない住民がここにどうコミットするか、など。
- 似た事例に、奈良県広陵町の事例がある。小学校区が4つある町。昨年度基本条例を施行し、住民自治は2層構造だと示した。1つめは「基礎コミュニティ（区・自治会）」で、2つめは「地域自治体（まちづくり協議会：おおむね小学校区程度）」。まちづくり協議会にはNPO や学校、企業など色んな主体が参加している。

(2) 意見交換

〈玉城町より〉

- 玉城町としてもおおむね考えている方向性は同じである。
- 実装するためには、組織（役場）のなかに定着・共有していくことが重要。どう伝えていくかが課題。

〈委員より〉

- 素案については、色んな意味で難しさを感じる。地縁が強い地域ではテーマ型コミ

コミュニティへの理解にとっても時間がかかる。人口減少・高齢化社会なので、今までの考え方を全てはずす必要がある。小学校区にする必要は本当にあるのか。行政と地域の間でコミュニティマネージャーが入る必要は本当にあるのか。

- 兵庫県の加西市でアドバイザーをしており、素案と似たかたちでまちづくりを進めている。しかし、結局自治区の意向に引っ張られたりしている。役割のスリム化についても、自治区で活動する人とテーマ型で活動する人（PTA、消防団など）が同じになるというジレンマも発生している。コミュニティのエリアだけを広げても難しいのではないか。
- 方向性については良いと思うので、どういうプロセスを追ってコミュニティをつくっていくかを検討していく必要がある。
- 素案のキーワードは、テーマ型であること。地域における課題はそれぞれ違う。住民の中では「小学校区」というエリアの認識はある。しかしまちづくり協議会をつくるのが得策かは議論が必要。
- 組織や仕組みをつくることから入るとその問題で動けなくなる。本当に小学校区でいいのか、という指摘は確かに一理ある。「小学校区」はあくまで地域づくりの話題の入り口、出発点として捉えていきたい。
- 現状では、地域の方は変化を望んでいない。少し先を見据えて変化を促すプレゼンテーションの仕方を検討していく必要がある。
- 地域問題研究所の資料のなかで、コミュニティの全体像を整理していくとき、カオスマップのようなものがあるといいなと感じた。
- 関係人口というキーワードが出てきたが、私が捉える関係人口との差異がある。玉城町についての関係人口を定義する必要がある。地域問題研究所が考える関係人口とは。
 - 関係人口にはさまざまなレベルがある。現在は「玉城町ファンクラブ」という仕組みもあるが会員は「玉城町出身者」から「人から紹介された人」などさまざま。まず巻き込むべき方は出身者など地縁のある方だと考えている。出身者などゆかりのある方が何かしらの関わりを持ち続けていただくことで、いずれはUターンなどへの発展も期待したい。
 - すでに出身者や土地がある人は「生まれながらの関係人口」である。そこを引き上げていくことを目的とするなら理解はできる。関係人口を考える時に「これから創り上げていく関係人口」の両軸も持つ必要がある。
 - 「たまたまファンクラブに入った人」などに関係人口の濃度を高める必要もあると考えている。そういった方が何かの活動にコミットできる、プロジェクトに関われる可能性も残しておきたい。
- テーマ型の取り組みについて。現在、「NPO 法人わんず」が昔のことを聞き書きする事業を通じて縁日があったことを知り、縁日を復活させるイベントをしている。テーマ型（NPO）と地縁型（自治区）が協力をしながら進めている。
- テーマ型を進める時にどう関わる人を増やしていくか、人材的な問題が多々ある。人材育成という視点からみると、関わる人を増やしていくにはどうしていくといいのか。
 - 新しく活動する人をつくる、今活動している人の視野を広げるなど、方法は一択ではない。特に今地域で活動されている人は「毎年こうしているから」と良くも悪くも“考えない人”が多く「こうする方がいいのではないか」という改善

の視点が弱い。そういった人の視野を広げ、柔軟な考え方を育てる機会をつくることも人材には必要である。コミュニティマネージャーがそういう役割を担っていく。縁日をするために自治会にアプローチする行動ができているのはすごい。実行するためにしがらみに捉われずに動けるようになる人を育てる必要がある。

- しがらみに捉われずに動いてハレーションが起きる可能性もある。そういったことが起きないように、地元の暗黙のルールを伝えたり、地域と衝突するまえにブレーキ役になったりする役割が必要。それがコミュニティマネージャーになる。
- 人に依存しすぎる難しさもあるが、地域づくりは「人」に依存している部分も多い。ゆくゆくは仕組み化する必要がある。コミュニティマネージャーの役割が浸透していくと、仕組み化につながっていくのでは。
- 地縁型のコミュニティの究極の役割は「身体性」ではないか。体や命は遠隔では守れない。そこから導き出される最低限の機能は、命、健康を守ること。日常生活でも見守りなど物理的な近さがないとできないことである。健康面から見たときに地縁型コミュニティが担うべき役割とは。
 - 介護保険制度や介護支援が充実するなかで医療や介護に関しては、地縁を必要としない状況になっており、地縁組織が薄れる要因にもなっている（地縁に替わる要素がたくさんある）。しかしウェルネス（よりよい生活）の視点から見ると、ソーシャルキャピタルとして地縁（つながり）があった方が健康度は高いという考え方がある。
 - 直接的に健康に関わるのではなく、精神的なつながりから間接的に健康に好影響があると考えられるのか。
 - 通院など直接的なサポートだけでなく、困った時に相談できる、情報を提供するサポートなどさまざまな支援があるが、必ずしも物理的に近接していないとできない支援ばかりではない。そういった部分が多くなっている。
 - 制度、医療などが充実しており、そういったサポートに該当するとよいが、一方で「狭間」も生まれてきている。公的サービスの狭間にいる人に誰が気づいてあげられるのか。
 - 物理的に離れていて見守りができないので郵便配達員がかわるサービスなどもある。しかしそれでは後手になる。予防という観点から、早期の段階から対応できることを考えると常に見守ることが必要になる。制度の狭間から漏れる人は、自分から助けてと言えない人。理想はとなり近所のとつながりで気づけるとよい。
- 素案に対して「玉城らしさ」「玉城の強み」といった地区特性が入るといいのではないか。玉城町には意欲ややる気のある人がたくさんいる。既存の資源を育てる視点もいいのではないか。テーマを決めるのもよいが、先に場所をつくることもいいのでは。静岡市清水区では「草薙テラス」という場所をつくり、世代間交流の会をするなどさまざまな活動をしている。
 - 既存の取り組みもたくさんあるが、実はその横のつながりが薄い。そこをつなげることも必要だと考えている。小学校区のプロジェクトについても、新しいことを立ち上げるのではなく、既存の取り組みを横展開することもあるかと考えている。何か動きを見せないと、住民の意識も持続できない。

- 場があると最初のスタートもイメージしやすい。小学校の中の児童館的なスペースを活用することも検討している。玄甲舎のフリースペースが活用されていない現状があるので、そういったところを周知して、みんなで使っていくことを模索していきたい。
- 既存の団体の活動も提案資料の中に織り込んでいくといいのでは。
- 昨年実施した1万4000人アンケートの結果を素案の中に入れて込んでいくことでエビデンスになる。「この結果からこの案が生まれた」「こういう活動している団体がある」などを見えやすくしてはどうか。
- 地縁型組織のデジタル化をどうしていくといいのか。
 - 何かツールを使うとするなら普及率の高いLINE一択ではないか。高齢の人使っている。
 - 地域問題研究所として直接的なデジタル化の支援はないが、相談のなかでデジタル化についての内容はある。
- 地域運営を真面目に考えると「まちづくり協議会」などをつくることにたどり着く。しかし地域の人から見ると、自治会長が老人会の会長や〇〇会の会長を兼務し、1人4役、5役している人がいる。そこにまちづくり協議会が増えると、また役が増える。それは活動時間が減って会議の時間が増えるだけで、デメリットでしかない。そういう人が地域にはたくさんいる。その現状をどう乗り越えるか。この組織ができることで、自治会長がすごく楽になるというメリットがないと。
- テーマ型コミュニティは、小学校区で区切るとテーマ型で見たときにリソースが少なすぎるのではないか。協議会は小学校区単位だが、テーマ型は町全体で共有するなど自在度があった方がいい。例えば「子どもの居場所づくり」などを一小学校区で考えると行き詰まる。玉城町全体、または隣の市も巻き込むなど裾野が自由な組織の描き方も大事だと思う。
- コミュニティマネージャーが自然に育つような仕組みを考えることが必要。「世話焼きおばちゃん」がイメージに近いが「世話焼きおばちゃん」は好き嫌いが激しいので全てをつなげてあげられない。全てをつなげられる人をどう育てるか。
- 地縁コミュニティの究極性については「同じ地面を共有していること」だと考える。土地を共有する、災害を共有するなど。
- 情報共有として、外城田小学校の石谷校長がコミュニティスクールに熱心に取り組もうとしている。そういった方とご一緒に、地域の人が集まる場を小学校につくり、校長先生とともにテーマを見つけて、小学校と地域と一緒に取り組む試みも可能性があるのでは。

〈玉城町より〉

- この事業は残り1年。すでに施行のフェーズに入っている。まずは試行的に実践に取り組んでいく。回覧板のデジタル化、自治区に加入していない人に向けた集いの場などを試行して、その結果をこの研究会で議論していければ。
- 実装するために最終の出口をどうするか。住民に対して伝えられる提案を出していかないといけない。来年度には具体的に伝えられるようにしていきたい。

第3回玉城町コミュニティのあり方研究会 議事録

開催日時：令和4年12月2日（金）10:00～12:00

開催方法：WEB会議システム「Zoom」を使ったオンライン開催

参加：浅見雅之氏、池山敦氏、石丸隆彦氏、伊藤純子氏、中井一文氏、名取良樹氏、橋本大樹氏（50音順）

オブザーバー：地域問題研究所

① 報告「令和4年度小学校区を中心としたコミュニティ形成支援業務」の進捗について （一般社団法人地域問題研究所より）

（1）コミュニティ形成に係る試行事業

- 前回以降の主な取り組み
 - 11/12 たまきつながるマルシェの開催（町民発案のマルシェ開催。出店チャレンジを支援）。むかし遊びの体験（折り紙）も出店し、高齢者と子どもとの交流を実施。来場者約300人。
 - 11/27 おはなばたけを描こう（Good Eggs Market〈ファーマーズマーケット〉の中で実施）。子どもたちがたくさん参加してくれた。
- それ以外にも住民発のイベントが玉城のいろんなところで民間発のイベントが開催されている。こういったところをつなげて「たまきつながる博覧会」をしたい。
- その他検討していること
 - 盆踊りの唄、踊りの継承、練習会の開催、里山の再生、玉城のデートコースづくりなど。障がい者との交流としてポッチャ大会を小学校や自治区と連携しながらできないかなども企画している。
- 外城田小学校、田丸小学校との連携の取り組みも進んでいる。

（2）地域活動を担う人材の研修会

- 知多市南粕谷コミュニティへの研修ツアー（10/29）を実施。町民11名が参加。
- 町民が主体となって活動を企画・運営するための研修講座を1～2月に開催予定。「やってみたいことを玉城町で仲間と気軽に企画・実施してみよう！」をテーマに全3回実施。受講者は住民、学生、町職員を想定。
- 紀宝町への視察研修ツアー（2～3月）
防災やコミュニティスクールに地域ぐるみで取り組んでいる事例を視察。自治区の新しい役員、町内外で活動する住民を対象に実施予定。

（3）新しいコミュニティ形成方針と持続可能なコミュニティ運営体制の検討

- 自治区の役割を整理するとA～Dの4つの役割が見えてきた。
 - A：近隣住民の親睦・相互扶助
 - B：地域の環境管理
 - C：行政からの委任業務
 - D：行政への要望・陳情
- A・Bの部分は減らすのが難しいが、Cは棚卸が必要。スリム化できるところ、小学校区が担うところ、コミュニティマネージャーがどこに変わるのかなどは、今後つめていかなければいけない。

- 小学校区コミュニティの役割は、色んな人達が話をするプラットフォームのイメージ。そこにどんな役割を担わせるかは今後詰めていく必要がある。

〈玉城町より〉

- 地域の人がマルシェ等を活発にしている、いい雰囲気がある。先日「たまきつながるマルシェ」の出店者でふり返りをした。その話を聞いていると「コミュニティに参加するためにどうすればいいのか」という意見が多く「参加」に壁があることが分かった。例えば、ママさんは土日の参加が難しい状況がある。コミュニティづくりや参画への見方が変わった。
- 玉城つながり特命系の動きについて。8/1から計画を練り、先日計画の発表会をした。大きくは「まつり」というキーワードにまとまっている。予算化につなげて、次年度以降は実行につなげていく。

〈意見交換〉

- デートコースづくりについて。現在、大学の実習事業で地域の体験ツアーを企画している。その中で田丸のデートコースを検討している学生がいるが、何か関わることがあるか。
 - きっかけは、たまきふれあい農園のノグチオサミさんという若い方から玉城のお店をまわってほしい、そのきっかけとして「婚活」はどうかという提案があった。「出会いの斡旋」と「玉城の活性化」を絡めてやろうとするのが目的。婚活目的じゃない人にもいろいろ回ってもらうのはどうかと内容を検討しており、玉城町の産業だけでなく、神社なども訪れ体験しながら玉城町内をめぐる、特産を持ち帰ってもらうコースづくりをしている。詳細はこれからだが、現時点でふれあい農園、アスピア玉城などが関心を示している。また「玉城らしさ」を考えるなかで、玉城の食材を使った料理教室をして交流を深めてもらうアイデアもある。まだ計画段階なので、表立って募集などはしていない。
- 「誰でも訪れることができる集いの場」は、実は敷居があるのでは。集いの場を求めている人もいる。そういった人と「集いの場」とのつながりが何かあるといいなと思った。行かなくてもいいけど、そこに場があることは認識して、それはそれでいいと表明できたりできるといい。
 - 南粕谷の活動で特徴的なものの一つに、子どもと大人と一緒にやるバンド活動がある。ドラマーが小学1年生。ギターやベースは高齢の方。世代を超えた交流が生まれている。場には子どもたちもいるし、コーヒーを飲む人もいる。用事がなくても来ることができる場所になっているのは確か。場づくりとして生かせるものがありそう。

② 報告「玉城苑、殿町地区におけるヒアリング」について（池山氏より）

〈概要〉

- 玉城町内の3類型を調べ、違いが出てくるかどうかを調べる
- 実施地域
 - ① 玉城苑（昭和40～50年代開発の新興住宅地：オールドニュータウン）
典型的な新興住宅地
 - ② 殿町地区（JR参宮線田丸駅周辺の旧城下）

旧城下は町割りが細かく、自治区も小さいエリアで作られている

③ 野篠地区

昔からの農村地域

- 10月中に2か所(①②)で聞き取り調査を行った

〈調査対象①：玉城苑について〉

- 人口は均衡している(2000年～2015年)
- 高齢化率は2015年時で24.4%。全国平均、玉城町平均よりも低く、比較的低い。しかしだんだん上がっている。高齢化率だけでなく、実数も増えている。
- 昔はお店があったが、現在はなく、買い物や通院に変化が生まれている。
- 区長を2回されている元役員の方にインタビュー調査を行った。(10/17)

〈調査対象②：殿町地区について〉

- 人口は徐々に減っている(2000年～2015年)
- 2015年の高齢化率42.7%。全国平均(28.9%)よりも高い。
- 中心市街地(特に殿町・勝田町)で高齢化が特に進んでいる。
- 現在の区長にインタビュー調査を行った。(10/27)

〈調査の内容〉

• 質問項目

- 下記の2つの質問をうかがった。

1. 現在の自治区の運営でお困りのことはありますか？どんなことですか？
2. 10年前と比べて変化したことはありますか？どんなことですか？

• インタビュー調査の内容

〈玉城苑〉

- 会則が細かく、度々変更している。「会則を詳細に決めて、それに従って運営をしているのでトラブルが少ないのではないか」と言われている。
- 世帯数が約200世帯で組は8組ある。集会所もないので大きなイベントを企画してきた。もともと他人同士なので、親睦する機会をつくらないと親睦する機会がない。
- 売れ残りの土地が現在も売買されており、新たに家を建てる人がいるのが、人口が均衡するポイントとなっている。空いた土地を息子夫婦が買うなど、団地内分家が起きている。子育てにも便利なのでそういった動きがあるのでは。
- 課題は、区長のなり手不足。5期務めた区長もいる。基本的には1回で抜けるものだが、なかなかうまくいかない。
- 出合は区で一斉に行く。地区で機械を購入し、草刈りもしている。
- 任期は12/25～。新年を新しい役員出迎える。

〈殿町〉

- かつては殿町通り商店街と言われて賑わっていたが、空き地が増えている。現在は八百屋が1軒残るのみ。
- 現在28世帯。
- 現役世代は役員の仕事を担うのが難しいので、役員は高齢になりがちになる。
- 殿町地区の中心地は、戦後復員した人がお寺の土地を借りて商売をはじめたのが発端。お寺からの借地を使っていた人は世代交代するときに檀家の許可をとる必要があり、代替わりが難しい。寺の借地という理由から、住み替えが

できず、借地が増えている。

- 平成 29 年の台風 21 号では床上 40 cm の浸水があった。そのときに昔の写真や映像資料もだめになり捨ててしまった。(その話がきっかけでとのまち縁日につながった)
- 地区としての課題は、空き地、空き家、役員のなり手不足。
- 区長が防災のための資料を独自で作成して、区民に配布、災害時配の要配慮者についてリスト化して管理している。
- 任期は 2 年で、1 月～12 月。

〈規約調査〉

- 玉城苑の規約は殿町の規約の約 2 倍の量がある。
- 目的の表記の違いについて。
殿町は「概括提示方式(ざっくり)」で玉城苑は「例示列举方式」。殿町の規約は共通理解がベースになっている地域であり、組織である。“古くから人が住むエリア”と“新しく人が住むエリア”は、背景にある文脈が違う。地域のつながりの強さや弱さという視点で考えると、玉城苑は他人同士が集まり、文脈を共有していない人の集まりなので、細かく定めていかないと協力し合えない、理解し合えないというのがある。
- 2 地区とも頻出語は「区長」がかなり多い。その次に多いのは、殿町では「組頭」、玉城苑では「会員」。殿町は旧町割りの城下で、縦構造の伝統の事務処理体制がある。玉城苑は「会員」についての条項の多さから、権利意識や平等などがプリントされていないことが感じられる。
- 玉城苑の規約は度々修正をしている。問題が起こったらその都度修正をしてきたことがうかがえる。

〈意見交換〉

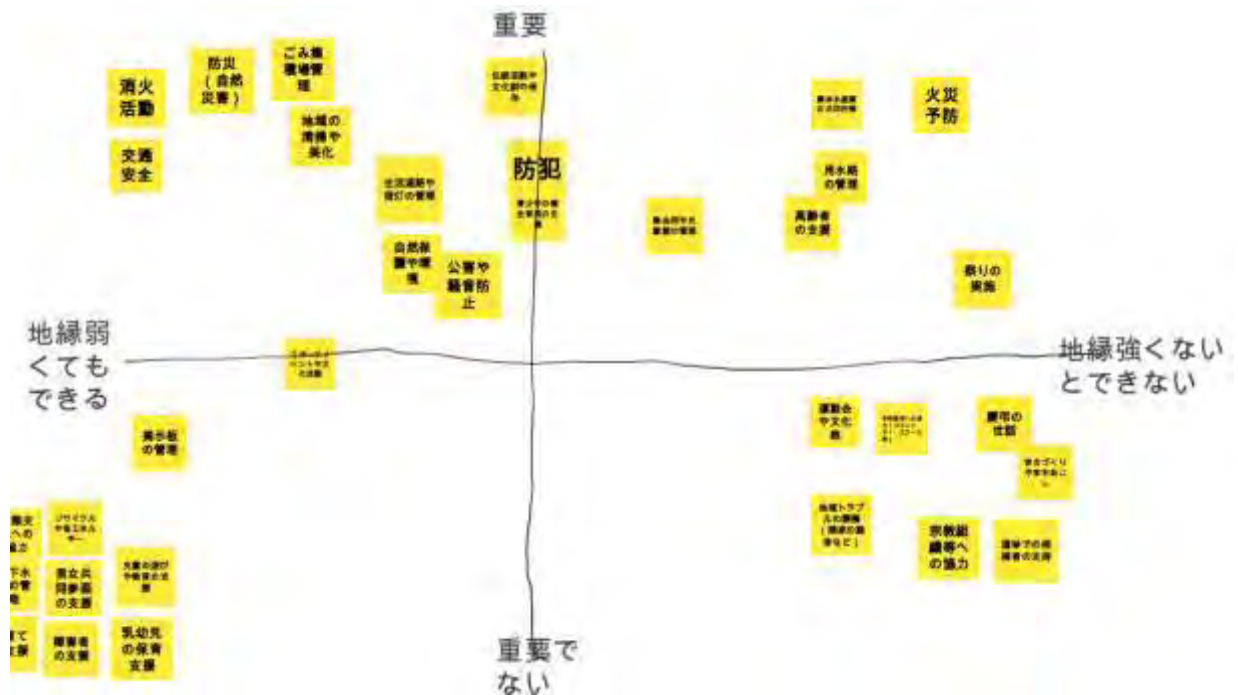
- 玉城苑は考え方がシンプルで「暮らしていくためにどうするのか」という部分が軸になっている。地縁のわずらわしさが少ないように感じた。逆に、殿町は地縁ならではの難しさを乗り越えるために曖昧にしている部分が多い。どちらの区も区長、役員が一生懸命で、玉城の中で活発に活動されている区である。
- 2 つの地区は同じ小学校区なのか。
 - 玉城苑は「外城田小学校」で殿町は「田丸小学校」。
 - 先日、4 小学校区における特命係の企画の発表を聞いたが、そもそも小学校区に分けて考えること自体の必要性がわからなくなった。どの地域も前提や課題が違う。玉城町自体が、変化に対してどう捉えているか。玉城苑は変化を容認しているが「変化に対して前向きにとらえる＝都市型」とは違う。まちづくりを玉城町としてどうとらえていくか、ということを考えて。
 - 小学校区での事業展開はトップの考えでもある。個人的には玉城町の地域には 3 つの類型があると考えている。それが小学校区の特長にもなる。だからといって地区には農村しかないわけではない。小学校区という 1 つの見方だけに偏るのは危うさもある。
 - 玉城町で人口減少が緩やかな要因について。現在、空き家が活用されている事例がほぼない。これは既存住宅の機会損失になっている(いいエリアがいいように使えていない)。開発で人口が維持されるかたちを進めていっていいのか。

根本的な議論がどこかでは必要になる。旧市街から減る人口を、農地を開発して建てた家での増加でまかなうと、量的には変わらないが、質的なものは変わっている。つまり玉城町の地域コミュニティの質が変わっていく。それをどう受け止めて、受け入れていくのか。あるいは、そういうのを抑制するのか。旧市街の住み替えを促進する必要もあるのではないか。

- 殿町でいま壊している家があるが、実は家主は空き家を貸すことに前向きだった。しかし寺が所有する土地だったので、法的には貸すことはできるが昔からのつながりを意識して結局は貸さなかった。権利を行使するのではなく曖昧なものを重視する。殿町の規約は「ざっくり」の後ろに慣習法が控えている。
- 勝田地区は、封建的。中心部はほとんど人が減っている。地区全体では増えているが、中心部は減っている。旧市街地の住み替えは町としても介入の必要性を感じている。もう優良な土地がない。開発できる土地の限界がある。住み替えをしていかないと色んなコミュニティが成立しない。

③ 意見交換「玉城町における地縁コミュニティの指標（仮）について」について

- 地縁組織活動のグラデーションを指標で表すために、尺度をつくるためのベースづくりの意見交換を行った。ジャムボードで自治区の「活動」をマッピングしながら、地縁との関わり、地域における重要性などについて意見を出し合った。



〈議論の中で出た意見〉

- 活動に関する意見（一部）
 - 「祭りの実施」…地縁が強くないとできない。
 - 「農林水産業の共同作業（出合作業）」…地域によって優先度が違う。必要などころでは高い。
 - 「慶弔の世話」…地域によって重要度、優先度が違う。現在で考えるとかつてほどは高くないのでは。
 - 「防災」…地縁が弱くてもやらないといけない。地縁に関わらず、高優先事項。

- 「伝統芸能・文化財の保存」…優先度高い。祭りとリンクしていることもある。
- 「地域の清掃や美化」…やらないといけない。行政がするか地域がするかで線引きが難しい。
- 「掲示板の管理」…管理だけなら地縁は必要ないの。ゴミ出し場の近くにあるので、必ず見る場所にはある。お知らせを貼ることで情報共有になっている。
- 「集会所の管理」…地縁が必要。自治会組織の持ち物であり、自治会に入っている人しか使えない。玉城町では、地縁が強くない地域の自治会は集会所を持っていない（公共施設を使っている）
- 「防火・消火」…命に関わることなので優先度は高い。しかし消火と防火では違う。消火活動は地縁がなくてもできるの。防火は地縁がないとできない。
- 「防犯」…地縁が強くないとできないわけではないが、強いと効果が高い。
- 「青少年の健全育成の支援」…防犯と似ている。見回りなどのイメージがある。
- 「自然保護や環境」…生死には関わらないので優先度は低い？
- 消火活動は実害を及ぼす可能性があるの、優先度が高い。掲示板は無視してもどうにかなる。
- 学校との連携は、地縁が弱くてもできる。学校と「自分」ならできるが「地域」とだと地縁が強くないとできない。

• **分類に関する意見（一部）**

- 主語を誰にするか。主語は「住民」か「自治区」か。例えば「祭り」「慶弔の世話」は地区としては必要でも、住民はしんどいと思っているかも。
- コロナでなくなったものは優先度が下がっている。（祭り、慶弔の世話など）コロナでもあったものは優先度が高い。（出合作業など）と考えてはどうか。
- 横軸は「地縁をどれくらい必要とするか」。（そうすると主語は「事業」）
- 世間一般的な受益になるか、一部の人の受益になるか、で優先度を判断してはどうか。（農林水産業の共同作業、用水路の管理などは一部の人の利益になる）
- 「地縁」とは何か？そこに居住していることによって生まれる住民同士の関係性。
- 低優先に下げるときの考え方は？「発生頻度」または「コロナ禍でもやるかやらないか」など。すべてはできないので「優先度高」から下げていく勇気が大事。4象限でなくても縦横のみで考えてもいいのでは。
- 「地縁が弱くてもできる」と「地縁が弱くてもしないといけない」は別の話。地縁が強いとさらに効果大というのは広範囲の活動に反映できそう。

④ **その他**

〈玉城町より〉

- コミュニティを活性化させるために実装していくフェーズに入っている。何か今後へ向けた意見を一言ずついただけませんか。
- 自治区のヒアリングの内容が興味深かった。地域コミュニティの運営について現場の声を聞く（把握する）必要がある。
- 集会所や小学校な度を活用して寺子屋ができないか。住民が子どもを預かり、預かる住民が持つスキルを提供する寺子屋。例えば、自治会に加入していない20,30代の単身暮らしの人がサッカーを教えるスキルがあるとき、地域の子どもに教えることができる。

単身者も親御さんも、子どもにもメリットがある。子どもたちに教えるための仕組み、プログラムづくりを支援する仕組みが必要。

- 地域運営に必要なのは話し合いのやり方を改善すること。そこを改善しないと、地域運営は進んでいかない。話し合いのやり方を学ぶ講座を地域リーダー養成研修などの中に組み込んでいくといいのでは。
- 地域の将来像を考える場が必要。自主性を促すなら、地域のまちづくり将来像の計画書をつくろうと呼びかけ、地域に自ら気づいてもらわないといけない。兵庫県でも同じことをしている。みんなで悩む時間をつくり、みんなで将来像をつくる必要がある。
- テーマ型のコミュニティなどさまざまなフレームを提供してきている。地域で課題の話題になると「田舎はそういうものだ」というところに着地するが、地域が必要な変化を取りに行かないといけない。住民意識へのアプローチができるといい。
- 健康づくりを通じて若い世代を繋ぐ場があるといい。特に子育て世代、高齢者の集いの場は既にあるのでそれとは別にできないか。ヨガやキャンプなど玉城を活かしたアクティビティも面白そう。
- 住民の意識変容にどうつなげるか、が大切。
- 自治組織として、やらなければいけないこと、省略化できることを見極めていくことが大切。棚卸しつつ、機能を損ねないように省力化していく工夫がいる。役場が依頼するときも、中身を精査して、サポートしていくことが必要。地味だがそれをやることで、地域コミュニティの下支えになる。

第4回玉城町コミュニティのあり方研究会 議事録

開催日時：令和4年2月8日（水）14:00～16:00

開催方法：WEB 会議システム「Zoom」を使ったオンライン開催

参加：浅見雅之氏、池山敦氏、石丸隆彦氏、伊藤純子氏、名取良樹氏、橋本大樹氏（50 音順）

オブザーバー：地域問題研究所

① 「令和4年度小学校区を中心としたコミュニティ形成支援業務」の進捗について（一般社団法人地域問題研究所より）

〈報告〉

【1】自治区支援

- 原区の ICT 導入サポートをしている。
- 経緯は、昨年度実施した「地域の未来を考える原トーク」で住民から「回覧板に LINE を活用できないか」というアイデアが出たことから。
- 希望する運用方法のヒアリングを行い、公式 LINE 開設やお試し配信をサポートした。
- 12/24～原区の公式 LINE を立ち上げ、電子回覧板の試験運用を開始。現時点で 50 人登録している。回覧の内容は、評議委員会の議事録、日頃の防災情報、活動報告など。
- 今後は、運営者への経過観察（運営のしやすさ、希望や課題など）、登録者への効果検証（利用満足度、知りたい情報など）を行っていく。

【2】テーマ型コミュニティ支援

- これまでの活動に加えて、現在下記の活動にも関わっている。
- 『「玉城で出会う、玉城と出会う。」デートコース作戦』の企画。経緯は、農園経営者からの玉城町の移住定住促進、町内の魅力 PR に関する相談からスタート。関係者との Zoom 会議を実施し、対象、内容、告知方法などを打合せした。今年4月実施を目標にモニターツアーを実施する予定。
- 『はじめての方もチャレンジしやすいマルシェづくり』の企画。「たまきつながるマルシェ」をきっかけに、マルシェ出店初心者と出会い、マルシェ未経験者でも「できそう」「やってみたい」と思えるマルシェイベントを計画している。
- 『玉城町ポッチャ大会』の企画。玉城町自立支援協議会から障害のある方への理解を深める体験を実施したいという相談を受けたことからスタート。子どもから大人まで障がいのある人への理解を深めること、ポッチャを通して障がいの有無に関わらず交流の機会を設けることをねらいとする。体験会、本大会の2回の交流の機会を設ける予定。

【3】コミュニティ活動実践研修会

- 『やりたいことを仲間と楽しくやってみるヒントを学ぶ』をテーマに研修会（3回）を実施。講師は M ブリッジ石丸氏にお願いしている。
- “玉城町への想いや関心はあるが、動けていない人”を対象とし、プレイヤーを増やしていくことをねらいとしている。
- 第1回ではすでに地域で活動する人に活動紹介をしてもらいながら、人を集めるときのポイントや心がけていることを発表していただいた。第2回は興味を持ってもらう活動の見え方、見せ方を考えた。第3回では「自分も、みんなも楽しいイベント・活動

づくり」を考える予定。

- 30～90代まで幅広い世代が参加。参加者同士が連絡先を交換する場面もあり、新たな交流が生まれている。

【4】コミュニティ形成方針

- 玉城町が目指すつながりのかたちとして、新たな地域コミュニティを示している。
- 旧来の「自治区を軸とした地縁による人のつながり（自治区）」と、新しく入った人も関わりやすい「『やりたい』『できる』を軸としたテーマ型による人とのつながり（テーマ別コミュニティ）」の2つを軸にしなが、地域づくりを進めることが目指す姿としている。
- 自治区支援では、取り組み内容のスリム化、役割の見直しのほか、ICT導入による効率化、自治区での話し合い支援に携わっていく。
- テーマ型コミュニティ支援では、「やってみたい」を話し合える場づくり、アイデアを試せる場づくりなどを行い、一緒に楽しみながら成功体験の共有・仲間づくりを進めていきたい。

〈意見交換〉

- 原地区のLINEの取り組みが興味深い。もともと自治区は全世帯が加入する（前提）があるが、LINEはどのような位置づけなのか。（回覧版の補助的役割なのか、回覧板を廃止するのか）
 - 地域の中でも最初の時点で議論が出た。前提としては、紙での回覧はやめずに、補助的にLINEを使うということにした。ただ組によっては、LINEをメインとして紙での回覧をやめる組も出てくるかもしれない。実態に即しながら運用をしていきたい。
- 他地域での地域コミュニティのLINEの使用状況は？
 - 地元（神戸市東灘区）では、防災福祉コミュニティ（防災の取り組みをしている地元住民のメンバー）がLINEを基本としたやり取りしている。
 - 他の自治区コミュニティでも役員レベルだと、LINEでやり取りしている人も多い。しかしそこが限界ではないか。
 - 回覧板を残してLINEも増やすのは、負担が増える。ここがジレンマである。
 - 原地区でLINEを導入するときは、運用する役員自身は「負担軽減にならない」ということは織り込み済みだった。地域には90歳以上の高齢者もいるので、紙の回覧板をなくす選択肢はない。しかし情報のスピード感、時差をなくすという意味でLINE活用に意義があり、導入したいという思いがあった。
 - 回覧板を回すことは「生存確認」にもなるという視点もある。
 - 原地区の電子回覧板の特徴の1つに、文章量の多さがある。元データをそのまま貼ることで、情報提供をする人の負担軽減をしている。
- LINEがスタートする前段階の「原トーク」を開催するまでの経緯は？
 - 玉城町社会福祉協議会の局長が原地区の役員をしていた。彼の「住民全員の想いききたい」という思いから始まった。
- 今回、LINEを導入したことで住民の情報の取り方を考え直す必要があるのでは。回覧板は黙っていても回ってくるが、LINEは開かないと情報が得られない。これまで受動

的だった住民の意識が能動的になるのでは。今後 LINE に振っていくのであれば「基本、情報は取りに行くもの」と考えるのもよい。LINE ができない人は、集会所にデジタルサイネージなどを設置し、そこに情報を取りに行くという方法もある。

- 現時点で、必ず届けないといけない情報は、回覧板を使っている。しかしそれを見ていない人がいるということから「回覧板」は適切ではないのでは。
- 回覧が回ってきても見ない人もいる。また回ってきても家族みんなが見るわけではない。大切な情報は、防災受信機が町から配布されているので町からの情報が伝わる仕組みはある。何の情報をどこに伝えるか、切り分けや習慣づけが必要になる。
- 情報の発信側の期待するものと受け手のほしいもの、情報のレベルをすり合わせて、これは LINE 発信で、これは回覧板で、これは各戸配布で…と区別していると事務局はどんどん大変になる。
- 次年度以降、地縁組織にフォーカスを当てて2つのテーマを掘り下げて考えていきたい。1つは「自治区役員の負担軽減」でもう1つは「自治区の加入率」。重要事項は役場から個別に直接送るなかで、回覧板で本当に「みんな」に伝わっているのか。役所からの依頼の棚卸、整理しながら、情報や紙を精査していった方がいい。引き続き、検討していきたい。

② 「玉城町地域コミュニティのあり方研究かいからの提案（素案）」（池山氏より）

〈報告〉

【1】現状認識

- 社会情勢が変化し、昔と同じでは暮らしにくく感じる住民、転入者などが生まれるなかで、人のつながり、維持の面で難しさが生じている。
- 地域コミュニティの基礎単位は自治区（＝自治会）であり、玉城町には69の自治区が存在する。近隣住民の親睦を深め、町からの委託業務を担うなどして住民の生活基盤を支えている。

【2】そこにある課題

ア) 地域における人材不足

- 令和3年度の調査によると、多くの区長が「(役員) 仕事が大変」と感じ「役員など運営を担う人材不足」を課題だと回答している。
- 60代の男性67%、女性46%が何らかの形で働いており、65歳定年化、再雇用が進み、地域に人材が戻るタイミングが遅れることに拍車をかけている。

イ) 自治区加入率の減少

- 町が把握する自治区の加入率は約7割。全世帯が加入しているとは言い難い。地域自治会は一般的に「全世帯加入性」の性質があり、その性質を基礎とした「地域代表制」について、また自治区の持続可能性について懸念が持たれる。

ウ) 地域における目的別行動の低調

- 調査によると町民の45%が自治区の活動に参加しているが、アンケートの回答からは「地域活動」「市民活動」へのイメージが持ちにくく、それらに対する啓発、支援策が乏しい現状がある。

【3】解決策

〈解決策の方針〉

① 「まちづくり協議会制」について

- 地域課題解決のための組織として全国で6000を超えるまちづくり協議会が設立されている。町村合併に伴い広域化したエリアに対して、地域課題の解決に事業型でアプローチする組織として存在している。
- 本町での導入はすべきではないと考える。平成時代に合併を行っておらず、広域化に対応する必要性がない。自治区の運営における課題が「役員の業務負担」「役員の人材不足」であるならば、自治区より広範囲での協議会制を敷くことで、自治区を廃止するのではない限り、必要な役員の絶対的人数が増加する（兼務が進む）ことになり、さらなる負荷を強いることになるからである。

② 地縁・目的別の「つながり」の考え方に基づく解決策の方針

- 社会生活における組織の形成については「地縁によるつながり」と「目的縁によるつながり」がある。誰一人取り残さずに、持続可能な地域コミュニティを考えるにはこの2つが重要な両輪であり、それぞれを維持し、育み伸ばしていくことが必要である。
- 「地縁によるつながり」は物理的な近さがあり、災害発生時の助け合いや日常生活の困りごとの解決等の際に非常に重要である。「地縁によるつながり」を維持し、増進することが必要である。また地域生活の豊かさの面から、比較的近い距離の中で趣味や嗜好、社会参加の度合いなどに合わせて住民が希望する活動に参加することを通して「目的縁によるつながり」をつくることも必要である。

〈具体的解決策〉

① 「地域における人材不足」に対する解決策

A) 自治区業務についての見直し

- 役場各課、区長への双方のヒアリング調査を実施し、依頼事項の棚卸し、スリム化を検討する。

B) 地域人材育成のための社会教育プログラムの実施

- 持続可能な社会づくりを進めるには住民自らが担い手として地域運営に主体的に関わることが必要であり、「人づくり」「地域づくり」の「学びと活動の好循環」が重要。
- 令和4年度に実験的に実施した「玉城町コミュニティ活動実践講習」の内容を充実させ「たまきまちづくり大学（仮称）」を定常化する。人生100年時代の地域活動の担い手にとって必要な知識、実践を学ぶ場をつくる。
- 子供まちあるき、模型ワークショップも住民のボトムアップで地域への関心、Uターン意識を醸成するために引き続き実施する。

② 自治区加入率の低下に対する解決策

- 自治区加入及び地域活動の参加に向けての住民、住宅開発業者などへのメッセージを作成し、広く周知する。令和4年度に作成した「地域のつながりスケール（仮称）」を示し、地縁のつながりにおいて、住民に必ずお願いしたいこと、できたらしていただきたいことなどを一定程度具体的に示す。
- 住宅開発業者等には開発した宅地に入居する新住民に重要事項説明をするときに、自治区への加入の促進について説明していただくようお願いする。

③ 地域活動の低調に対する解決策

- 令和5年度に開催する「たまき人博覧会」を定期開催する。3年に一度、2年に一度程

度開催するイメージ。

- 「たまき町民活動センター（仮称）」を設置し、目的別の縁である市民活動に対して中間支援を行う。

【4】効果と目指す姿

- 自治区業務の見直しにより、区長の負担を軽減する。
- 地域人材育成のための社会教育プログラムの実施により、地域活動への関心を高め、「地縁」「目的縁」の両面から地域に関わる人を増やす。
- 自治区加入率の7割を維持し、可能であれば向上させる。自治区のもつ地域代表制を維持する。
- 地域での同好のつながりを増やすことで、地縁だけでなく目的縁も育み、ネットワークにつながっていない人を減らし、誰一人取り残さない持続可能な地域形成を目指す。

〈意見交換〉

- 地域応援組織（〇〇協議会）がいないのは理屈としてはその通り。兼務が増える2階建て組織をつくるのには意味がない。一方で、それを業務として関わられる専任のスタッフ（コーディネーター等）がいて、自治会長などの仕事をサポートできる仕組みがあれば、役に立つ可能性もある。それを広域で引き受ける仕組みを整えば、無意味ではない。
- 現状では、地域について考えることを専属業務にしている人がいない。ボランティアで行っている。国の地域支援員のような制度を活用できればいいのでは。
- 自治区専属のスタッフには、どんな仕事があるのか？
 - ▶ 伊勢市では交付金をもらい、事務員を雇っている。報酬は月15万程度。仕事の内容は主に事務処理、事業のコーディネート、会計処理など。総会資料の作成、パソコンを使えない自治会長の手書きの書類を入力するなどの事務代行がメイン。
 - ▶ 兵庫県では各班長（回覧板の送信元）に資料を配るのを自治会長がやっていたが、広域の事務局員がやるようになって手間が大幅に削減された例がある。
- 地域のこと全般を担う「自治会株式会社」（マンションにおける管理会社のイメージ）を地域住民が出資してつくり、地域が運営していく会社にする、というのは夢物語ではない。マンションの管理組合ではそれが成立しているし、同窓会の事務局を外注するように事務代行の例や仕組みはある。問題は、それをボランティアでするのか、お金で解決するか、という点。これまでボランティアでしているので、住民が金額に対して理解が追い付かない。マンションの人は最初からそのつもりで入るので抵抗がない。
- 「地域のつながりを維持すること」と「苦労を分かち合うこと」は分けて考える。苦労の側は、お金で解決するという考え方もある。
- 「誰一人取り残さない」からスタートすると、仕組みが肥大化してしまう。民間ベースなら「目の前の1人のお年寄りを取り残さない」を横展開で広げていく方が結果的にみんなを取り残さないで済むことにつながる。
- 「まちづくり協議会」は地域課題解決のための組織として設立されているというが、課題解決型のアプローチよりも、地域にある良いものを伸ばすアプローチの方が結果的に課題解決にもつながるのではないかと感じている。
- 役場の全庁的に関わる内容は、1つの課だけでは解決できない。庁内向けに理解を得て

いくためのアドバイスが欲しい。

- 学校区の話題についてはどう考えているか。
 - 今回の話については、自治区へのフォーカスを充てているが、その集まりとしての学校区もイメージしている。
 - 現状、各単独自治区だけでやっていくことが難しいことが増えている。自治区の規模はまちまちなので、自治区によってできること、できないことの差がある。その中で小学校区としてまとまるというよりは、小学校区くらいの集まりのなかでやりたいことのグループをつくっていくことを目標にしてはどうか。自治区がこれ以上頑張ることは難しい。そのうえで、テーマ別コミュニティとのパートナーシップを目指さないといけない。マッチングの場としての小学校区を目指したい。
- 「テーマ型の活動者」は実は「地縁の活動者」でもあり、参加しない人は何も参加していないのでは。地域問題研究所の活動はすばらしいが、そこに出る人は同じではないか。いかに新しい人を引き込むのか。そこに工夫や仕掛けがないと「todo」を重ね、さらなる負担につながってしまうのでは。
 - 多くの場合において、同じ人が関わっている状況はある。しかし今回のセミナーでは町では把握していなかった人も参加している。そういう新しい人をいかに拾ってつなげていくか、が重要。そのためには寄り添わないといけない。
 - 新しいリーダーの顔が見えてきた。ターゲットは（30～）40代。研修等に立て続けに参加し、各地のイベントにも来てくれる人が4～5人いる。
 - 研修やイベントを通じて20代、30代の女性を捕まえられたことは大きい。しかしリーダーという逃げられる感じもある。関わり方の距離感や密度を慎重に見極めながら引き込むことが必要。まだまだ「行政にやってもらえばいい」というマインドがあるので「自分たちでやっていく」という意識に大きく切り換えていく必要がある。
- それらの人をキーパーソンとして育てていくにあたり、脅し型（このままだと玉城の未来が…等）でアプローチするのではなく、地域づくりをすることでどういうメリットが個人や玉城にあるかを伝えてモチベーションを上げていけるといい。よりよくしていくために「みんな（が幸せに）」という感覚は大事だが、住民個々に対してそれを語られるとしんどいところがある。「みんなのために」とか公益性という感覚が下がり、地域のつながりがなくなっているなかで、メリットや楽しさを提示できるとよい。
- 「面白いからやる」「新しいつながりが自己肯定感につながる」などのイメージでいい。今回の提案を町民に伝えるときには変換が必要になる。
- 協働のまちづくりがうたわれているが、100人いたら100人全員が協働しているというのは不自然でもある。無関心でいる自由もあるべき。みんながそれぞれのスタンスで協力できるかたちならいいが、一律イベントに参加しなければいけない、となると窮屈。活動を広げていくときに、活動者も参加しない人も否定しないという視点が必要。
- 住民が関心をもった時に受け入れる先があることが必要。学生は在学中「地域活動が大事」と感じていても、社会にでると地域に出なくなる。そのスイッチが切り替わる前に、地域とのつながりがつくれるといい。「受け入れる側」のマインドづくりも大切。
- 自治会を1つのものとしてみるのは無理がある。都市部のもの、農村のもの、新興住宅地のもの、すべて違う。この議論では「玉城町において」という視点で整理をしたい。

ある程度のつながりが維持されているところにフォーカスをあてる。それをふまえると、年代によって再生産されていく可能性があるのではないか（定年後に地域に関わりたいたいと考えるなど）。その人たちがなるべく減らないようにしていくことが必要では。

- 玉城町出身で現在、明和町に住んでいる。玉城町に住み続けていたら、地域の活動に参加しようかと考えていたと思うかもしれないが、今、明和町に住んでいる立場で考えると地域の活動には参加しようと思わない。（年を取ったから参加しようと思うマインドが生まれにくい）小さい頃に地域と触れ合い楽しかった経験がないと、年齢が上がっても地域に目を向けないのではないか。今の自治区でも「自治区の活動はいい（楽しい）」と思ってやっていない。役員からは不平不満しか聞かない。自治区の活動をするうえで楽しそうな雰囲気や背中を見せること、風潮をつくることが重要ではないか。
- 消防団とか青年団は、よくできた仕組みだった。最初は嫌がる人もいるが、入ってみると人脈ができるし、他世代と知り合いになりよかったと聞く。背景にはゆるやかな強制が働いていたが、現代ではその強制がなくなってしまった。
- 町内会で何かをするときに、する内容は何でもよくて、一緒に取り組むことに意義がある。文化祭におけるクラスの出し物のように「一致団結」するための舞台装置が必要なのかも。
- 地域が大切だと思えることを示すことは、地域のつながりづくりに向けて有効に働くのでは。やる必要性や意味はそれぞれに持っているが、高齢者と若い人の目的に達成する手段への考え方が違うことからずれが生じる。（例えば、情報を共有したいという思いは同じでも、対面を重視する高齢者とオンラインでもできる若者など）
- 自治会について考える時、多面的でさまざまな捉え方ができ、亡霊のように見えることもある。しかし、この研究会では玉城町にフォーカスできるところが、いい点である。その中でも農村、城下、市街地などでまだまだ多面性があるが、今後、来年度仕切り直しをして前に進めていきたい。

問 07 日常の主な交通手段を教えてください。

- | | | | | |
|--------|-----------|---------|----------|--------|
| 1. 自動車 | 2. バイク・原付 | 3. 路線バス | 4. タクシー | 5. 自転車 |
| 6. 徒歩 | 7. 元気バス | 8. JR | 9. その他 (|) |

(2) 地域活動について教えてください。

※地域活動とは、地区の活動や共同作業、まちづくり活動や NPO、ボランティア等の活動、まつり、行事、イベント等全般を指します。

問 08 あなたは地域活動に関心がありますか？

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問 09 あなたは地域活動に参加していますか？

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 参加している | 2. どちらかというに参加している |
| 3. どちらかというに参加していない | 4. 参加していない |

問 10 問 09 で答えた理由を 3 つまで 教えてください。

① 「参加している」「どちらかというに参加している」とご回答頂いた方

- | |
|------------------------|
| 1. やりがいがあるから |
| 2. 誰かの役に立てるから |
| 3. 知り合いや仲間が増えるから |
| 4. 時間的に余裕があるから |
| 5. 義務だと思うから |
| 6. 参加しないと周りの目が気になるから |
| 7. 地区の人との付き合いを大事にしたいから |
| 8. 人に頼まれたから |
| 9. その他 () |

3 つまで
お答えください

② 「参加していない」「どちらかというに参加していない」とご回答頂いた方

1. 仕事・学業等で時間的に余裕がない
2. お金がかかりそうだから
3. 人間関係が面倒そうだから
4. 知り合いがいないから
5. 体力がないから
6. 自分では役に立たないと思うから
7. 家族が参加しているから
8. 興味がないから
9. 意見を聞いてもらえないから
10. 地域活動に参加する意義を感じないから
11. その他

3つまで
お答えください



(3) まちづくりの「大切さ」「満足度」について教えてください。

問11 次のテーマ・内容についてあなたがこれから先のまちづくりには「大切だ」と思うもの、そして地区の現状や取り組み、町の施策への「満足度」を教えてください。

① 高齢者の健康と長生きに関すること

(キーワード 健康づくり、買い物・通院等の支援、見守り、配食サービス等)

大切だと思うか	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
満足しているか	1. 満足だ	2. 満足ではない	3. わからない

② 子育て支援等、子どもに関することについて

(キーワード 親同士の交流、子ども会、登下校の見守り等)

大切だと思うか	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
満足しているか	1. 満足だ	2. 満足ではない	3. わからない

③ 自分たちの住んでいる地区の環境について

(キーワード 草刈り、側溝そうじ、公園・河川・集会所等の美化等)

大切だと思うか	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
満足しているか	1. 満足だ	2. 満足ではない	3. わからない

④ 生きがい、趣味等の活動について

(キーワード 地区でのスポーツ活動(運動会等)、趣味の教室、サークル活動等)

大切だと思うか	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
満足しているか	1. 満足だ	2. 満足ではない	3. わからない

⑤ 空き家、耕作放棄地等のことについて

(キーワード 維持管理、活用、持ち主や状況の把握、空き家バンク、あっせん等)

大切だと思うか	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
満足しているか	1. 満足だ	2. 満足ではない	3. わからない

⑥ 防災、防犯、交通安全等「安全・安心」に関わることについて

(キーワード 地震、水害、火事、避難訓練、交通マナー等)

大切だと思うか	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
満足しているか	1. 満足だ	2. 満足ではない	3. わからない

⑦ 地区でのコミュニケーションについて

(キーワード 地区での付き合い、回覧板、掲示板、広報誌等)

大切だと思うか	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
満足しているか	1. 満足だ	2. 満足ではない	3. わからない

⑧ 地区の魅力を見つけ、世代や地区を越えて発信することについて

(キーワード 特産物、収穫体験、史跡、自然環境等)

大切だと思うか	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
満足しているか	1. 満足だ	2. 満足ではない	3. わからない

⑨ 地区の伝統を守り、伝えることについて

(キーワード 祭り、祭礼、年中行事、伝統行事、芸能等)

大切だと思うか	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
満足しているか	1. 満足だ	2. 満足ではない	3. わからない

(4) あなたは今後もこの地区に住み続けたいですか？

問 12 あなたはこの地区に今後も住み続けたいと思いますか？

1. そう思う 2. そう思わない 3. わからない

よろしければ、その理由をお聞かせください（自由記載）

問 13 あなたは自分の子どもにもこの地区に住んでほしいと思いますか？（子どもがいない方も「もし子どもがいたら」と考えてお答えください）

1. そう思う 2. 思わない 3. わからない

よろしければ、その理由をお聞かせください（自由記載）

問 14 あなたはこの地区に愛着がありますか？

1. ある 2. ない 3. わからない

よろしければ、その理由をお聞かせください（自由記載）

問 15 地区での暮らしや地域活動・事業等についてお感じのことやご意見、ご提案を自由にお書きください。(自由記載)



アンケートは以上です。この度はお忙しいところ貴重な時間を割いてアンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。アンケートの集計・分析結果について地域での報告会を予定しています。その節はよろしくお願いたします。

&[ページ タイトル]

```
CODEBOOK Q01 [n] Q02 [o] Q03 [o] Q04 [n] Q0501 [n] Q0502 [n] Q0503 [n] Q0504 [n]
Q0505 [n] Q506
  [n] Q0507 [n] Q0508 [n] Q0509 [n] Q0510 [n] Q0511 [n] Q0512 [n] Q0513 [n] Q0601
[n] Q0602 [n] Q0603
  [n] Q0604 [n] Q0605 [n] Q0606 [n] Q0607 [n] Q0608 [n] Q0609 [n] Q0610 [n] Q0611
[n] Q0612 [n] Q0613
  [n] Q0614 [n] Q0615 [n] Q0616 [n] Q0617 [n] Q0618 [n] Q0619 [n] Q0620 [n] Q0621
[n] Q0622 [n] Q0623
  [n] Q08 [n] Q09 [n] Q1001 [n] Q1002 [n] Q1003 [n] Q1004 [n] Q1005 [n] Q1006 [n]
Q1007 [n] Q1008 [n]
  Q1009 [n] Q1011 [n] Q1012 [n] Q1013 [n] Q1014 [n] Q1015 [n] Q1016 [n] Q1017 [n]
Q1018 [n] Q1019 [n]
  Q1020 [n] Q1021 [n] Q1101 [n] Q1102 [n] Q1103 [n] Q1104 [n] Q1105 [n] Q1106 [n]
Q1107 [n] Q1108 [n]
  Q1109 [n] Q1110 [n] Q1111 [n] Q1112 [n] Q1113 [n] Q1114 [n] Q1115 [n] Q1116 [n]
Q1117 [n] Q1118 [n]
  Q1201 [n] Q1301 [n] Q1401 [n]
/VARINFO POSITION LABEL TYPE FORMAT MEASURE ROLE VALUELABELS MISSING ATTRI
BUTES
/OPTIONS VARORDER= VARLIST SORT= ASCENDING MAXCATS= 200
/STATISTICS COUNT PERCENT MEAN STDDEV QUARTILES.
```

コードブック

記録

出力の作成日付	13-MAR-2023 14:57...
コメント	
入力 データ	/Users/ikeyamaatsushi/ Dropbox/01皇學館 /R04TMK/まちづくりア ンケート/アンケート集計 /2022野篠.sav
アクティブ データ セット	データセット1
フィルタ	<なし>
重み付け	<なし>
分割ファイル	<なし>
作業データファイル 内の行数	89

記録

シンタックス	CODEBOOK Q01 [n] Q02 [o] Q03 [o] Q04 [n] Q0501 [n] Q0502 [n] Q0503 [n] Q0504 [n] Q0505 [n] Q506 [n] Q0507 [n] Q0508 [n] Q0509 [n] Q0510 [n] Q0511 [n] Q0512 [n] Q0513 [n] Q0601 [n] Q0602 [n] Q0603 [n] Q0604 [n] Q0605 [n] Q0606 [n] Q0607 [n] Q0608 [n] Q0609 [n] Q0610 [n] Q0611 [n] Q0612 [n] Q0613 [n] Q0614 [n] Q0615 [n] Q0616 [n] Q0617 [n] Q0618 [n] Q0619 [n] Q0620 [n] Q0621 [n] Q0622 [n] Q0623 [n] Q08 [n] Q09 [n] Q1001 [n] Q1002 [n] Q1003 [n] Q1004 [n] Q1005 [n] Q1006 [n] Q1007 [n] Q1008 [n] Q1009 [n] Q1011 [n] Q1012 [n] Q1013 [n] Q1014 [n] Q1015 [n] Q1016 [n] Q1017 [n] Q1018 [n] Q1019 [n] Q1020 [n] Q1021 [n] Q1101 [n] Q1102 [n] Q1103 [n] Q1104 [n] Q1105 [n] Q1106 [n] Q1107 [n] Q1108 [n] Q1109 [n] Q1110 [n] Q1111 [n] Q1112 [n] Q1113 [n] Q1114 [n] Q1115 [n] Q1116 [n] Q1117 [n] Q1118 [n] Q1201 [n] Q1301 [n] Q1401 [n] /VARINFO POSITION LABEL TYPE FORMAT MEASURE ROLE VALUETAGS MISSING ATTRIBUTES /OPTIONS VARORDER=VARLIST SORT=ASCENDING MAXCATS=200 /STATISTICS COUNT PERCENT MEAN STDDEV QUANTILES.
リソース プロセッサ時間	00:00:00.05
経過時間	00:00:00.00

Q01

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	2		
	ラベル	性別		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	女性	49	55.1%
	2	男性	40	44.9%
	3	その他	0	0.0%

Q02

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	3		
	ラベル	年齢		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	順序		
	役割	入力		
有効値	1	10歳代	9	10.1%
	2	20歳代	7	7.9%
	3	30歳代	15	16.9%
	4	40歳代	12	13.5%
	5	50歳代	20	22.5%
	6	60歳代	6	6.7%
	7	70歳代	12	13.5%
	8	80歳代以上	8	9.0%

Q03

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	4		
	ラベル	同居人数		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	順序		
	役割	入力		
有効値	1	1人	2	2.2%
	2	2人	19	21.3%
	3	3人	25	28.1%
	4	4人	23	25.8%
	5	5人以上	20	22.5%

Q04

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	5		
	ラベル	居住地域		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	原	0	0.0%
	2	蚊野	1	1.1%
	3	蚊野茶屋	0	0.0%
	4	松ヶ原	0	0.0%
	5	松ヶ原	5	5.6%
	6	野篠	83	93.3%
	7	矢野	0	0.0%
	8	玉城苑	0	0.0%
	9	積良	0	0.0%
	10	山神	0	0.0%
	11	田宮寺	0	0.0%
	12	勝田	0	0.0%
	13	浜塚	0	0.0%

Q0501

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	6		
	ラベル	農業		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		8	9.0%
欠損値	システム		81	91.0%

Q0502

		値
標準属性	位置	7
	ラベル	林業
	タイプ	数値型
	書式	F1
	測定	名義
	役割	入力

Q0503

		値
標準属性	位置	8
	ラベル	漁業
	タイプ	数値型
	書式	F1
	測定	名義
	役割	入力

Q0504

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	9		
	ラベル	自営業		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		3	3.4%
欠損値	システム		86	96.6%

Q0505

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	10		
	ラベル	会社員		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		28	31.5%
欠損値	システム		61	68.5%

Q506

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	11		
	ラベル	公務員・団体 職員		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		11	12.4%
欠損値	システム		78	87.6%

Q0507

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	12		
	ラベル	パート・アル バイト		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		14	15.7%
欠損値	システム		75	84.3%

Q0508

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	13		
	ラベル	専業主婦・主 夫		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		5	5.6%
欠損値	システム		84	94.4%

Q0509

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	14		
	ラベル	中学生		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		4	4.5%
欠損値	システム		85	95.5%

Q0510

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	15		
	ラベル	高校生		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		2	2.2%
欠損値	システム		87	97.8%

Q0511

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	16		
	ラベル	大学生・短大 ・専門学校		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		1	1.1%
欠損値	システム		88	98.9%

Q0512

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	17		
	ラベル	無職		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		12	13.5%
欠損値	システム		77	86.5%

Q0513

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	18		
	ラベル	その他		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		3	3.4%
欠損値	システム		86	96.6%

Q0601

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	20		
	ラベル	困りごと・食 事		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		9	10.1%
欠損値	システム		80	89.9%

Q0602

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	21		
	ラベル	庭作業等		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		6	6.7%
欠損値	システム		83	93.3%

Q0603

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	22		
	ラベル	農地山林の維持管理		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		20	22.5%
欠損値	システム		69	77.5%

Q0604

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	23		
	ラベル	日常的な相談		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		2	2.2%
欠損値	システム		87	97.8%

Q0605

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	24		
	ラベル	看病や世話		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		6	6.7%
欠損値	システム		83	93.3%

Q0606

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	25		
	ラベル	健康面の不安		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		13	14.6%
欠損値	システム		76	85.4%

Q0607

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	26		
	ラベル	緊急時の相談先		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		3	3.4%
欠損値	システム		86	96.6%

Q0608

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	27		
	ラベル	災害への備え		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		20	22.5%
欠損値	システム		69	77.5%

Q0609

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	28		
	ラベル	運転		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		4	4.5%
欠損値	システム		85	95.5%

Q0610

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	29		
	ラベル	移動手段		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		9	10.1%
欠損値	システム		80	89.9%

Q0611

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	30		
	ラベル	生活道路など 環境整備		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		5	5.6%
欠損値	システム		84	94.4%

Q0612

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	31		
	ラベル	買い物		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		4	4.5%
欠損値	システム		85	95.5%

Q0613

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	32		
	ラベル	金融機関		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		1	1.1%
欠損値	システム		88	98.9%

Q0614

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	33		
	ラベル	福祉サービス		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		5	5.6%
欠損値	システム		84	94.4%

Q0615

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	34		
	ラベル	地域医療体制		
	タイプ	数値型		
	書式	F3		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		6	6.7%
欠損値	システム		83	93.3%

Q0616

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	35		
	ラベル	子育て環境		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		5	5.6%
欠損値	システム		84	94.4%

Q0617

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	36		
	ラベル	集まれる場所		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		6	6.7%
欠損値	システム		83	93.3%

Q0618

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	37		
	ラベル	通学が不便		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		1	1.1%
欠損値	システム		88	98.9%

Q0619

		値
標準属性	位置	38
	ラベル	小学校が少人数
	タイプ	数値型
	書式	F1
	測定	名義
	役割	入力

Q0620

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	39		
	ラベル	進学に関する こと		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		5	5.6%
欠損値	システム		84	94.4%

Q0621

		値
標準属性	位置	40
	ラベル	結婚に関する こと
	タイプ	数値型
	書式	F1
	測定	名義
	役割	入力

Q0622

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	41		
	ラベル	雇用		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		9	10.1%
欠損値	システム		80	89.9%

Q0623

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	42		
	ラベル	その他		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		8	9.0%
欠損値	システム		81	91.0%

Q08

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	46		
	ラベル	地域活動にへの興味		
	タイプ	数値型		
	書式	F3		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	興味あり	49	55.1%
	2	興味なし	38	42.7%
欠損値	システム		2	2.2%

Q09

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	47		
	ラベル	地域活動への参加		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	参加している	29	32.6%
	2	どちらかという と参加して いる	26	29.2%
	3	どちらかとい うと参加して いない	11	12.4%
	4	参加していな い	22	24.7%
欠損値	システム		1	1.1%

Q1001

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	48		
	ラベル	やりがいがあ って楽しい から		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		13	14.6%
欠損値	システム		76	85.4%

Q1002

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	49		
	ラベル	誰かの役に立 てるから		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		12	13.5%
欠損値	システム		77	86.5%

Q1003

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	50		
	ラベル	知り合いや仲間が増えるから		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		23	25.8%
欠損値	システム		66	74.2%

Q1004

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	51		
	ラベル	時間的に余裕があるから		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		7	7.9%
欠損値	システム		82	92.1%

Q1005

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	52		
	ラベル	義務だと思っから		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		22	24.7%
欠損値	システム		67	75.3%

Q1006

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	53		
	ラベル	参加しないと 周りの目が気 になるから		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		8	9.0%
欠損値	システム		81	91.0%

Q1007

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	54		
	ラベル	地区の人との 付き合いを大 事にしたいか ら		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		36	40.4%
欠損値	システム		53	59.6%

Q1008

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	55		
	ラベル	人に頼まれた から		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		3	3.4%
欠損値	システム		86	96.6%

Q1009

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	56		
	ラベル	その他		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		1	1.1%
欠損値	システム		88	98.9%

Q1011

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	58		
	ラベル	仕事・学業等 で時間的に余 裕がない		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		11	12.4%
欠損値	システム		78	87.6%

Q1012

		値
標準属性	位置	59
	ラベル	お金がかかり そうだから
	タイプ	数値型
	書式	F1
	測定	名義
	役割	入力

Q1013

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	60		
	ラベル	人間関係が面 倒そうだから		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		4	4.5%
欠損値	システム		85	95.5%

Q1014

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	61		
	ラベル	知り合いがい ないから		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		9	10.1%
欠損値	システム		80	89.9%

Q1015

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	62		
	ラベル	体力がないか ら		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		5	5.6%
欠損値	システム		84	94.4%

Q1016

		値
標準属性	位置	63
	ラベル	自分では役に 立たないと思 うから
	タイプ	数値型
	書式	F1
	測定	名義
	役割	入力

Q1017

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	64		
	ラベル	家族が参加し ているから		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		8	9.0%
欠損値	システム		81	91.0%

Q1018

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	65		
	ラベル	興味がないから		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		8	9.0%
欠損値	システム		81	91.0%

Q1019

		値
標準属性	位置	66
	ラベル	意見を聞いてもらえないから
	タイプ	数値型
	書式	F1
	測定	名義
	役割	入力

Q1020

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	67		
	ラベル	地域活動に参加する意義を感じないから		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		2	2.2%
欠損値	システム		87	97.8%

Q1021

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	68		
	ラベル	その他		
	タイプ	数値型		
	書式	F1		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1		7	7.9%
欠損値	システム		82	92.1%

Q1101

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	69		
	ラベル	重要度・高齢者の健康と長生きに関する こと		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	そう思う	82	92.1%
	2	その思わない	1	1.1%
	3	わからない	4	4.5%
欠損値	システム		2	2.2%

Q1102

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	70		
	ラベル	満足度・高齢者の健康と長生きに関する こと		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	満足だ	22	24.7%
	2	満足ではない	10	11.2%
	3	わからない	54	60.7%
欠損値	システム		3	3.4%

Q1103

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	71		
	ラベル	重要度・子育て支援等、子どもに関する ことについて		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	そう思う	79	88.8%
	2	その思わない	1	1.1%
	3	わからない	8	9.0%
欠損値	システム		1	1.1%

Q1104

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	72		
	ラベル	満足度・子育て支援等、子どもに関することについて		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	満足だ	19	21.3%
	2	満足ではない	22	24.7%
	3	わからない	46	51.7%
欠損値	システム		2	2.2%

Q1105

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	73		
	ラベル	重要度・自分たちの住んでいる地区の環境について		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	そう思う	81	91.0%
	2	その思わない	1	1.1%
	3	わからない	6	6.7%
欠損値	システム		1	1.1%

Q1106

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	74		
	ラベル	満足度・自分たちの住んでいる地区の環境について		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	満足だ	46	51.7%
	2	満足ではない	17	19.1%
	3	わからない	25	28.1%
欠損値	システム		1	1.1%

Q1107

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	75		
	ラベル	重要度・生きがい、趣味等の活動について		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	そう思う	73	82.0%
	2	その思わない	4	4.5%
	3	わからない	11	12.4%
欠損値	システム		1	1.1%

Q1108

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	76		
	ラベル	満足度・生きがい、趣味等の活動について		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	満足だ	17	19.1%
	2	満足ではない	19	21.3%
	3	わからない	51	57.3%
欠損値	システム		2	2.2%

Q1109

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	77		
	ラベル	重要度・空き家、耕作放棄地等のことについて		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	そう思う	70	78.7%
	2	その思わない	0	0.0%
	3	わからない	18	20.2%
欠損値	システム		1	1.1%

Q1110

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	78		
	ラベル	満足度・空き家、耕作放棄地等のことについて		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	満足だ	9	10.1%
	2	満足ではない	20	22.5%
	3	わからない	58	65.2%
欠損値	システム		2	2.2%

Q1111

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	79		
	ラベル	重要度・防災、防犯、交通安全等「安全・安心」に関わることについて		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	そう思う	87	97.8%
	2	その思わない	0	0.0%
	3	わからない	1	1.1%
欠損値	システム		1	1.1%

Q1112

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	80		
	ラベル	満足度・防 災、防犯、交 通安全等「安 全・安心」に 関わることに ついて		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	満足だ	21	23.6%
	2	満足ではない	18	20.2%
	3	わからない	47	52.8%
欠損値	システム		3	3.4%

Q1113

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	81		
	ラベル	重要度・地区 でのコミュニ ケーションに ついて		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	そう思う	81	91.0%
	2	その思わない	3	3.4%
	3	わからない	5	5.6%

Q1114

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	82		
	ラベル	満足度・地区 でのコミュニ ケーションに ついて		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	満足だ	39	43.8%
	2	満足ではない	15	16.9%
	3	わからない	32	36.0%
欠損値	システム		3	3.4%

Q1115

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	83		
	ラベル	重要度・地区の魅力を見つけ、世代や地区を越えて発信することについて		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	そう思う	72	80.9%
	2	その思わない	3	3.4%
	3	わからない	13	14.6%
欠損値	システム		1	1.1%

Q1116

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	84		
	ラベル	満足度・地区の魅力を見つけ、世代や地区を越えて発信することについて		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	満足だ	21	23.6%
	2	満足ではない	16	18.0%
	3	わからない	49	55.1%
欠損値	システム		3	3.4%

Q1117

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	85		
	ラベル	重要度・地区の伝統を守り、伝えることについて		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	そう思う	70	78.7%
	2	その思わない	8	9.0%
	3	わからない	11	12.4%

Q1118

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	86		
	ラベル	満足度・地区 の伝統を守 り、伝えるこ とについて		
	タイプ	数値型		
	書式	F7		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	満足だ	23	25.8%
	2	満足ではない	17	19.1%
	3	わからない	47	52.8%
欠損値	システム		2	2.2%

Q1201

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	87		
	ラベル	あなたはこの 地区に今後も 住み続けたい と思いますか？		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	そう思う	72	80.9%
	2	その思わない	0	0.0%
	3	わからない	16	18.0%
欠損値	システム		1	1.1%

Q1301

		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	89		
	ラベル	あなたは自分の子どもにもこの地区に住んでほしいと思いますか？ (子どもがいない方も「もし子どもがいたら」と考えてお答えください)		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	そう思う	55	61.8%
	2	その思わない	6	6.7%
	3	わからない	27	30.3%
欠損値	システム		1	1.1%

Q1401

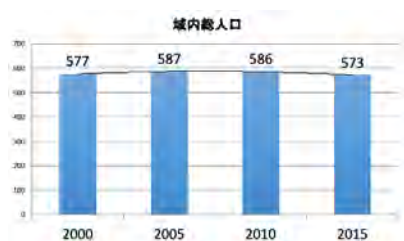
		値	カウント	パーセント
標準属性	位置	91		
	ラベル	あなたはこの地区に愛着がありますか？		
	タイプ	数値型		
	書式	F8		
	測定	名義		
	役割	入力		
有効値	1	そう思う	66	74.2%
	2	その思わない	1	1.1%
	3	わからない	22	24.7%

第3回研究会報告

自治区インタビュー調査より
皇學館大学 教育開発センター池山敦
20221202

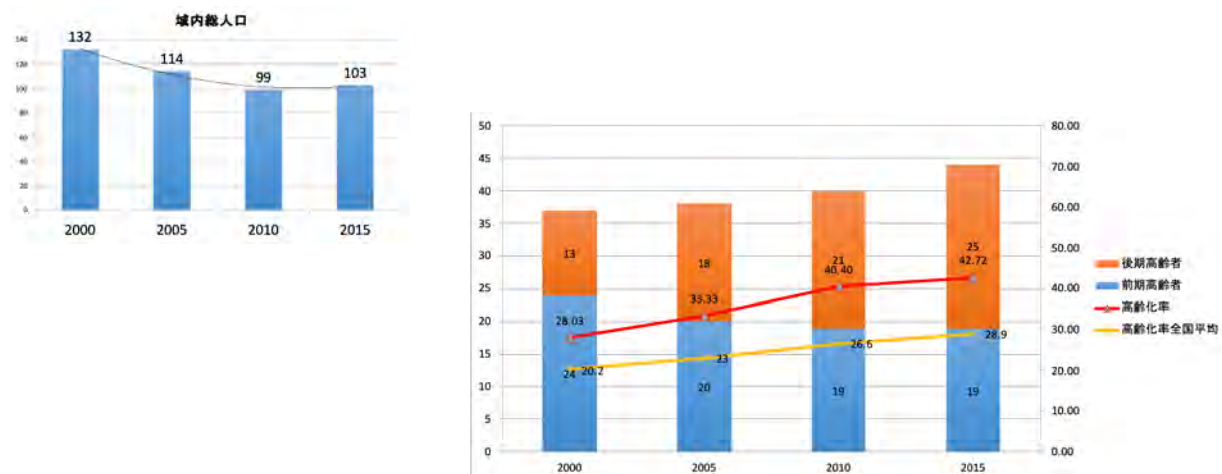
1

T1の人口の状況（住基ベース）



2

T2の人口の状況（住基ベース）



3

インタビュー調査

T1

- 区長経験それぞれ2回の元役員の方
- 集会所にて、1.5H程度実施
- 令和4年10月17日夕刻

T2

- 現在の区長
- 玉城町役場にて、1.0H程度実施
- 令和4年10月27日

4

インタビュー調査の結果（抜粋）

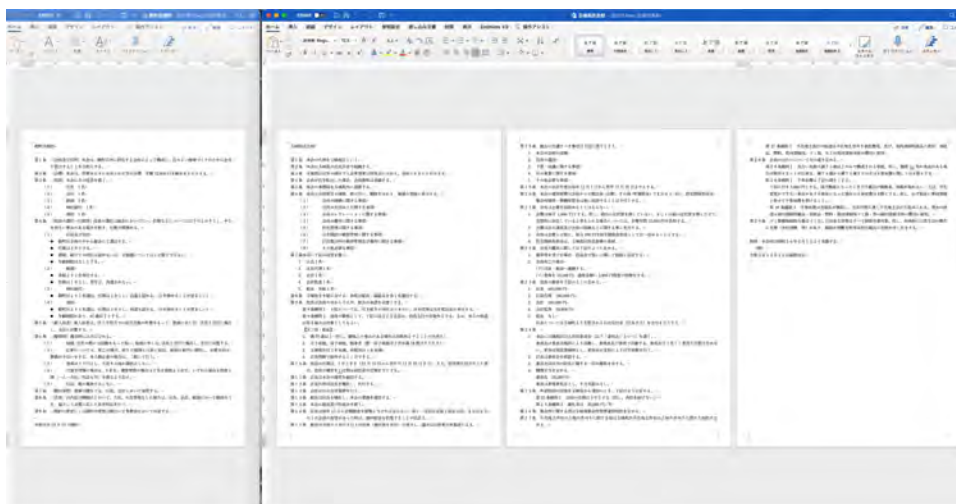
- 会則に従って運営しているので問題が少ない。
- もともと他人同士なので親睦する機会が必要だった。集会所が小さいので、普段集まることができないので祭りなどを必要としたのではないかと。
- 現在203世帯（ピーク時208世帯）、8組あり、組長は持ち回り
- 売れ残りの土地が今でも売買されている、260区画が最大
- 住宅地の中で分家していく、近くに親子で住んでいると利便性が高い、子育ての支援など
- 始まった当時はみんな若かったが、その中でも年配の方をお願いしていた。その後、チームを作って持ち回りの制度になった。その中でもなり手が不足してきている。
- 加入率は100%、防犯灯の下をみなさん必ず通りますよね？という形での説明をしている。
- 広報については、区長から組長に部数を分けて届ける。原則組長が各戸に配布するのが原則
- 出合いは区で一斉、個人の草刈り機と16台購入しを各組に配置してあるので、それを使う

T2

- 以前はT2通り商店街といわれた150m程度の地域であるが、かつては右側に17件、左側に18件であった。かつては、映画館、パチンコなどがあり賑わっていた。かつては夜店も人気があった。昔の様相はどこにもない
- 区内は現在28世帯。10年前に区長をしたときは、一番若かったが、今回はそうでもなくなった。
- 働きに出ている人は区の運営などは難しいと思うので、役員が高齢者になりがちである。役場の開庁時間のこともある。
- 役員の任期は2年、期は1～12月である。
- 大きな部分が寺社の持ち物の土地を借りており、檀家との関係もあり、入れ替わりができない状況である。
- 平成29年の台風21号では床上40センチ浸水、車や一階にあった家電はすべてだめになった。その際に昔の写真の多くがだめになった。
- 空き地、空き家、役員のなり手、住民の高齢化が課題
- 区長が防災のための資料を作成して、区民に配布、災害時要配慮者についてリスト化して管理している

5

規約調査



912 : 2322 2倍以上の差

6

規約調査（目的）

T1

➤ 第6条 本会は会員相互の連絡、助け合い、親睦をはかり、地域の発展に寄与する。

- (1) 会員の連絡に関する事項
- (2) 区民の生活向上に関する事項
- (3) 会員のレクリエーションに関する事項
- (4) 会員の慶弔に関する事項
- (5) 防災管理に関する事項
- (6) 公共施設の維持管理に関する事項
- (7) 区民集会所の維持管理及び運用に関する事項
- (8) その他必要な事項

例示列举方式

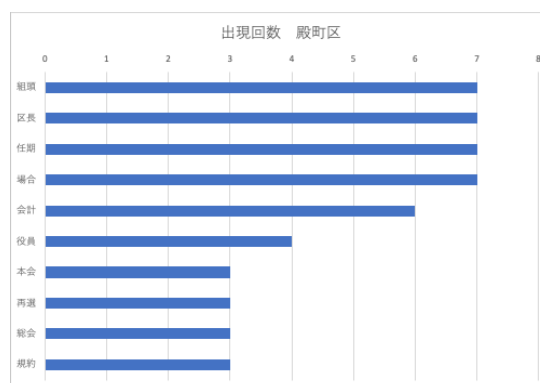
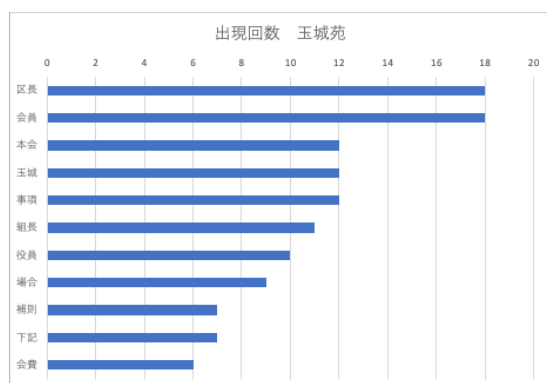
T2

➤ 第1条（会員及び目的）本会は、T2区内に居住する会員によって構成し、住みよい地域づくりのために全員が協力することを目的とする。

概括提示方式

7

規約調査（頻出語）



8

規約調査 (ワードクラウド)

T1

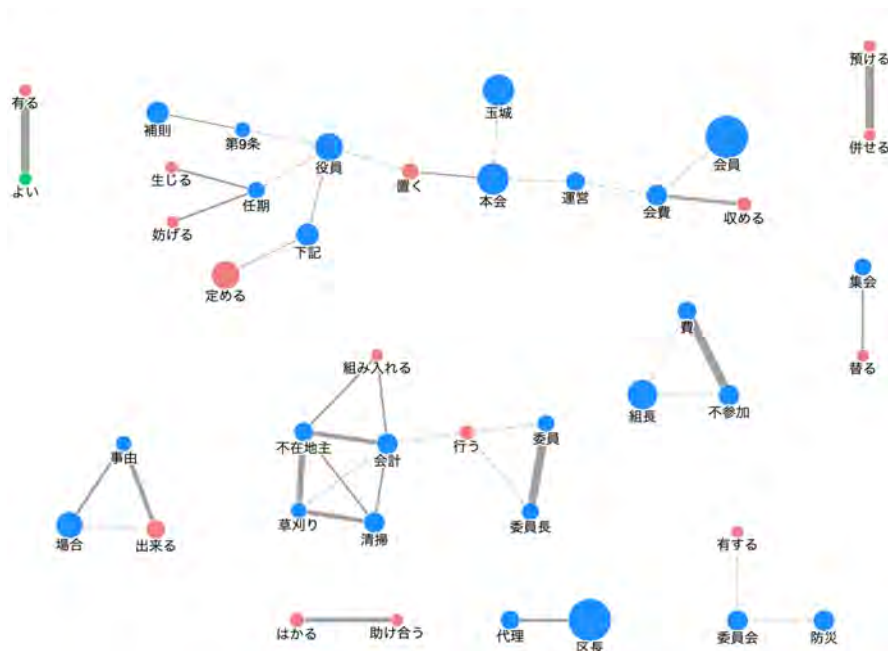
T2



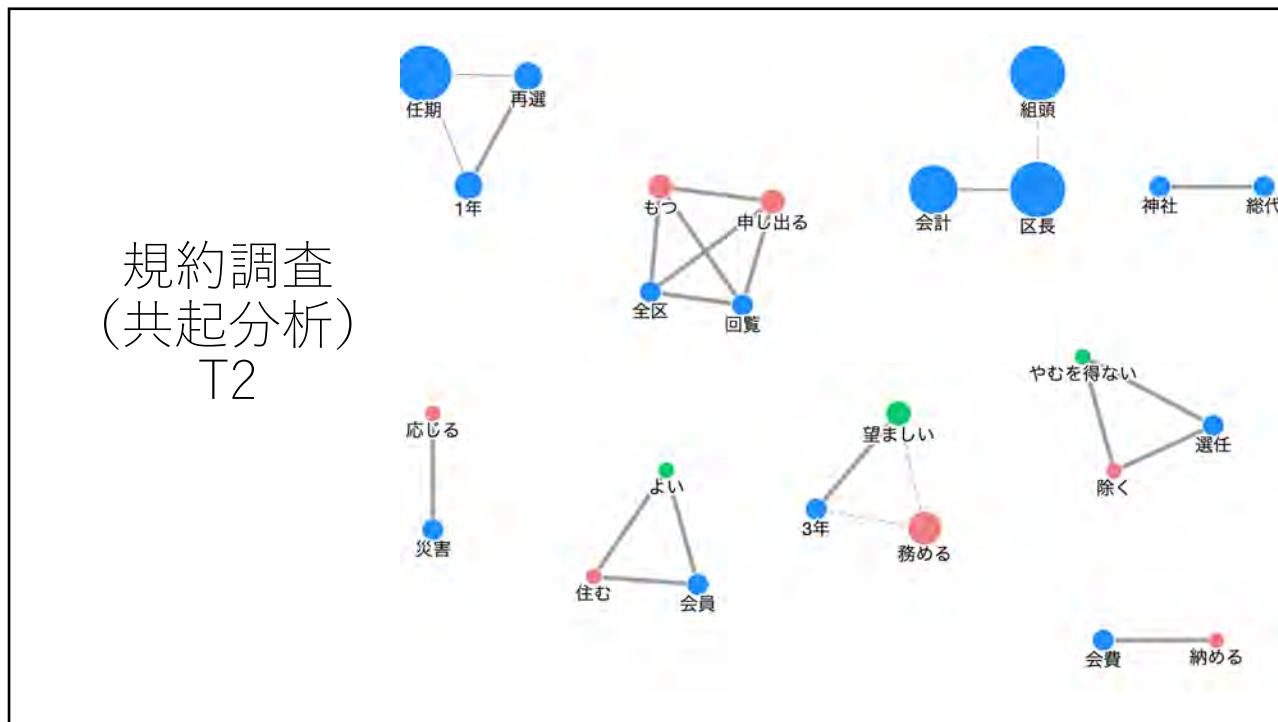
旧慣、伝統による抑制と、権利意識

9

規約調査 (共起分析) T1



10



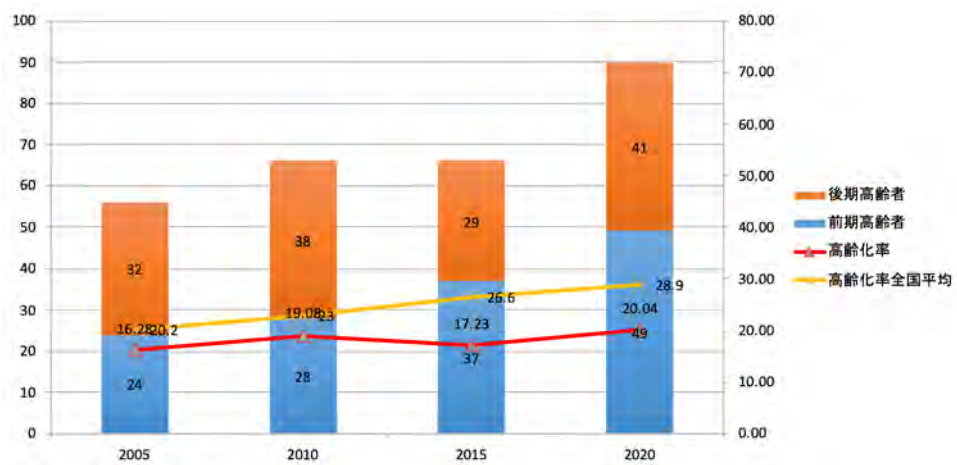
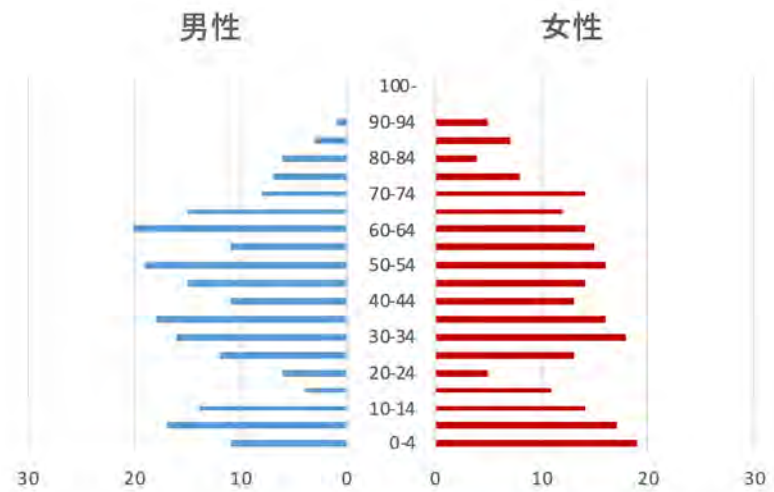
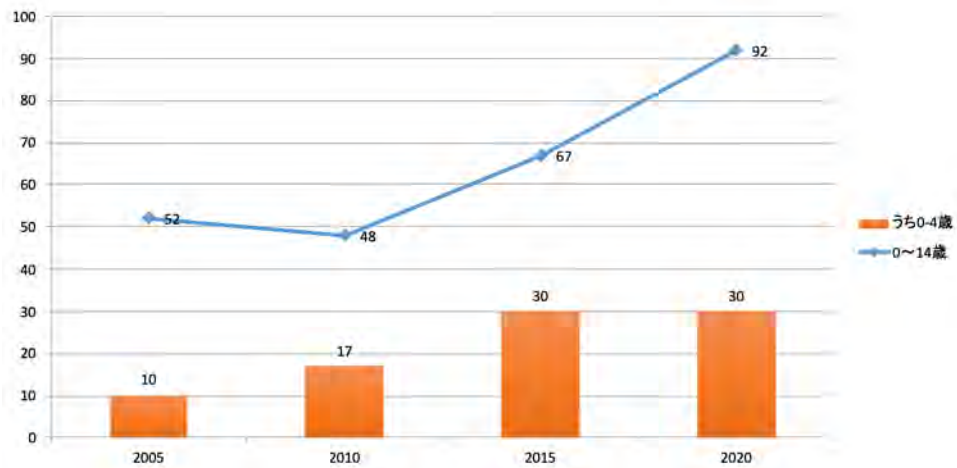
11

まちづくりアンケート報告

令和4年度玉城町明るい未来づくりに関する調査研究業務

令和5年2月24日 野篠区において

皇學館大学教育開発センター准教授 池山敦

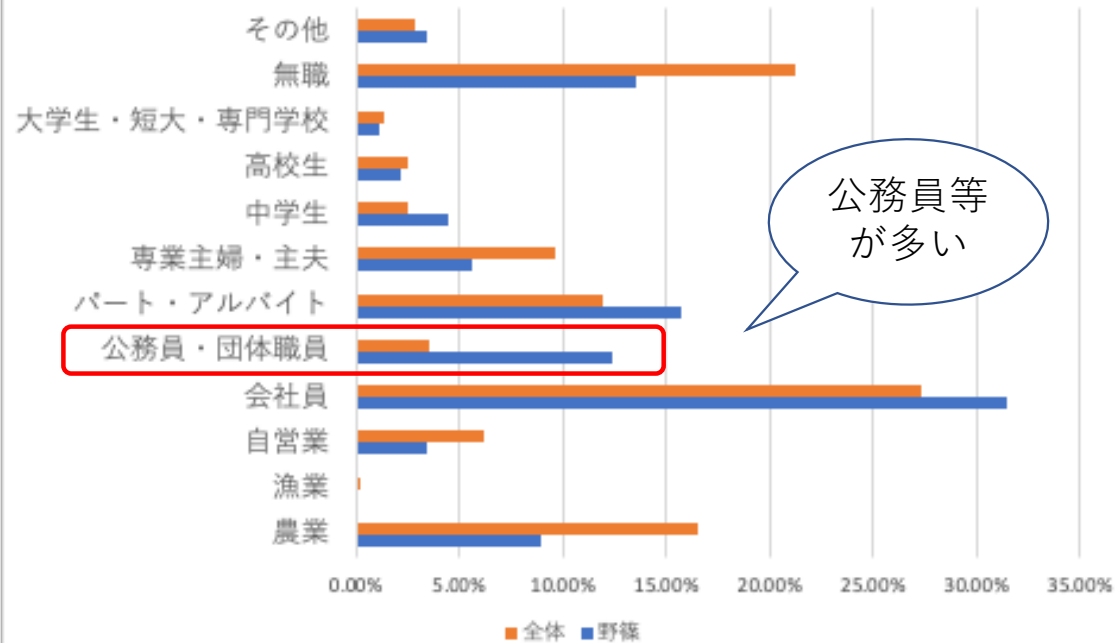


アンケート概要

- 地域：玉城町野篠区
- 対象：住民基本台帳上の全世帯
- 配布・回収：郵送配布・郵送回収
- 期間：令和4年6月29日～7月15日
- 配布数：109世帯、257通
- 回収：89通
- 回収率：34.6%

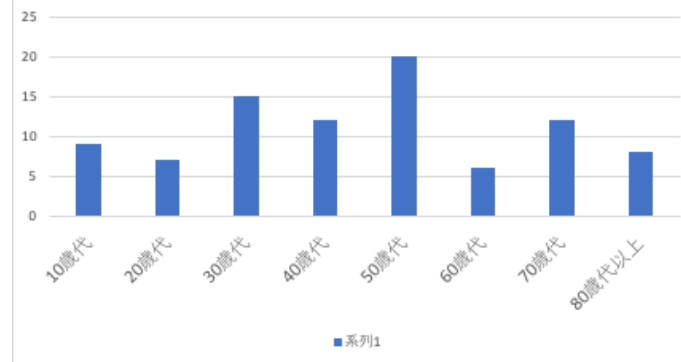
※過去実施地域：（宮古、岩出）（昼田、山岡、小社、曾根）、
山神

職業比較

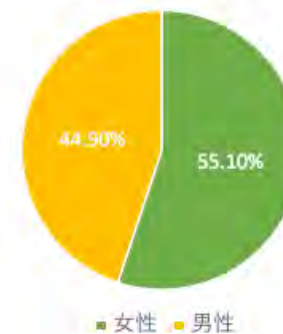


公務員等が多い

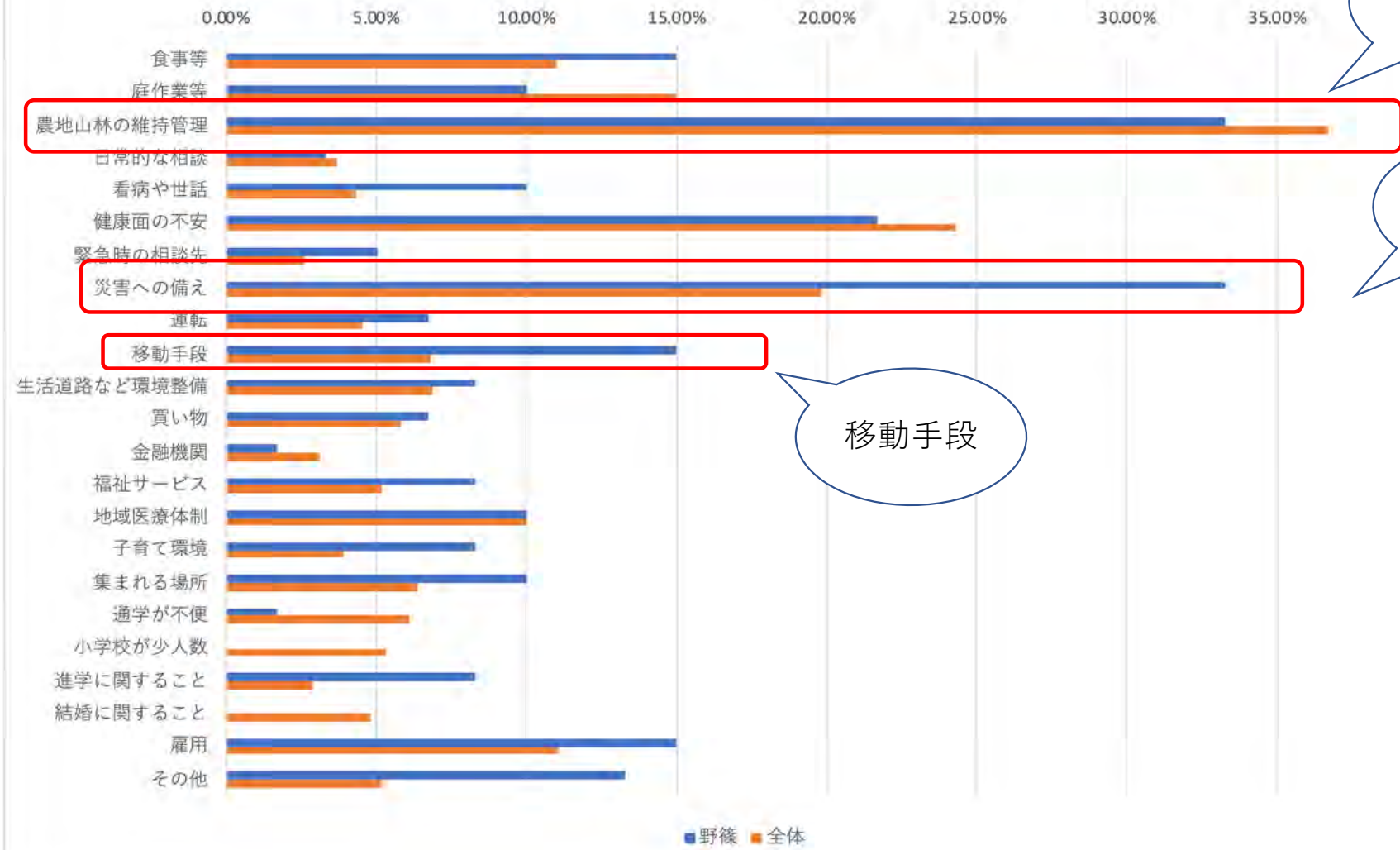
回答者年齢



回答者男女比



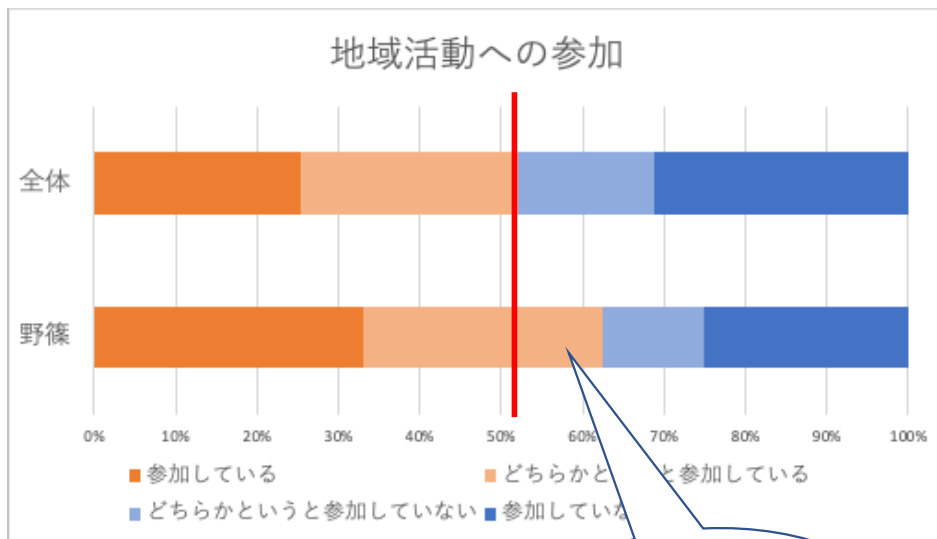
困りごと比較



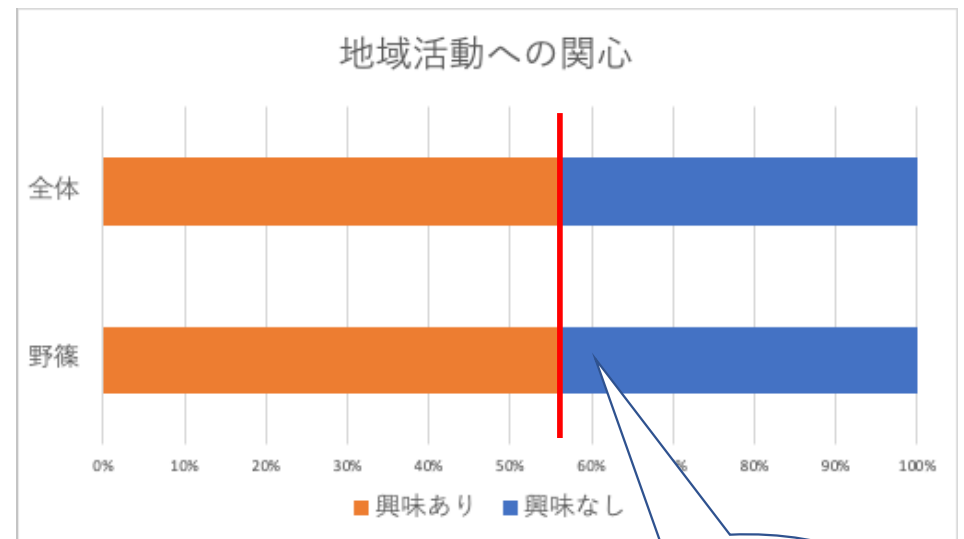
農地山林の維持管理

災害への備え

移動手段

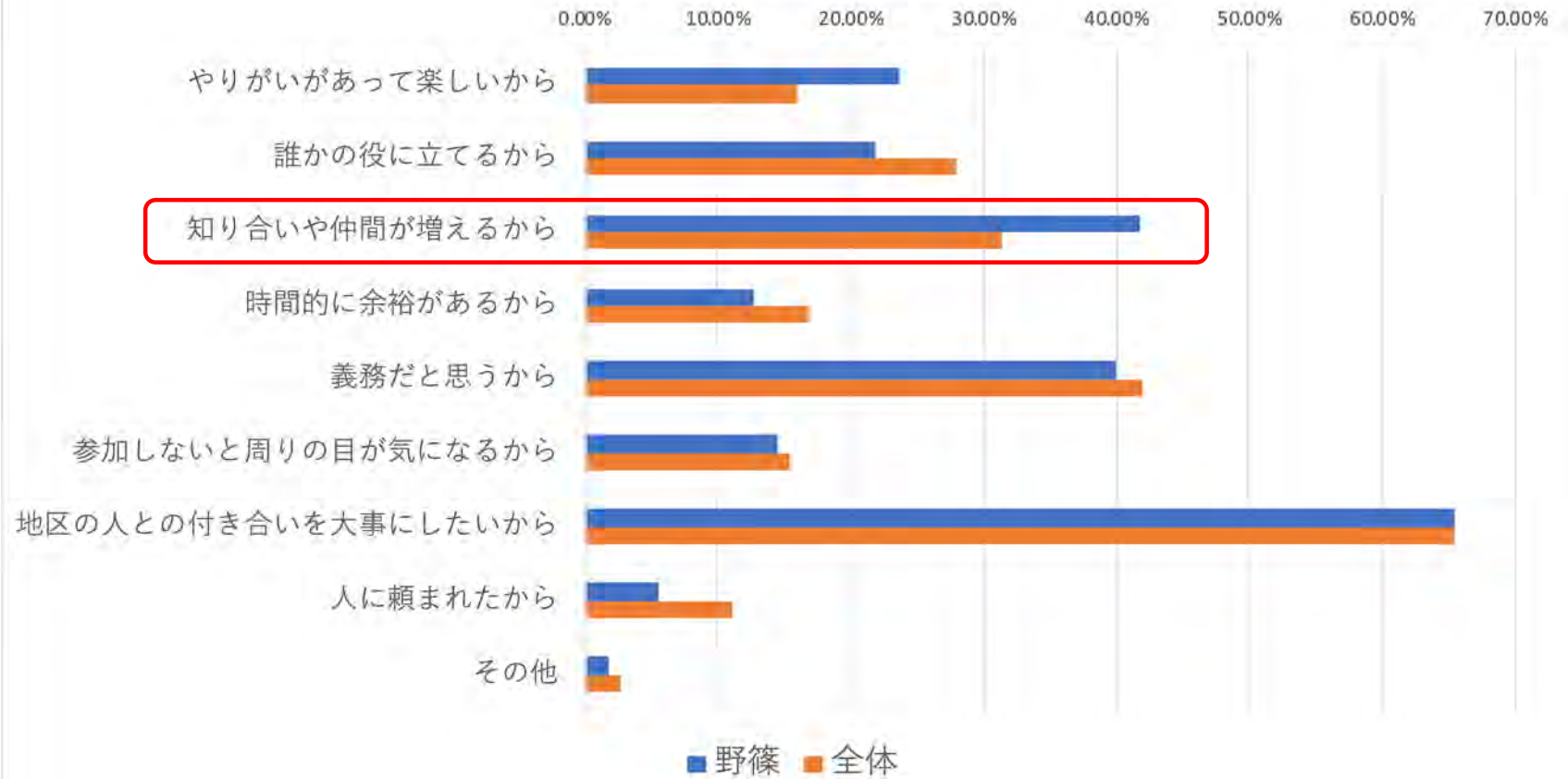


全体より参加が多い

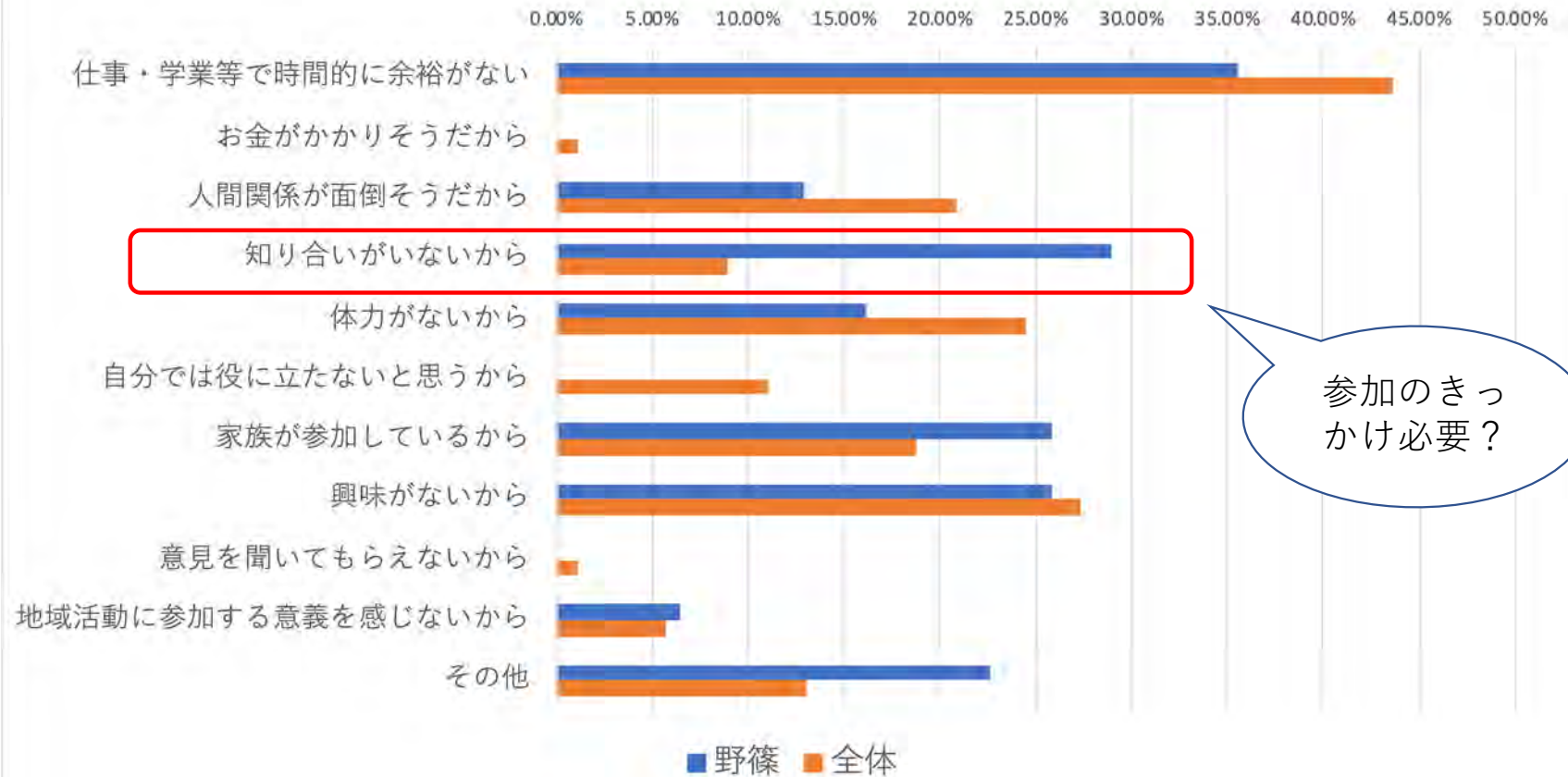


関心は同様

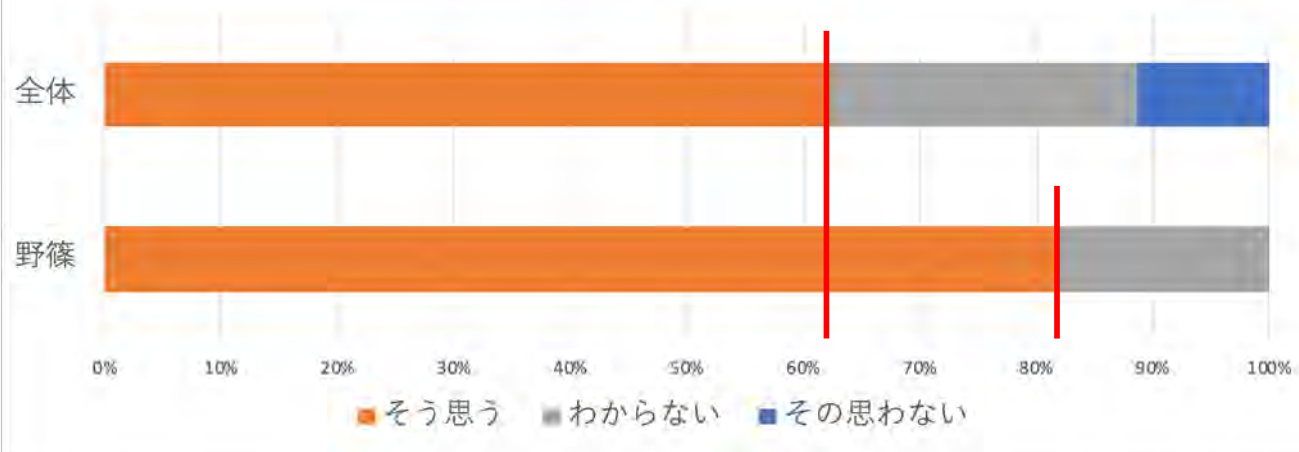
参加の理由比較



不参加の理由比較

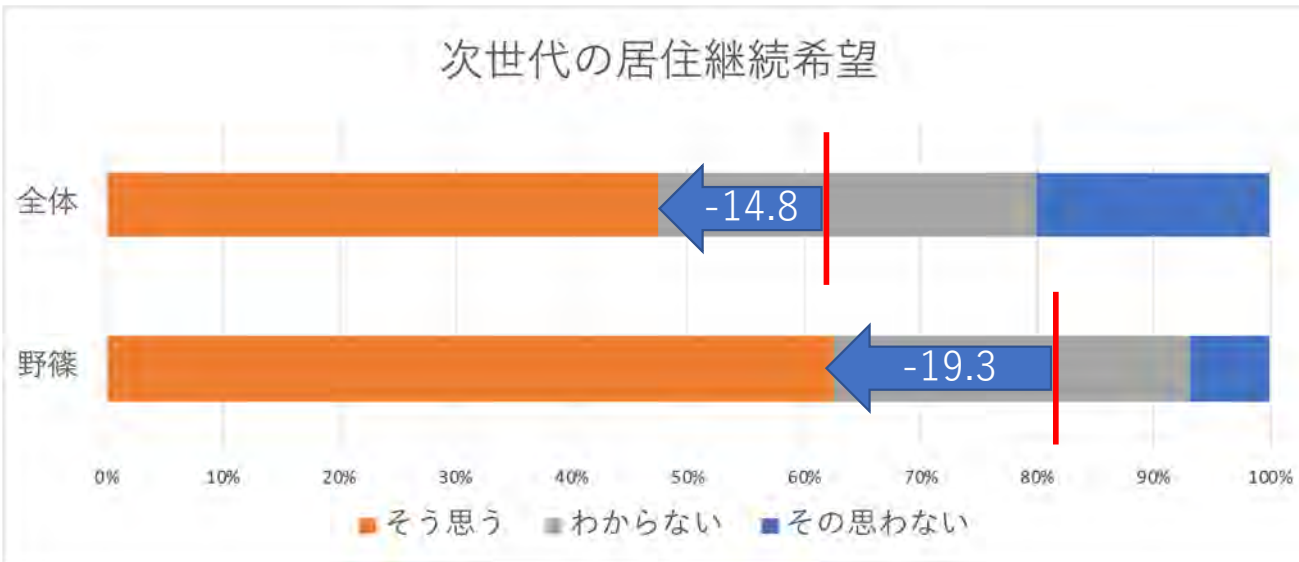


居住継続意思



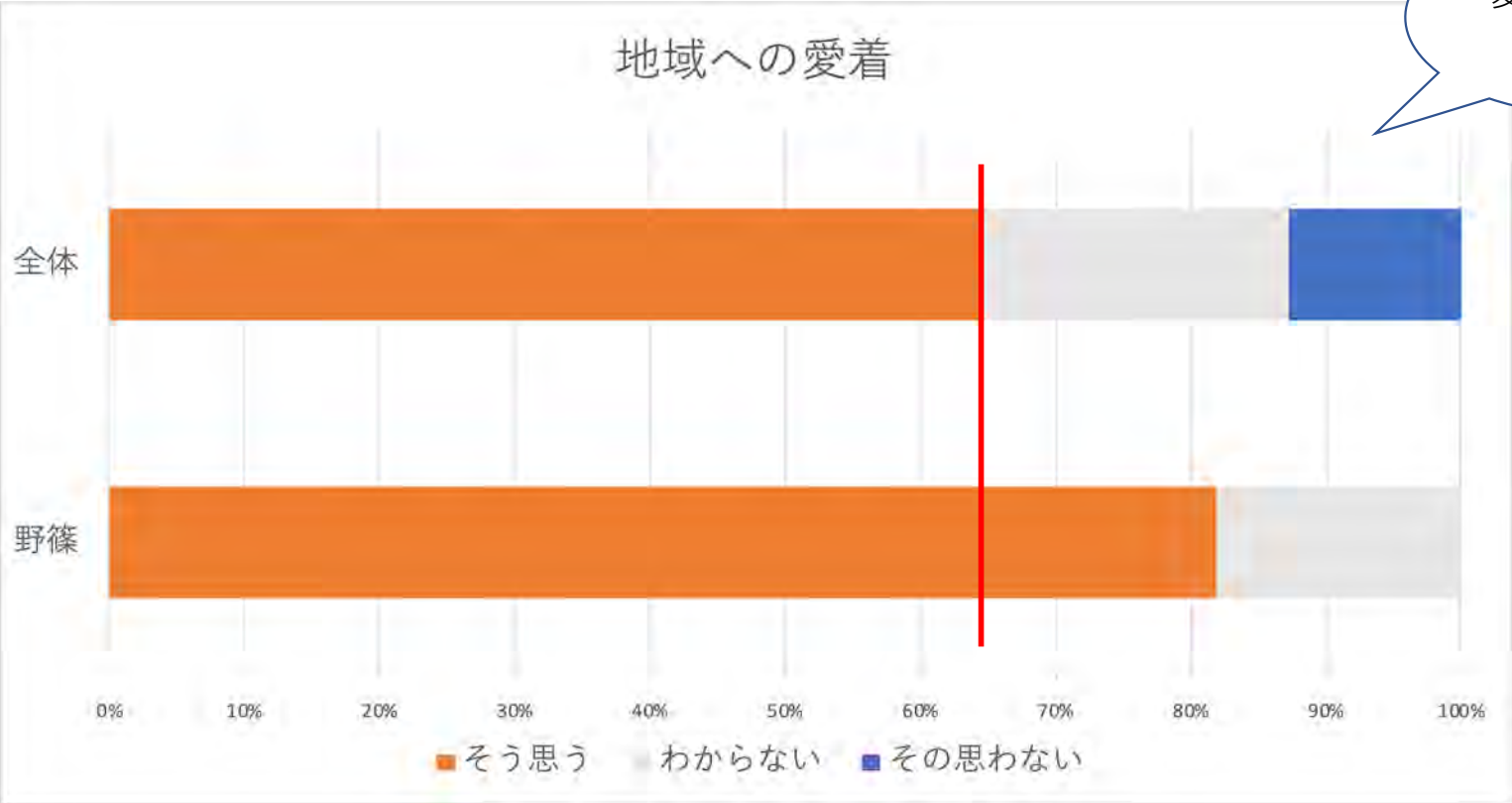
全体より住み続けたい人が多い

次世代の居住継続希望



子供は？と尋ねられると。。。

地域への愛着



令和4年度玉城町明るい未来づくりに関する調査研究業務
玉城町地域コミュニティのあり方研究会からの提案

令和5年2月24日
皇學館大学教育開発センター 池山敦、委員一同

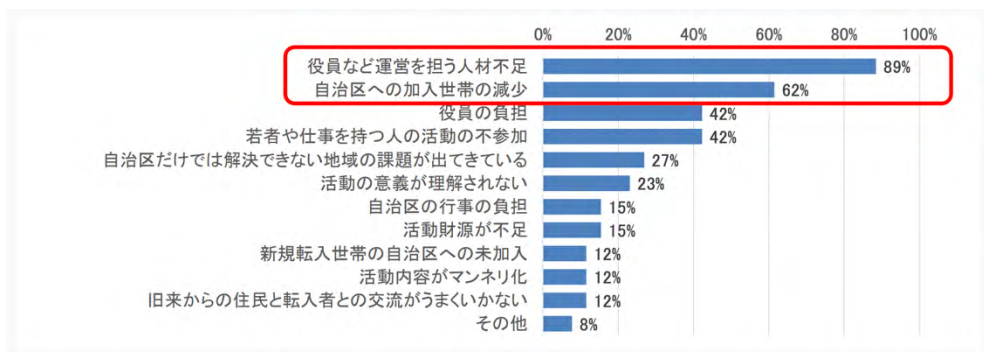
1. 現状認識

玉城町においては古くからその居住地区として、城下、農村の類型が存在し、その後新しく住宅地が開発され、多くの町民がこの3つのタイプのいずれかの地域で暮らしている。これまで、それぞれの地域の慣習や話し合い等をもとに人々は協力しあいながら暮らしてきた。このことの価値は今昔何ら変わらない。しかし近年、社会情勢が大きく変化し様々な部分において、昔と全く同じでは暮らしにくく感じる住民が存在することも事実である。また本町においては転入者も一定数あり、人口維持の側面からは喜ばしいものの、人の「つながり」形成・維持の面で難しさもまた存在する。本町の「人口は平成 27 (2015) 年の 15,431 人 (住民基本台帳 15,730 人) をピークに、令和 2 (2020) 年では減少に転じています。世帯数は増加傾向が続いており、1 世帯あたりの人員は減少しています。平成 27 (2015) 年には 3 人を切り、令和 2 (2020) 年は 2.65 人/世帯まで減少し、核家族化、単身化が進 (第 6 次玉城町総合計画より) ¹⁾ んでいる状況である。

これまで、本町における地域コミュニティの基礎単位は「自治区」と呼ばれ、それは一般的な地縁組織で自治会等と同様のものである。現在本町内には 69 自治区が存在する。自治区においては、近隣住民の親睦を深め、また町からの委託業務 (広報紙配布等) を担うなど、住民の生活基盤を支えている。

2. そこにある課題

(ア) 地域における人材不足



令和 3 年度に本町が全 69 自治区の区長を対象として実施した調査 (以降、調査 1) によると、区長の 74% が区長の仕事を「大変だ」と感じている²⁾。また、89% の区長が「役員など運営を担う人材不足」

が今後の課題であると回答している。区長の平均年齢は 57 歳であり、その 69.2% が 60 歳代以上である。また、同時に小学生以上の町民 14,116 人を対象に実施した調査³⁾ (以降、調査 2) によると、60 代の男性 67.2%、女性 46.4% が何らかの形で働いていることがわかる。65 歳定年化、再雇用などにより地域に人材が戻るタイミングが遅くなっており、そのことが人材不足に拍車をかけていることが伺える。このように、地域における人材不足が課題のひとつであると考えられる。

(イ) 自治区加入率の減少

調査 1 によると、区長の 62% が今後の課題として「自治区への加入世帯の減少」を上げており、調査 2 では「あなた自身、または、あなたの家族は、自治区に入っていますか」という設問に対して、84.1% の回答者が「はい」と回答している。一方、町で把握している自治区への加入率は 70% 台であり、若干の差はあるものの、「全世帯加入」であるとは言いにくい状況となっている。地域自治会はその性質の一つに「全世帯加入性」を持つと一般的にいわれており、その性質を基礎とする「地域代表性⁴⁾」について、ひいては自治区の持続可能性についても懸念が持たれる。このように、自治区加入率の減少も課題のひとつである。

(ウ) 地域における目的別活動の低調

¹⁾ <https://kizuna.town.tamaki.mie.jp/chosei/gyokaku/shisaku/documents/dai6souougoukeikaku.pdf>

²⁾ <https://kizuna.town.tamaki.mie.jp/news/documents/kutyout0601.pdf>

³⁾ 有効票は 6,141、回収率は 43.5% であった。

⁴⁾ ここでは、「その地域の利害を代表するのはどの組織なのか」といった意味である。

調査2によると、町民の45%が自治区の活動に参加している、と回答しており、これは全国調査の内容ともほぼ同じである⁵。一方、自治区以外の活動に関して、「あなた自身が、今後地域の中でやってみたい、参加したい活動は何ですか」という設問に対し、複数回答ではあるが「生き物観察など地域の自然を守る活動」や「歴史や文化を伝える活動」等の13項目についていずれも3～10%程度と低い水準である。また、同設問に対する「わからない」旨の回答が、34.1%と高率になっていることから、地域での過ごし方の中で広い意味での「地域活動」の姿のイメージが持ちにくく、それらに対する啓発及び支援策が乏しいことが考えられる。このように、地域における目的別活動の低調も課題のひとつである。

3. 解決策

(ア) 解決策の方針について

① いわゆる「まちづくり協議会制」について

近年、地域課題の解決のための組織としていわゆるまちづくり協議会⁶が各地で設立されている。その数は全国で6,000を超える⁷。多くの場合、町村合併に伴い広域化したエリアに対して主に地域課題の解決につき、事業型でアプローチしていく組織、ととらえることができる。本町においてこのいわゆるまちづくり協議会制の導入の是非についてであるが、次のような理由により少なくとも現時点では導入には及ばないと考える。まず、本町においては平成時代において合併を行っておらず、広域化に対応するという点では必要性が低い。次に、上述の通り現在の自治区の運営における課題の大きなものが「自治区役員の業務負担が大きいこと」「役員など運営を担う人材不足」であるならば、自治区より広い範囲での協議会制を敷き、自治区を廃止するのではない限り必要な役員の絶対的人数が増加することになる（あるいは、兼務が更に進む）ことになり、さらなる負荷を強いることになる可能性がある。しかし、事務局機能を外部化するなどの方法を取る場合にはこの点が解消され、この限りではない。そもそも、地域には重層的に組織が存在することそのものは望ましいことであることは間違いがない。

② 地縁・目的別の「つながり」の考え方に基づく解決策の方針

これまで述べたとおり、本町においては地域コミュニティにおいて次の3つの点が課題である。(ア) 地域における人材不足、(イ) 自治区加入率の低下、(ウ) 地域における目的別活動の低調、である。古くから、私達の社会生活における組織の形成について「コミュニティ」「アソシエーション」の2つが考えられてきた。端的にいうと近隣に住まいしているという地縁による「つながり」と趣味や楽しみなどの目的縁による「つながり」といえる。誰一人取り残さず、将来において持続可能な地域コミュニティを考える上で、この両者がバランス良く存在することにより、住民が安心・安全にそして豊かな地域生活を送ることができると考えられる。そこで、本提案ではこの2つのつながりが地域コミュニティにおける重要な両輪であることを確認し、それぞれを維持し、育み伸ばしていくことが必要であると考えられる。

地縁による「つながり」は生活スペースの物理的な近さを伴い、それは災害発生時の助け合いや日常生活の困り事解決等の際に非常に重要であることは言うまでもない。現代では地域の「つながり」に求めるものは人により、あるいは生活スタイル等により異なる。しかし、地縁のつながりの希薄化は災害発生時や危急時などにこぼれ落ちてしまう人が発生してしまう可能性を孕んでいる。そのため、地縁によ

⁵ 令和元年国民健康・栄養調査結果の概要（地域行事や町内会への参加43.0%）

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000687163.pdf>

⁶ 一般名称としては「地域運営組織」などと呼称され、総務省によると「地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織」とされる

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/chiiki_unneisosiki.html

⁷ 令和3年度「地域運営組織の形成及び持続的な運営」に関する調査研究事業において把握した市区町村別の地域運営組織数 https://www.soumu.go.jp/main_content/000820920.pdf

る「つながり」を一定程度維持し、増進することが必要である。

また地縁以外の「つながり」は趣味や嗜好、社会参加の度合いなどにより特に多様である。また、近年ではインターネット・SNS等を通じて遠方の同好者につながることも多い。しかし、地域生活の豊かさの観点からも比較的近い距離の中で趣味や嗜好、社会参加の度合いなどに合わせて、住民が希望する活動に参加すること等を通じて目的別の「つながり」を作ることができることが必要である。

(イ) 具体的解決策

① 地域における人材不足に対する解決策

A) 自治区業務についての見直し

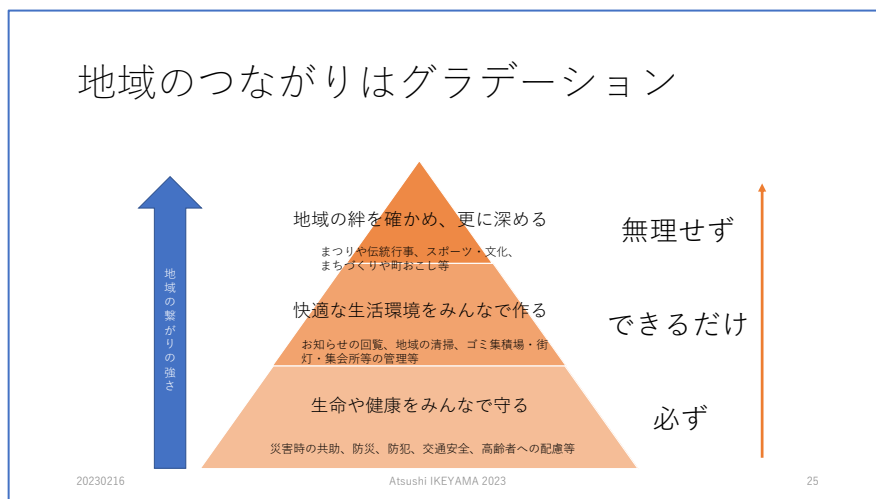
現状では、役場各課よりそれぞれの所掌により自治区に対して依頼が行われているのが現状である。そのことが、全体像を把握しにくくさせ、重複や二度手間などが発生している可能性がある。あるいは、本来なら区長でなくても良い業務も頼みやすさなどから区長に依頼している業務もある可能性がある。そこで役場各課、区長への双方のヒアリング調査等を実施し、依頼事項を棚卸した上で、省略できるものは省略し、兼ねられるものは兼ねるなどし、自治区への役場からの依頼業務の圧縮を積極的に検討する。

B) 地域人材育成のための社会教育プログラムの実施

中央教育審議会の答申によると「持続可能な社会づくりを進めるために、住民自らが担い手として地域運営に主体的に関わっていくことが重要」であり、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」の「学びと活動の好循環」が重要とされる⁸。本町では令和4年度実験的に実施した「玉城町コミュニティ活動実践講習」に関し、さらに内容を充実させた上で、「たまきまちづくり大学（仮称）」として定常化する。高等教育機関等との連携の中、人生100年時代における地域活動の担い手人材にとって必要な知識、実践を学ぶ場をつくる。

また、平成30年度より取り組んできている「玉城町明るい未来づくりに関する調査研究業務」で実施してきた、子供まちあるき、模型ワークショップ、アンケート調査なども同じ考え方のもと、住民のボトムアップでの地域への関心、将来のUターン意識の醸成とともに、社会教育プログラムの一つとして引き続き実施する。

② 自治区加入率の低下に対する解決策



本町においては現在においても一定数の流入人口があるものの、前述の通り反面そのことが地域の結びつきを薄めていることも否めない。また、昨今の少数世帯化を考慮すると、今後さらに集合住宅などでの一人暮らしが増えることも考えられる。そこで、

自治区加入及び地域活動への参加に向けての住民及び住宅開発業者などへのメッセージを作成し、広く周知する。その内容としては例えば、住民に対しては令和4年に作成した「地域の

⁸ 「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）概要」（平成30年12月21日中央教育審議会）より

つながりスケール（仮称）」等を示し、地縁の「つながり」において住民に必ずお願いしたいこと、できたらしていただきたいこと等を一定程度具体的に示す。そのことで、自治区加入率の維持・改善を目指すとともに、地域の中で孤立し、こぼれ落ちる住民が出ないようにする。あるいは住宅開発業者等に対しては開発した宅地等に入居する新住民に対して自治区への加入の促進について重要事項説明の際等に説明することを依頼する、といったものを検討する。

③ 地域活動の低調に対する解決策

令和5年度に第1回を開催する「たまき人博覧会」を定期開催する。美術イベントとしてのトリエンナーレなどを参考に、3年に一度あるいは2年に一度等の継続開催とする。合わせて「たまき町民活躍センター（仮称）」を設置し、目的別の縁である地域活動に対し中間支援を行う。

4. 効果と目指す姿

上記解決策を実施することにより次のような効果が期待できる。まず、①A) 自治区業務の見直しにより区長の負担を軽減する。あわせて、B) 地域人材育成のための社会教育プログラムの実施により、地域活動に関わることへの関心を高め、両面から地域に関わる人を増やしていくことができる。②において自治区加入率を現在の70%程度を少なくとも維持、可能であれば向上させる。そのことにより、自治区のもつ地域代表性を維持する。そして③では、地域での同好のつながりを増やすことで、地縁だけでなく目的縁も育み、ネットワークにつながっていない人を減らしていき、誰一人取り残さない持続可能な地域形成を目指す。

TMK ミライデザインプロジェクト

令和4年度 第21号 玉城町明るい未来づくりに関する調査研究業務報告書

令和5年3月8日発行

発行者 皇學館大学教育開発センター 准教授 池山敦